

平安京左京八条三坊九町跡

2010 年

財団法人 京都市埋蔵文化財研究所

平安京左京八条三坊九町跡

2010 年

財団法人 京都市埋蔵文化財研究所

序 文

歴史都市京都は、平安京建設以来の永くそして由緒ある歴史を蓄積しており、さらに平安京以前に遡るはるかなむかしの、貴重な文化財も今なお多く地下に埋もれています。

財団法人京都市埋蔵文化財研究所は、昭和 51 年（1976）設立以来、これまでに市内に点在する数多くの遺跡の発掘調査を実施し、地中に埋もれていた京都の過去の姿を多く明らかにしてきました。

これらの調査成果は現地説明会、京都市考古資料館での展示、写真展あるいはホームページを通じて広く公開し、市民の皆様に京都の歴史に対し、関心を深めていただけるよう努めております。

このたび、ビル建設に伴う平安京跡の発掘調査成果をここに報告いたします。本報告書の内容につきまして御意見、御批評をお聞かせいただけますようお願い申し上げます。

末尾ではありますが、当遺跡の調査に際して御協力ならびに御支援いただきました関係各位に厚く感謝し、御礼申し上げます。

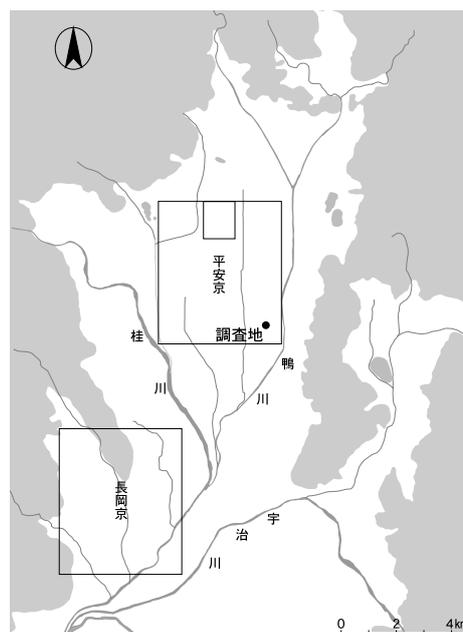
平成 22 年 3 月

財団法人 京都市埋蔵文化財研究所

所 長 川 上 貢

例 言

- 1 遺 跡 名 平安京左京八条三坊九町跡・東本願寺前古墓群
- 2 調査所在地 京都市下京区烏丸通七条下る東塩小路町 590 - 2 他
- 3 委 託 者 株式会社ヨドバシカメラ 代表取締役 藤沢昭和
- 4 調査期間 2009年10月15日～2009年12月25日
- 5 調査面積 721 m²
- 6 調査担当者 前田義明・布川豊治
- 7 使用地図 京都市発行の都市計画基本図（縮尺1：2,500）「島原」・「五条大橋」を参考にし、作成した。
- 8 使用測地系 世界測地系 平面直角座標系VI（ただし、単位（m）を省略した）
- 9 使用標高 T.P.：東京湾平均海面高度
- 10 使用土色名 農林水産省農林水産技術会議事務局監修『新版 標準土色帖』に準じた。
- 11 遺構番号 通し番号を付し、遺構の種類を前に付けた。
- 12 遺物番号 通し番号を付し、写真番号も同一とした。
- 13 本書作成 前田義明
- 14 備 考 上記以外に調査・整理ならびに本書作成には、資料業務職員および調査業務職員があたった。



(調査地点図)

目 次

1. 調査経過	1
2. 位置と周辺の調査	2
3. 遺 構	7
(1) 基本層序	7
(2) 平安時代の遺構	8
(3) 鎌倉時代の遺構	14
(4) 室町時代の遺構	19
(5) 江戸時代の遺構	20
4. 遺 物	21
(1) 平安時代の土器類	21
(2) 鎌倉時代の土器類	25
(3) 室町時代の土器類	27
(4) 輸入陶磁器	28
(5) 瓦類・埴類	28
(6) 石製品	29
(7) 金属製品	31
5. ま と め	33
付章 自然科学分析	35

図 版 目 次

図版1	遺構	1 池 550 (北東から)
		2 池 550 洲浜南西部 (南東から)
		3 池 550 洲浜西部 (北から)
図版2	遺構	1 第2面全景 (北から)
		2 井戸 323 (北から)
		3 井戸 472 (東から)
図版3	遺構	1 井戸 430 (北から)
		2 井戸 538 (北から)
		3 第1面全景 (北から)

- 図版4 遺構 1 建物1 (北東から)
 2 建物1 南東部 (南東から)
- 図版5 遺構 1 井戸8 (北東から)
 2 土坑7 (北から)
- 図版6 遺物 池550 出土土器
- 図版7 遺物 井戸471・521・538、土坑7 出土土器
- 図版8 遺物 土坑19 出土土器、輸入陶磁器

挿 図 目 次

図1	調査前全景 (北から)	1
図2	調査風景 (北西から)	1
図3	調査位置図 (1 : 5,000)	2
図4	調査区配置図 (1 : 2,000)	5
図5	北壁断面図 (1 : 100)	7
図6	第3面平面図 (1 : 250)	8
図7	池550 平面図 (1 : 100)	9
図8	池550 断面図 (1 : 80)	10
図9	第2面平面図 (1 : 250)	11
図10	井戸471・472・323・521 実測図 (1 : 20、1 : 40)	12
図11	井戸32・430・298・538 実測図 (1 : 40)	13
図12	第1面平面図 (1 : 250)	15
図13	建物1・柱穴列5 実測図 (1 : 100)	16
図14	井戸5・6 実測図 (1 : 40)	17
図15	井戸221 実測図 (1 : 40)	17
図16	井戸559・514・8 実測図 (1 : 40)	18
図17	溝2 断面図 (1 : 40)	19
図18	土坑7 実測図 (1 : 20)	19
図19	土坑16・19 実測図 (1 : 20)	20
図20	池550 出土土器実測図 (1 : 4)	22
図21	井戸521・471・472・323・32・298・430・538 出土土器実測図 (1 : 4)	24
図22	井戸5・6・221・559・8・514、土坑19 出土土器実測図 (1 : 4)	25
図23	土坑7・16 出土土器実測図 (1 : 4)	26

図 24	土坑 526・4、第 2 層出土土器実測図 (1 : 4)	27
図 25	軒瓦拓影・実測図 (1 : 4)	29
図 26	方形有孔埴拓影 (1 : 4)	30
図 27	石製帯飾具実測図 (1 : 2)	31
図 28	石製帯飾具	31
図 29	金属製品拓影 (1 : 2)	31
図 30	八稜鏡復元図 (1 : 1)	32
図 31	昭和 8 年頃の丸物百貨店 (烏丸通から、近鉄百貨店所蔵)	33
図 32	調査地点の層序模式柱状図	35
図 33	各地点の主要珪藻化石群集	38
図 34	各地点の花粉化石群集層位分布	41
図 35	1 地点の植物珪酸体含量	41
図 36	珪藻化石	49
図 37	花粉化石	50
図 38	植物珪酸体	51
図 39	種実化石	52

表 目 次

表 1	周辺調査概要表	3
表 2	遺構概要表	7
表 3	遺物概要表	21
表 4	錢貨一覧表	32
表 5	珪藻化石の生態性区分と環境指標種群	37
表 6	珪藻分析結果	39
表 7	花粉分析結果	42
表 8	植物珪酸体含量	42
表 9	種実分析結果	43

付 表 目 次

付表 1	掲載土器一覧表	53
------	---------	----

平安京左京八条三坊九町跡

1. 調査経過

調査地は平安京左京八条三坊九町および東本願寺前古墓群にあたる。八条三坊については平安時代前中期の記録はみられないが、後期になり四町が八条院漳子内親王領、五町は藤原顕隆・顕能の八条町尻第、美福門院得子の御所、平頼盛の邸宅など貴族の邸宅が建ち並んでいる。鎌倉時代から室町時代にかけては八条院領、東寺領八条院町となる。また、七条通に沿っては平安時代から栄えた東市から手工業を中心とした七条町へと移行している。

当該地は株式会社ヨドバシカメラにより、(仮称)京都ヨドバシビルが建築されることになり、当初、京都市文化市民局文化芸術都市推進室文化財保護課(以下「文化財保護課」という。)による試掘調査が実施された。4m四方のコンクリート基礎(フーチング)が残された中での試掘であったが、基礎と基礎の間に東西方向と南北方向の試掘トレンチを入れたところ、中世の土坑や柱穴が良好な状態で検出された。そのため文化財保護課から発掘調査の指導が行われ、本調査の運びとなった。フーチングが築かれている底面は遺構が検出される標高と近い高さであるため、フーチングを撤去すると遺構が破壊される可能性があったため基礎は残したまま本調査を行うこととなった。試掘調査の調査成果により室町時代、鎌倉時代、平安時代後期の遺構面が想定された。

近世以降は機械により掘削し、室町時代の面から人力による調査を開始した。機械掘削は2回に分けて行い、1次掘削はフーチングの上面まで大型のバックホーで掘削した(地表下0.5～0.7m)。その後2次掘削として小型のバックホーを導入し、基礎と基礎の間を近世以降の土層までを掘削した(地表下0.9～1.5m)。

全景写真はフーチングで遺構が隠れるところが多いため、撮影高度を確保する目的で北側に隣接する七条警察署の屋上から撮影した。通常の発掘調査の場合、遺構実測や遺物取上げ用に4mグリッドを設定するが、フーチングが残っていることにより4mグリッドの割付けが困難なため、任意に実測用の割り付けを設定した。また、遺物取上げはフーチングに番号を付し(F1～



図1 調査前全景(北から)



図2 調査風景(北西から)

F26)、基礎の北や東として取り上げた（F：フーチング、例：F 1 北・F 1 東）。

調査は3面に分けて調査を行った。第1面が鎌倉時代から室町時代、第2面は平安時代後期、第3面は平安時代前期から中期に相当する。第3面の平安時代の遺構面で検出した池の埋土は、有機物を多く含むシルト層であり、自然科学分析（土壌分析）に適した土壌堆積を示していた。このため当時の古環境を明らかにする目的で、調査の最終段階で土壌サンプルを採取し分析を行うこととした。また、池洲浜の石もサンプリングを実施した。

2. 位置と周辺の調査

調査地は現在東側を南流する鴨川によって形成された鴨川扇状地上に立地し、平安京の南東部に位置している。平安京遷都以前の遺跡をみると調査地の北方に位置する烏丸綾小路遺跡と南方に位置する烏丸町遺跡の中間地帯にあたり、古代以前の遺跡は希薄な地域である。遺跡の基盤層も扇状地の砂礫層によって形成されている。

七条大路以南の調査地周辺では、平安京遷都後も平安時代中期頃まで自然流路や湿地が確認されており、開発は進んでいなかったと類推される。平安時代中期までの流路が検出された調査地

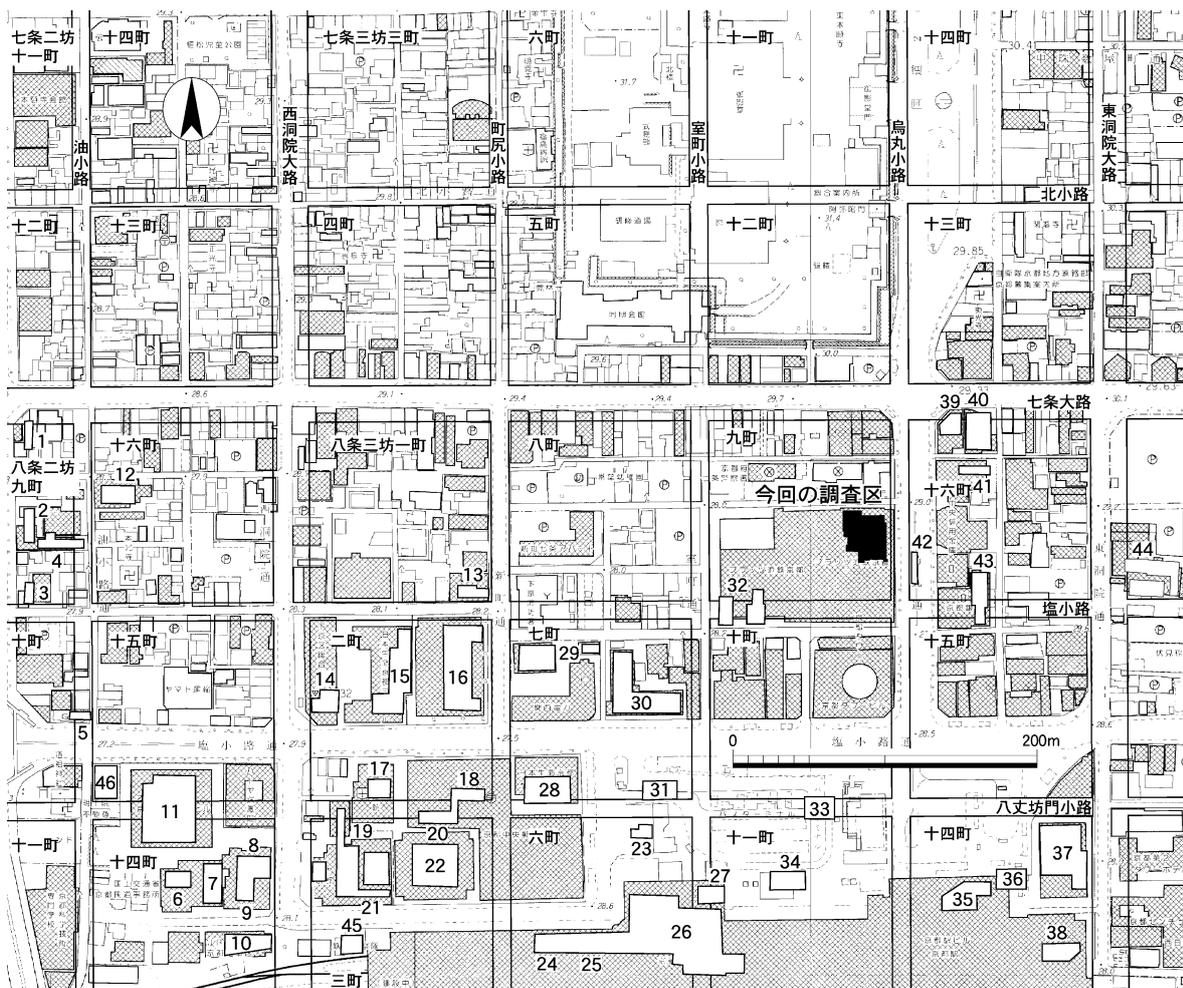


図3 調査位置図（1：5,000）

表1 周辺調査概要表

番号	条坊・町	調査概要	文献
1	八条二坊九町	平安中期以降の井戸・土坑・柱穴	『平安京左京七条二坊・八条二坊』『昭和60年度 京都市埋蔵文化財調査概要』(財)京都市埋蔵文化財研究所 1988
2	八条二坊九町	平安中期以降の通路・井戸・土坑・柱穴	『平安京左京七条二坊・八条二坊』『昭和60年度 京都市埋蔵文化財調査概要』(財)京都市埋蔵文化財研究所 1988
3	八条二坊九町	平安中期～後期の通路、平安時代中期以降の井戸・土坑・柱穴	『平安京左京七条二坊・八条二坊』『昭和61年度 京都市埋蔵文化財調査概要』(財)京都市埋蔵文化財研究所 1989
4	八条二坊九町・油小路	平安～江戸の油小路路面・西側溝、平安の土坑・柱穴、鎌倉～室町の井戸・土坑・柱穴	『平安京左京八条二坊』『昭和60年度 京都市埋蔵文化財調査概要』(財)京都市埋蔵文化財研究所 1988
5	八条二坊十町・油小路	平安～室町の油小路路面・西側溝、平安後期～鎌倉の井戸・溝・土坑・柵・柱穴、室町の溝・土坑・炉、室町の鋳型・埴埴出土	『平安京左京八条二坊』『平安京跡発掘調査概報 昭和57年度』京都市文化観光局 1983 『左京八条二坊』『昭和57年度 京都市埋蔵文化財調査概要』(財)京都市埋蔵文化財研究所 1984
6	八条二坊十四町	平安後期の建物、鎌倉の土坑・柱穴、室町の井戸・溝・土坑・柱穴・木棺墓、室町の鋳型・埴埴・金属滓出土	『平安京左京八条二坊1』『平成9年度 京都市埋蔵文化財調査概要』(財)京都市埋蔵文化財研究所 1999
7	八条二坊十四町	平安前期の溝・土坑、平安後期の溝、鎌倉の井戸、室町の土坑・木棺墓・犬墓、鋳型・埴埴出土	『平安京左京八条二坊』『平成11年度 京都市埋蔵文化財調査概要』(財)京都市埋蔵文化財研究所 2002
8	八条二坊十四町	平安前期の池状遺構、平安後期の溝、鎌倉～室町の井戸・土坑・柵・柱穴・木棺墓、鎌倉の鋳型・埴埴・輪羽口出土	『平安京左京八条二坊1』『平成8年度 京都市埋蔵文化財調査概要』(財)京都市埋蔵文化財研究所 1998
9	八条二坊十四町	平安後期の溝、鎌倉～室町の井戸・土坑、鎌倉～室町の鋳型・埴埴出土	『平安京左京八条二坊2』『平成8年度 京都市埋蔵文化財調査概要』(財)京都市埋蔵文化財研究所 1998
10	八条二坊十四町	平安前期の土坑、平安後期～鎌倉前半の井戸・溝・土坑・柱穴、鎌倉後半～室町前半の井戸・土坑・柱穴、鎌倉の鋳型・輪羽口出土	『平安京左京八条三坊』『平成7年度 京都市埋蔵文化財調査概要』(財)京都市埋蔵文化財研究所 1997
11	八条二坊十四町・十五町・八条坊門小路	平安後期～室町初頭の八条坊門小路路面・両側溝、平安後期の井戸・溝、鎌倉～室町の井戸・土坑・柱穴・炉・埋甕・木棺墓、鎌倉～室町の鋳型・埴埴・輪羽口・金属滓出土	『平安京左京八条二坊2』『平成9年度 京都市埋蔵文化財調査概要』(財)京都市埋蔵文化財研究所 1999
12	八条二坊十六町	平安の井戸・溝・土坑・池状遺構、鎌倉～室町の井戸・土坑・柱穴、鎌倉の埴埴出土	『平安京左京八条二坊』『昭和62年度 京都市埋蔵文化財調査概要』(財)京都市埋蔵文化財研究所 1991
13	八条三坊一町	古墳～平安の流路、平安後期の建物・井戸、鎌倉前半の建物・土坑、鎌倉後半～室町の井戸・土坑・埋甕・墓、鋳型・埴埴出土	『京都第3タワーホテル新築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査平安京左京八条三坊跡』(財)京都市埋蔵文化財研究所 1978
14	八条三坊二町・西洞院大路	江戸の西洞院川	未刊行
15	八条三坊二町	平安前期～中期の流路、平安後期～鎌倉の井戸・溝・土坑・柱穴・埋甕・木棺墓・土壇墓、鎌倉の鋳型出土	『平安京左京八条三坊二町-第2次調査-』古代学協会 1985
16	八条三坊二町	平安前期～中期の流路、平安後期～鎌倉の井戸・土坑・柱穴、室町の墓、平安中期～鎌倉の鋳型・埴埴・輪羽口出土	『平安京左京八条三坊二町』古代学協会 1983
17	八条三坊二町	詳細不明	未刊行
18	八条三坊二町・八条坊門小路	平安後期の八条坊門小路北側溝・井戸	『平安京・左京八条三坊跡』『京都市埋蔵文化財研究所概報集1978-1』(財)京都市埋蔵文化財研究所 1978
19	八条三坊三町・八条坊門小路	平安後期の土坑、鎌倉～室町前半の井戸・土坑・柱穴、室町後半以降の耕作溝、鎌倉～室町の鋳型・埴埴出土	『平安京左京八条三坊2』『平成9年度 京都市埋蔵文化財調査概要』(財)京都市埋蔵文化財研究所 1999
20	八条三坊三町・八条坊門小路	詳細不明	未刊行
21	八条三坊三町	平安前期の土坑・溝、平安後期の土坑、鎌倉～室町の井戸・溝・土坑・柱穴・埋甕、鎌倉～室町の鋳型・埴埴・輪羽口出土	『平安京左京八条三坊1』『平成9年度 京都市埋蔵文化財調査概要』(財)京都市埋蔵文化財研究所 1999
22	八条三坊三町	平安中期の流路、平安後期～鎌倉の井戸・溝・土坑・柱穴、室町の建物・井戸・溝・土坑・柱穴、桃山～江戸の耕作溝、鎌倉～室町の鋳型・埴埴・輪羽口出土	『平安京左京八条三坊1』『平成6年度 京都市埋蔵文化財調査概要』(財)京都市埋蔵文化財研究所 1996
23	八条三坊六町・八条坊門小路	平安後期～室町の八条坊門小路路面・北側溝、鎌倉～室町の井戸・溝・土坑・柱穴、鎌倉～室町の鋳型・埴埴・輪羽口・金属滓出土	『平安京左京八条三坊1』『平成8年度 京都市埋蔵文化財調査概要』(財)京都市埋蔵文化財研究所 1998
24	八条三坊六町	平安後期～鎌倉の土坑、室町の溝	『左京八条三坊』『昭和57年度 京都市埋蔵文化財調査概要』(財)京都市埋蔵文化財研究所 1984
25	八条三坊六町	鎌倉～室町の井戸・溝・土坑・柱穴、鎌倉～室町の鋳型・埴埴出土	『平安京左京八条三坊』『平成5年度 京都市埋蔵文化財調査概要』(財)京都市埋蔵文化財研究所 1996

番号	条坊・町	調査概要	文献
26	八条三坊六町・十一町・室町小路	平安中期～後期の流路・井戸、平安後期～室町前半の室町小路路面・両側溝、鎌倉～室町前半の建物・竪穴状遺構・井戸・溝・土坑・柱穴・炉、室町後半の耕作溝、鎌倉～室町の鋳型・埴塙・輪羽口・金属滓出土	『平安京左京八条三坊2』『平成6年度京都市埋蔵文化財調査概要』(財)京都市埋蔵文化財研究所 1996
27	八条三坊六町・十一町・室町小路	室町小路路面・両側溝、室町の井戸	『平安京左京八条三坊-京都駅前地下街建設に伴う発掘調査-』(株)京都ステーションセンター・(財)京都市埋蔵文化財研究所 1980
28	八条三坊七町・八条坊門小路	奈良～平安中期の井戸、鎌倉～室町の八条坊門小路北側溝、平安後期～鎌倉の井戸・土坑・柱穴、室町の井戸・土坑・柱穴・炉・墓	『平安京左京八条三坊』『昭和60年度京都市埋蔵文化財調査概要』(財)京都市埋蔵文化財研究所 1988
29	八条三坊七町	平安中期～後期の井戸・土坑、鎌倉前半の井戸・溝・土坑・柱穴、鎌倉後半～室町の井戸・溝・土坑・柱穴・埋喪・土壙墓・銭貨埋納土坑、鎌倉～室町の鋳型・砥石・金属滓出土	『平安京左京八条三坊七町』京都文化財団 1988
30	八条三坊七町	平安前期～中期の流路・井戸・土坑、平安後期～鎌倉前半の井戸・溝・土坑・柱穴、鎌倉後半～室町の井戸・溝・土坑・柱穴、鎌倉～室町の鋳型出土	『平安京左京八条三坊』(財)京都市埋蔵文化財研究所 1982
31	八条三坊七町	平安前期～中期の流路、平安後期～鎌倉の井戸・土坑・柱穴、室町の井戸・溝・土坑・柱穴、鎌倉～室町の鋳型出土	『平安京左京八条三坊1』『平成8年度京都市埋蔵文化財調査概要』(財)京都市埋蔵文化財研究所 1998
32	八条三坊九町・十町・塩小路	平安後期～室町の塩小路路面と側溝・井戸・土坑・柱穴、平安後期～室町の鋳型・埴塙出土	未刊行
33	八条三坊九町・十町・八条坊門小路	平安の八条坊門小路路面と両側溝	『平安京左京八条三坊-京都駅前地下街建設に伴う発掘調査-』(株)京都ステーションセンター・(財)京都市埋蔵文化財研究所 1980
34	八条三坊十一町	詳細不明	『平安京左京八条三坊-京都駅前地下街建設に伴う発掘調査-』(株)京都ステーションセンター・(財)京都市埋蔵文化財研究所 1980
35	八条三坊十四町	平安前期以前の湿地、平安後期～鎌倉の土坑、室町前半の井戸・溝・土坑	『No.69』『京都市高速鉄道烏丸線内遺跡調査年報Ⅲ』京都市高速鉄道烏丸線内遺跡調査会 1982
36	八条三坊十四町	平安の包含層、鎌倉末～室町の溝・柱穴	『平安京左京八条三坊-京都駅前地下街建設に伴う発掘調査-』(株)京都ステーションセンター・(財)京都市埋蔵文化財研究所 1980
37	八条三坊十四町	平安中期以前の湿地、平安後期～鎌倉の溝、鎌倉後半～室町前半の建物・井戸・土坑・柱穴・竪穴状遺構・埋喪、室町の漆器椀・皿多量出土	『平安京左京八条三坊2』『平成8年度京都市埋蔵文化財調査概要』(財)京都市埋蔵文化財研究所 1998
38	八条三坊十四町	平安中期以前の湿地、鎌倉の井戸・溝・土坑・柱穴・竪穴状遺構、室町の井戸・土坑・柱穴、鎌倉の草履状木製品出土	『平安京左京八条三坊2』『平成6年度京都市埋蔵文化財調査概要』(財)京都市埋蔵文化財研究所 1996
39	八条三坊十六町・七条大路	平安前期～鎌倉の七条大路路面・南側溝、平安～江戸の井戸・溝・土坑・柱穴	『平安京左京八条三坊1』『平成2年度京都市埋蔵文化財調査概要』(財)京都市埋蔵文化財研究所 1994
40	八条三坊十六町・七条大路	古墳の流路、平安中期～鎌倉の七条大路路面・南側溝、平安中期～後期の井戸・溝・土坑・柱穴、鎌倉～室町の井戸・溝・土坑・柱穴、鎌倉～室町の鋳型・埴塙・輪羽口出土	『平安京左京八条三坊2』『平成2年度京都市埋蔵文化財調査概要』(財)京都市埋蔵文化財研究所 1994
41	八条三坊十六町	平安の井戸・溝・土坑・柱穴、平安末～室町の建物・井戸・溝・土坑	『平安京左京八条三坊』『昭和61年度京都市埋蔵文化財調査概要』(財)京都市埋蔵文化財研究所 1989
42	八条三坊十六町	平安中期の包含層、後期の井戸・土坑、鎌倉～室町前半の溝・土坑・柱穴	『No.74』『京都市高速鉄道烏丸線内遺跡調査年報Ⅲ』京都市高速鉄道烏丸線内遺跡調査会 1982
43	八条三坊十六町・塩小路	平安前期～後期の湿地、平安後期の塩小路路面と側溝、鎌倉～室町の建物・井戸・溝・土坑、室町の輪羽口・金属滓出土	『平安京左京八条三坊十五町・十六町』-京都銀行京都駅前支店新築工事に伴う調査-古代文化調査会 2005
44	八条四坊一町	平安の井戸・溝・土坑、鎌倉の井戸・溝・土坑・柱穴、室町の井戸・溝・土坑・柱穴、江戸の墓跡、平安前期の漆紙文書片出土	『平安京跡発掘調査報告 左京八条四坊一町』関西文化財調査会 2004
45	八条三坊三町	平安中期の流路、鎌倉～室町の井戸・溝・土坑・柱穴、室町の鏡の鋳型・埴塙・輪羽口・金属滓出土	『平安京左京八条三坊三町跡』(財)京都市埋蔵文化財研究所 2005
46	八条二坊十五町	平安前期の流路、平安中期の園池、平安後期～室町の井戸・土坑・柱穴・炉、平安後期の鋳型、室町の埴塙出土	『平安京左京八条三坊十五町』株式会社日開コンサルタント 2007

は9箇所（調査13・15・16・22・26・31・40・45・46）に及ぶ。油小路通から東洞院通まで広範囲にわたっている。流路の方向は北東から南西に流れている。湿地遺構が検出された調査地は5箇所（調査8・35・37・38・43）あり、平安時代中期までは調査地周辺の一帯が住居に適した土地ではなかったと思われる。平安時代中期までは文献史料も残されていない。

平安時代後期になると八条三坊内の史料が散見されるようになる。四町に藤原忠実が町の南西部に阿弥陀堂を建立し、末期になると八条院漳子内親王領が設置された。後には東寺に寄進され東寺領八条院町が成立した。十三町に八条院漳子内親王の御所が設けられ、ここを中心としてこのほか六町・十一町・十四町・十五町と広範囲に及んでいる。邸宅や御倉・院町などの付属施設が所在していた。五町では藤原顕隆の邸宅、美福門院藤原得子の御所、平頼盛の邸宅である池殿と推測されている。今調査区に相当する九町には平宗親の私領があり、後に源友永と清原為国に譲渡されている。

周辺の発掘調査は塩小路通に面した再開発と京都駅の建替えに伴って多数実施され、大きな成果をあげている。検出された条坊の街路遺構をみると平安時代前期・中期にさかのぼる道路は七条大路路面と南側溝（調査39・40）だけで、ほかは平安時代後期以降に属するものである。南北道路の検出は油小路の路面と西側溝（調査4・5）および室町小路の路面と両側溝（調査26・27）である。東西方向では塩小路の路面と側溝（調査32・43）、八条坊門小路の路面と側溝（調査11・18・28・23・33）が検出されている。

ただし、調査23で検出された八条坊門小路は条坊復元推定位置より南へ10mずれている。この道路遺構と時期を同じくし平安時代後期から室町時代後半まで、建物や井戸・溝・土坑が各調査区で分布するようになる。二坊や三坊の開発が充実してきたことを物語っている。また、木棺墓や土壇墓などが八条二坊十四町（調査6・7・8・11）、八条三坊一町（調査13）・二町（調査15・16）・七町（調査29・30）で検出され、東本願寺前古墓群を形成するようになる。室町時代後半になると遺構の検出は減少し耕作地として利用され、居住区域は下京へ移動したと想定される。

また、八条二坊と三坊の遺跡では平安時代後期から室町時代にかけて行われた銅製品鑄造にかかわる遺構と遺物が多数検出されることが重要な特徴のひとつである。検出される遺構としては鑄造炉（調査16・26）、鑄型焼

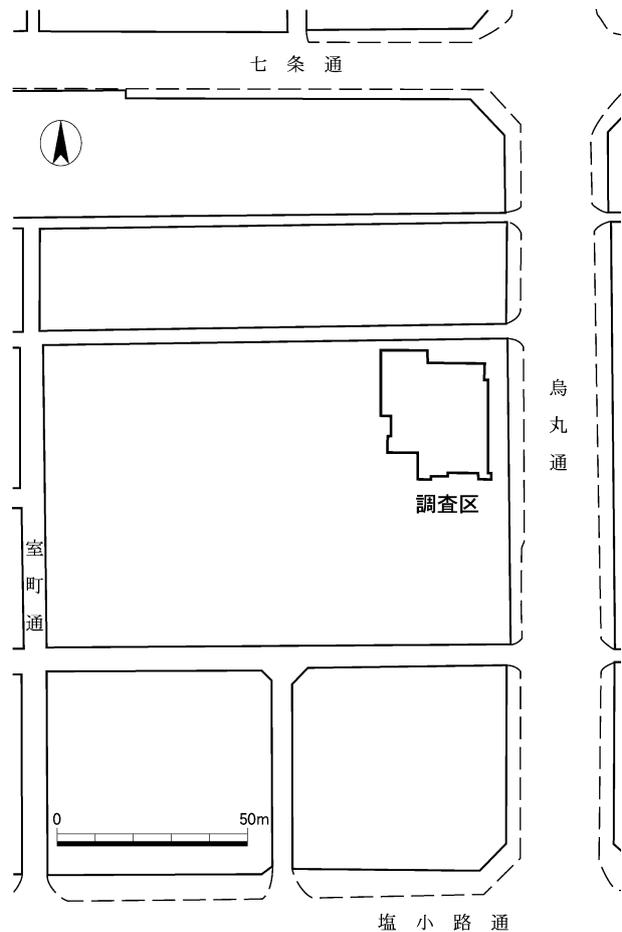


図4 調査区配置図（1：2,000）

成炉（調査 11）、廃棄土坑（調査 11 など）があげられる。銅製品鑄造に伴う遺物としては鑄型・坩堝・鑄羽口・金属滓などがある。鑄型には鏡・錢貨・刀装具・仏具・容器などがみられるものの、いずれも破片のため全体の様子をつかめるものは少ない。

鏡の鑄型は二坊十四町（調査 8～11）・十五町（調査 11）、三坊三町（調査 22）・六町（調査 23・26）・九町（調査 32）・十一町（調査 26）から出土している。鑄造された銅鏡は小型鏡が大半であるが、調査 32 では平安時代後期（11 世紀後半）の花枝蝶鳥方鏡の鑄型が出土している。

錢貨鑄型は二坊十五町（調査 11）、三坊三町（調査 22）・六町（調査 26）・七町（調査 30・31）から出土し、「政和通寶」「紹（聖）元寶」「元（豊）通寶」など北宋錢の模鑄錢を鑄造していたことが知られている。

刀装具鑄型は三坊二町（調査 15・16）・三町（調査 22）・六町（調査 23）で出土し、兜金・鞘尻・縁金具・足金物・櫓金・座金物・責金などがある。

仏具鑄型は二坊十四町（調査 8）、三坊三町（調査 22）・六町（調査 25・26）・十一町（調査 26）・九町（調査 32）から出土し、花瓶・小型仏立像・坐像・台座・銅磬・独鈷杵などがある。

容器鑄型は二坊十五町（調査 11）、三坊二町（調査 16）・六町（調査 25・26）などから出土している。

このほか三坊十四町（調査 37）では多量の漆器が出土し漆器生産を行っていた可能性がある。二坊十四町（調査 7）や三坊三町（調査 21）では大型の焼締陶器甕が出土し、酒や麴など醸造に使用された可能性がある。

3. 遺 構

(1) 基本層序

基本層序は上から順に第1層が室町時代の遺物を包含する暗褐色細砂（φ2～4cmの石を少量含む）、第2層は鎌倉時代の黒褐色細砂（φ1～4cmの石を中量含む）、第3層は平安時代の黒褐色細砂（φ1～4cmの石を多量に含む）と続き、その下層は黒褐色の細砂～粗砂の基盤層となる。室町時代より上層の江戸時代以降は近現代のビル建設によって攪乱され遺存していない。平安時代以前の基盤層は締まりのないゆるい砂礫層でラミナがみられ自然流路の堆積を示しているところもみられる。遺物が確認できないため時代は特定できないが、調査区全域が幅の大きな自然流路の中である。北西部では基盤層と第3層の間に湿地状堆積のシルト層が広がる。北東部の一部では第3層と第2層の間に流水堆積を示す灰黄褐色粗砂層がみられる。この層は遺物をほとんど含まず、東側の烏丸小路の側溝からあふれた流水によって堆積したものと推定している。

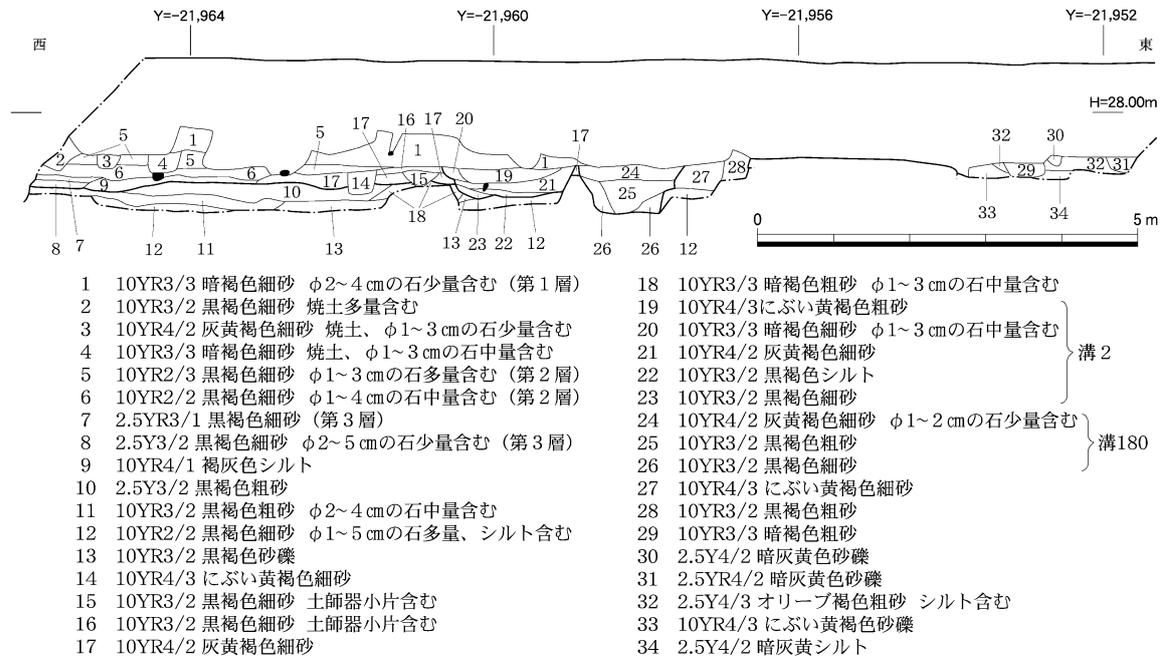


図5 北壁断面図 (1:100)

表2 遺構概要表

時代	遺構	備考
平安時代	池550、井戸521・井戸471・井戸472・井戸323・井戸32・井戸430・井戸538・井戸298	第3面・第2面
鎌倉時代	建物1、柱穴列5、井戸5・井戸6・井戸559・井戸221・井戸514	第1面
室町時代	井戸8、溝2・溝18、土坑4・土坑7・土坑16・土坑19	第1面
江戸時代	土坑3・土坑20	第1面

(2) 平安時代の遺構 (図6・9)

平安時代の遺構は第2面と第3面で検出した。池、井戸8基、土坑、多数の柱穴などがある。柱穴は調査区の北西部や南東部に集中するものの、重複が激しく建物としてまとまらない。井戸は調査区の東半部に散在している。

池550 (図7・8、図版1) 調査区北西部で平安時代前期から中期の池550を検出した。大きさは東西約16m、南北約12.5mの規模で深さは最深部で0.3mを測る。西側から南側の岸部では拳大の石を幅約3.5mの範囲に敷き詰め洲浜を形成している。景石はみあたらない。汀はなだらかで非常に浅い池であるが、陸部は上部を後世に削平されている可能性がある。池の埋土は下層が有機物を多く含む黒褐色シルト層で、上層は褐灰色シルト層・灰黄褐色シルト層である。池の導水路は調査区内で検出できず、池底に粘土を貼るなどの造作も認められない。池底の基盤層

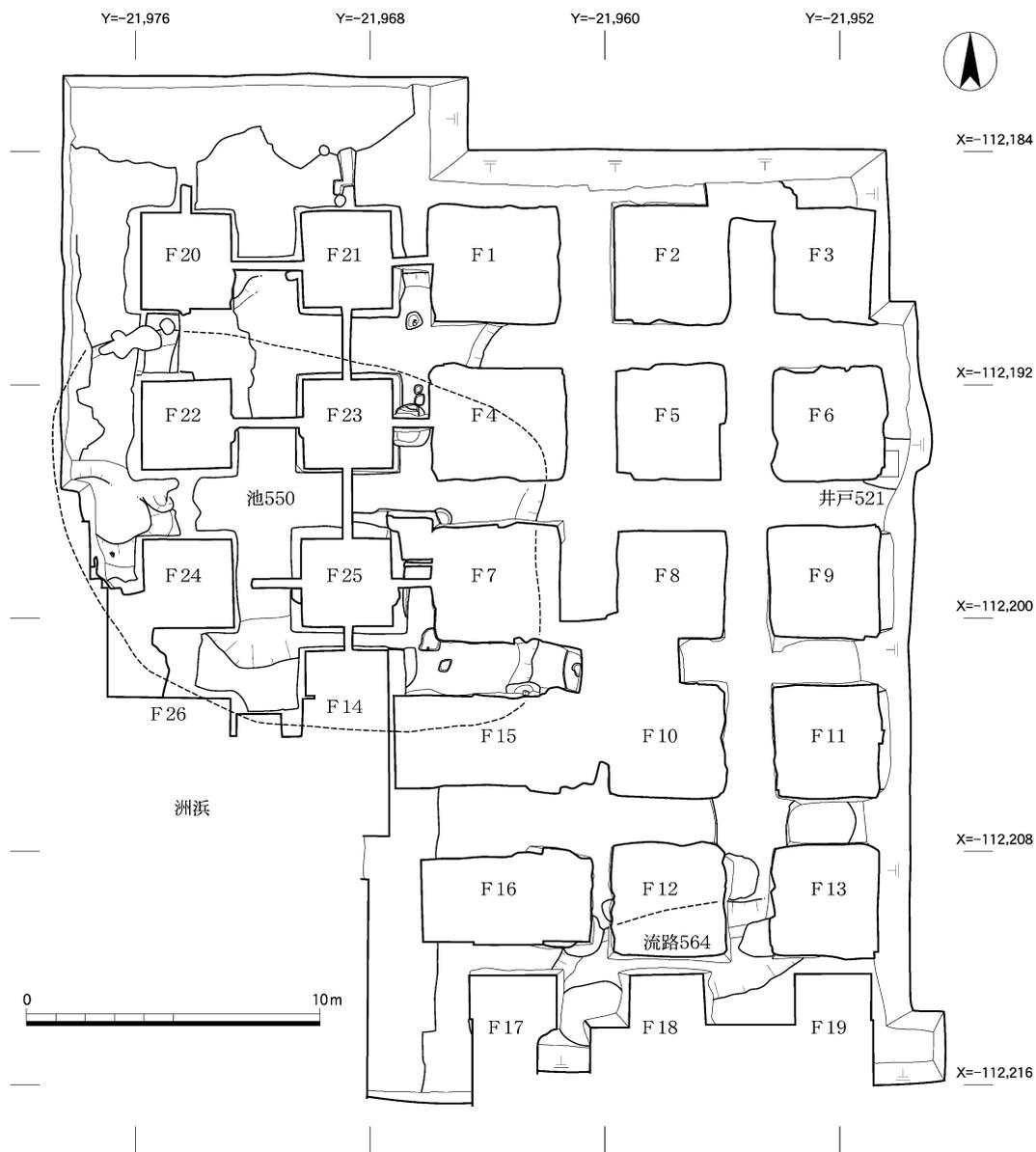


図6 第3面平面図 (1 : 250)

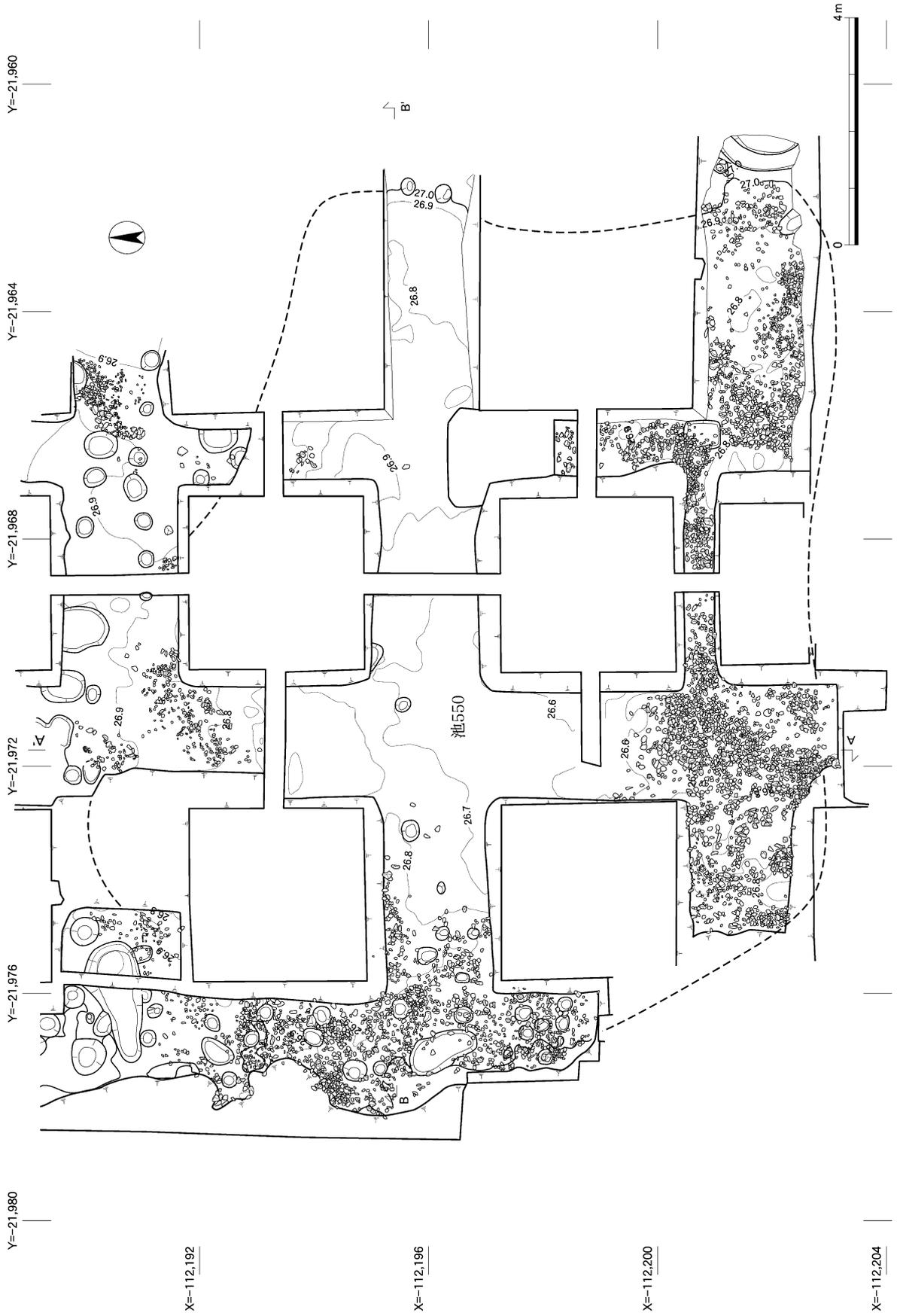
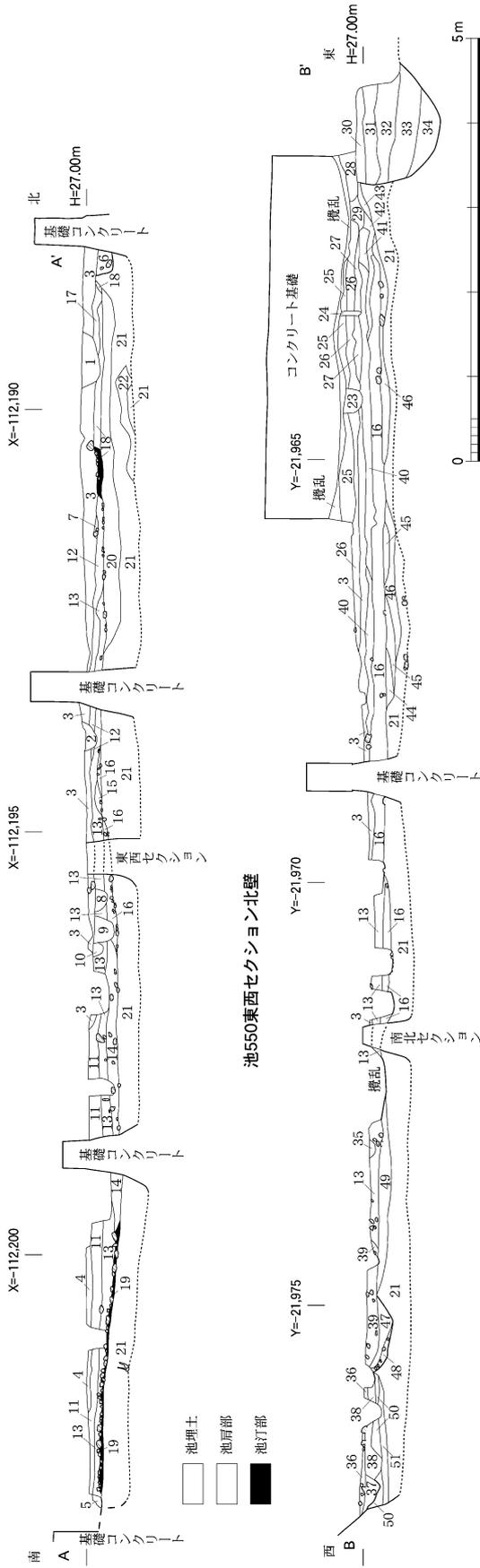


图7 池550平面图 (1 : 100)

池550南北セクション西壁



- | | | |
|----|------------------|--------------------------|
| 1 | 10YR2/2 黒褐色細砂 | φ1~3cmの石を少量、焼土含む |
| 2 | 10YR3/1 黒褐色細砂 | φ3~5cmの石を少量含む |
| 3 | 10YR3/2 黒褐色細砂 | φ1~5cmの石を少量、シルト含む |
| 4 | 10YR4/3 にぶい黄褐色粗砂 | シルト含む |
| 5 | 10YR3/2 黒褐色シルト | (ピット) |
| 6 | 10YR3/1 黒褐色細砂 | 焼土少量含む (土坑) |
| 7 | 2.5Y5/2 暗灰黄色粗砂 | |
| 8 | 10YR3/2 黒褐色細砂 | 土師皿小片を少量含む (ピット) |
| 9 | 10YR3/2 黒褐色細砂 | φ1~3cmの石を中量含む (ピット) |
| 10 | 10YR3/2 黒褐色細砂 | 土師皿小片を少量含む (ピット) |
| 11 | 10YR4/1 褐灰色シルト | |
| 12 | 10YR4/2 灰黄褐色細砂 | 有機物混入 |
| 13 | 10YR4/2 灰黄褐色シルト | 有機物混入 (池550上層) |
| 14 | 10YR3/2 黒褐色シルト | 有機物含む (池550下層) |
| 15 | 2.5Y5/3 黄褐色砂礫 | |
| 16 | 10YR4/3 にぶい黄褐色粗砂 | シルト含む |
| 17 | 2.5Y4/2 暗灰黄色砂礫 | 平安前期の土師皿出土 |
| 18 | 2.5Y3/2 黒褐色粗砂 | |
| 19 | 10YR4/3 にぶい黄褐色粗砂 | (洲浜埋土) |
| 20 | 2.5Y4/2 暗灰黄色砂礫 | φ1~3cmの石を少量に含む (地山) |
| 21 | 2.5Y4/3 オリーブ褐色砂礫 | 鉄分沈着 φ1~5cmの石を多量に含む (地山) |
| 22 | 10YR4/2 灰黄褐色粗砂 | ブロック (地山) |
| 23 | 2.5Y3/2 黒褐色細砂 | φ3~5cmの石を少量含む |
| 24 | 2.5Y3/1 黒褐色粗砂 | |
| 25 | 10YR3/2 黒褐色細砂 | φ1~3cmの石を中量、土器片を少量含む |
| 26 | 2.5Y4/3 オリーブ褐色粗砂 | |
| 27 | 2.5Y3/2 黒褐色粗砂 | φ2~4cmの石を中量含む |
| 28 | 2.5Y5/2 暗灰黄色粗砂 | |
| 29 | 2.5Y3/2 暗灰黄色粗砂 | φ1~3cmの石を多量に含む |
| 30 | 10YR4/2 灰黄褐色粗砂 | φ1~3cmの石を多量に含む |
| 31 | 10世紀の土師皿出土 (土坑) | |
| 32 | 2.5Y3/2 黒褐色粗砂 | φ1~3cmの石を中量含む (土坑) |
| 33 | 10YR4/3 にぶい黄褐色粗砂 | φ1~5cmの石を多量に含む (土坑) |
| 34 | 2.5Y4/2 暗灰黄色砂礫 | φ1~4cmの石を多量に含む (土坑) |
| 35 | 10YR3/2 黒褐色粗砂 | |
| 36 | 10YR3/2 黒褐色シルト | φ1~3cmの石を中量含む |
| 37 | 10YR3/2 黒褐色細砂 | (ピット) |
| 38 | 10YR4/2 灰黄褐色粗砂 | 有機物含む |
| 39 | 10YR3/2 黒褐色シルト | |
| 40 | 2.5Y4/2 暗灰黄色粗砂 | |
| 41 | 2.5Y4/2 暗灰黄色粗砂 | 有機物含む |
| 42 | 10YR4/2 灰黄褐色粗砂 | |
| 43 | 2.5Y5/3 黄褐色粗砂 | |
| 44 | 2.5Y5/2 暗灰黄色砂礫 | (人為的に入れた白砂か) |
| 45 | 2.5Y5/1 灰黄褐色粗砂 | (人為的に入れた白砂か) |
| 46 | 2.5Y6/2 灰黄褐色粗砂 | 均一な砂 (人為的に入れた白砂か) |
| 47 | 10YR3/1 黒褐色シルト | (土坑) |
| 48 | 10YR3/2 黒褐色粗砂 | φ1~3cmの石を中量含む (土坑) |
| 49 | 10YR4/3 にぶい黄褐色砂礫 | |
| 50 | 10YR4/3 にぶい黄褐色粗砂 | (地山) |
| 51 | 10YR4/2 暗灰黄色粗砂 | 均一な粗砂 (地山) |

図8 池550断面図 (1:80)

がゆるい砂礫層であるため、地下水の湧水により池の水を満たしていたと想定している。また、池底の標高は 26.60 mを測り、平安時代中期の井戸底（井戸 521）と一致し、この深さで地下水が得られたことが窺える。現在のところまったく湧水はみられないが、当時の地下水は非常に高かったのである。池の埋土からは土師器・須恵器・黒色土器・緑釉陶器・灰釉陶器など土器類が豊富に出土している。土師器皿や須恵器蓋には墨書が認められ、転用硯として用いられ墨痕のある土器も出土している。

井戸 521（図 10）調査区北東部で検出し、フーチングで北西部を壊されている。井戸枠は方形横板組で掘形の大きさは南北 1.7 m、木枠は南北 0.92 m、深さ 0.47 m、井戸底の標高 26.60 mを測る。木枠は腐食が進み、わずかに痕跡が確認できるだけである。井戸の埋土は細砂層とシルト層の互層で 10 cm程度の石が多量に混入していた。土師器、須恵器、黒色土器、緑釉陶器、灰釉陶器とともに石製帯飾具の巡方 1 点が出土している。出土土器は平安時代中期に属する。

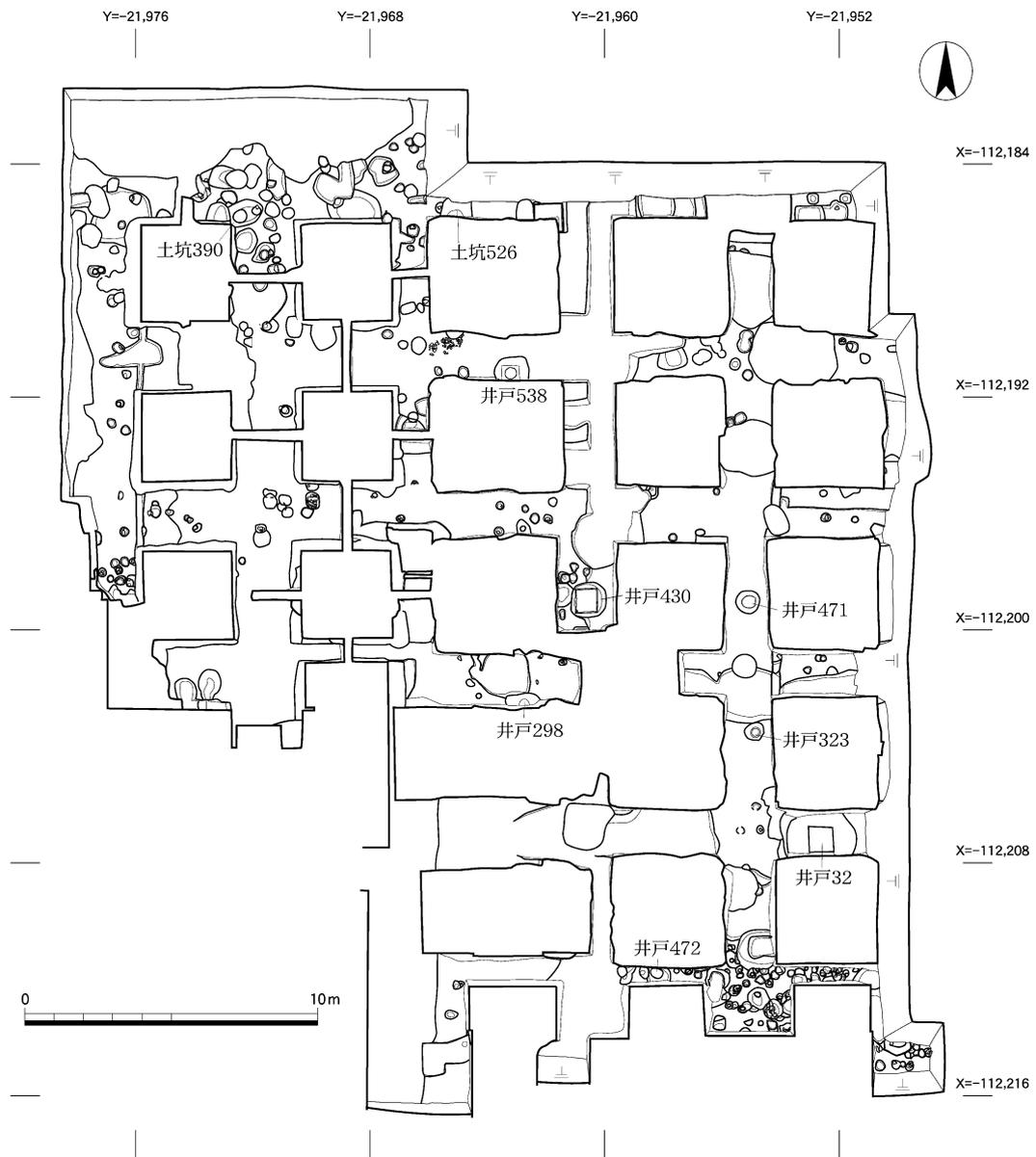
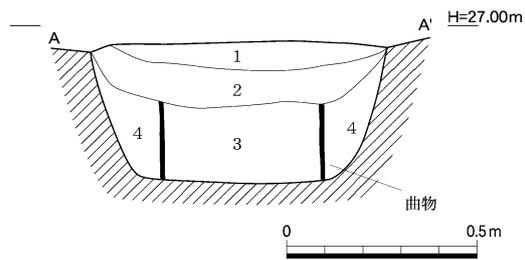
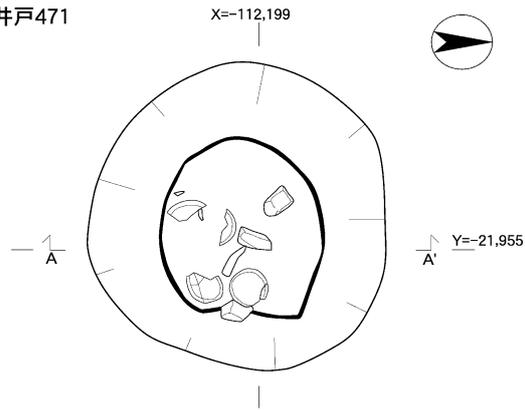


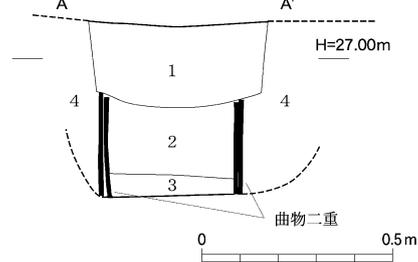
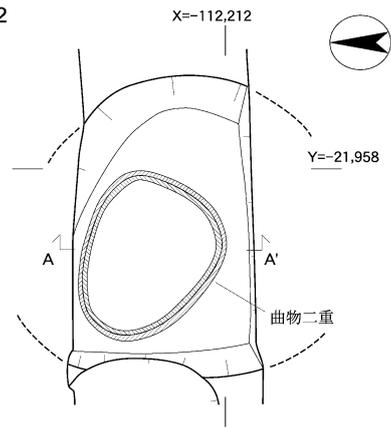
図9 第2面平面図（1：250）

井戸471



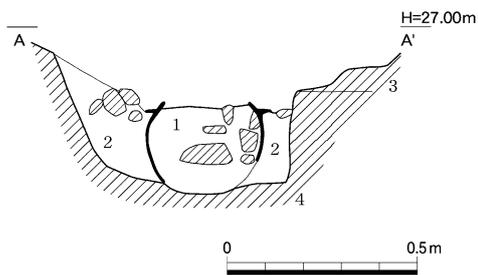
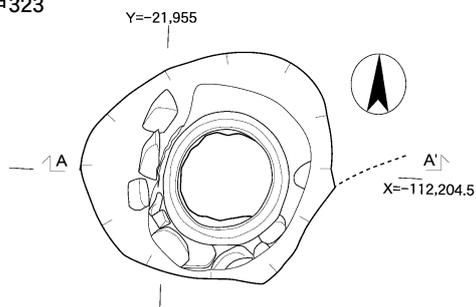
- 1 10YR4/2 灰黄褐色細砂 粘質
- 2 10YR3/2 黒褐色細砂 φ3~5cmの石を少量含む
- 3 10YR4/1 褐灰色細砂 灰色シルト含む
- 4 10YR4/3 にぶい黄褐色砂礫 (掘形)

井戸472



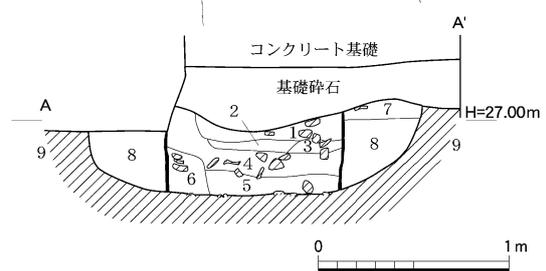
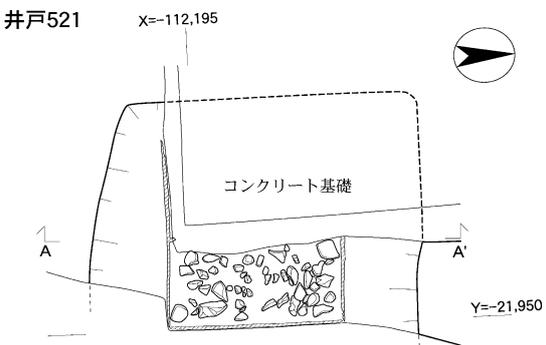
- 1 10YR4/2 灰黄褐色細砂 オリーブ褐色細砂含む
- 2 10YR3/2 黒褐色細砂 褐灰色シルト含む
- 3 10YR3/1 黒褐色細砂 φ1~3cmの礫、粗砂含む
- 4 10YR4/1 褐灰色細砂 (掘形)

井戸323



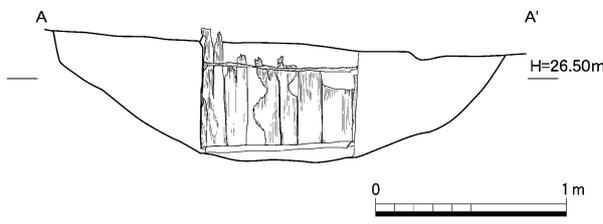
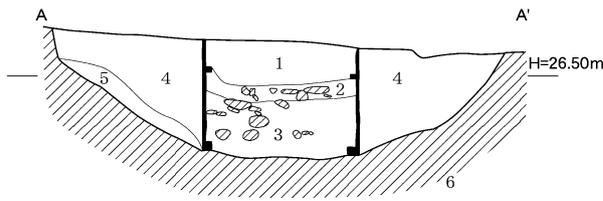
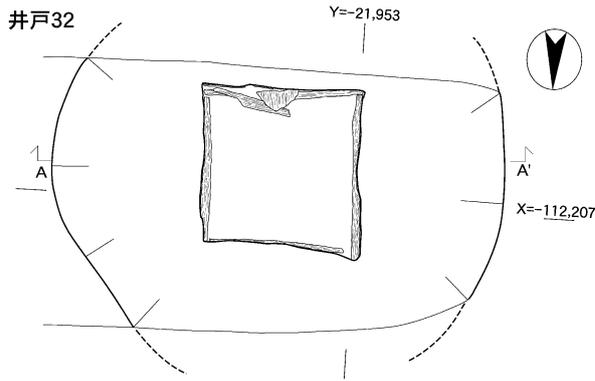
- 1 10YR3/2 黒褐色シルト
- 2 2.5Y3/1 黒褐色砂礫 (掘形)
最上層にφ5~10cmの平石を敷く
- 3 2.5Y4/2 暗灰黄色シルト (堆積層)
- 4 2.5Y4/1 黄灰色砂礫

井戸521

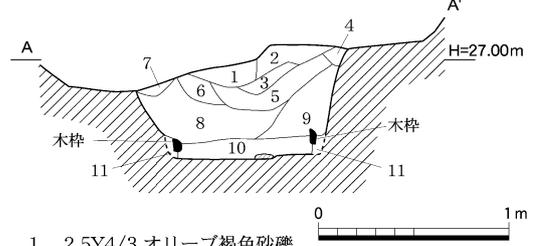
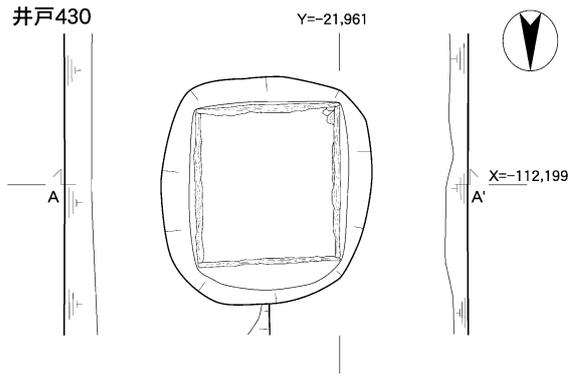


- 1 10YR3/2 黒褐色細砂 φ3~6cmの石中量含む
- 2 10YR4/2 灰黄褐色細砂 φ2~3cmの石少量含む
- 3 10YR4/1 褐灰色シルト
- 4 10YR3/2 黒褐色シルト φ3~6cmの石多量含む
10YR6/4にぶい黄褐色シルトブロック混、粗砂少量含む
- 5 10YR3/2 黒褐色シルト
- 6 10YR3/3 暗褐色シルト
- 7 10YR3/2 黒褐色細砂 φ1~3cmの石多量含む
- 8 10YR4/3 にぶい黄褐色砂礫 (掘形)
- 9 10YR4/3 にぶい黄褐色砂礫 (流れ堆積)

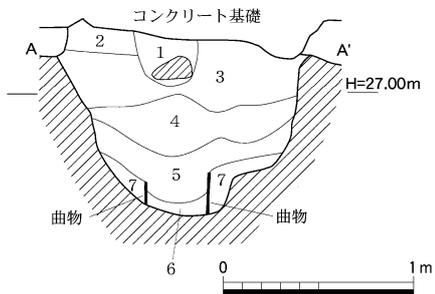
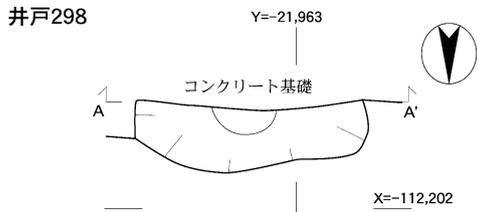
図10 井戸471・472・323・521実測図(1:20、1:40)



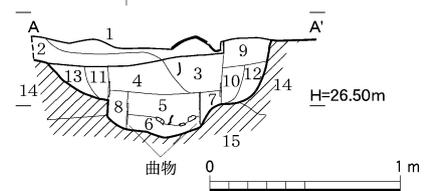
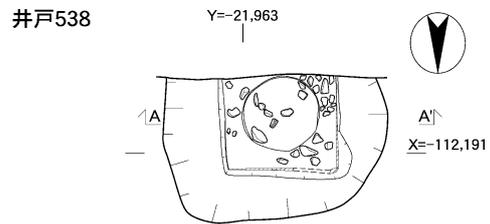
- 1 2.5Y3/1 黒褐色粗砂 φ3~10cmの石中量含む
- 2 10YR3/2 黒褐色細砂 φ3~10cmの石多量含む
- 3 10YR3/1黒褐色砂粗砂 φ3~10cmの石多量含む
- 4 2.5Y4/2 暗灰黄色砂礫 シルト含む
- 5 2.5Y5/2 暗灰黄色粗砂 均質な砂
- 6 2.5Y4/2 暗灰黄色砂礫 (無遺物層)



- 1 2.5Y4/3 オリーブ褐色砂礫
- 2 2.5Y3/2 黒褐色細砂
- 3 10YR3/2 黒褐色細砂
- 4 10YR3/1 黒褐色細砂 粘質
- 5 10YR2/2 黒褐色細砂 炭含む
- 6 10YR4/2 灰黄褐色粗砂
- 7 10YR4/3 にぶい黄褐色砂礫
- 8 10YR3/1 黒褐色粗砂 φ1~6cmの石少量含む
- 9 10YR3/2 黒褐色粗砂 φ1~3cmの石少量含む
- 10 10YR3/2 黒褐色細砂 φ1~3cmの石中量含む
- 11 10YR4/2 灰黄褐色砂礫 黒褐色シルト含む



- 1 10YR3/2 黒褐色細砂 (柱穴)
- 2 10YR2/2 黒褐色細砂 φ1~4cmの石少量含む
- 3 2.5Y3/2 黒褐色細砂 オリーブ褐色土ブロック含む
- 4 10YR3/2 黒褐色細砂
- 5 2.5Y4/2 暗灰黄色シルト 粗砂含む
- 6 2.5Y3/2 黒褐色シルト φ1~3cmの石少量含む
- 7 10YR3/2 黒褐色細砂 φ1~5cmの石多量含む



- 1 10YR3/1黒褐色砂泥 炭中量、φ1~3cm礫含む
- 2 2.5Y3/2黒褐色砂礫
- 3 7.5YR3/1黒褐色砂泥 粘質、土器多く含む、木片含む
- 4 10YR3/1~3/2黒褐色砂泥 φ2~5cm礫中量、砂ブロック状に混
- 5 10YR3/1黒褐色泥土 10YR3/4暗褐色砂礫含む
- 6 10YR4/1~3/1褐色砂泥 粘質、φ5~10cm礫中量含む、底面にφ5~10cmの礫を敷く
- 7 2.5Y4/1黄灰色砂礫 上面にφ5~10cmの礫を敷く
- 8 10YR4/4褐色砂礫 上面にφ5~10cmの礫を敷く
- 9 10YR4/1褐色砂泥
- 10 2.5Y4/2暗灰黄色砂礫 10YR4/1褐色砂泥混
- 11 2.5Y4/3オリーブ褐色砂礫
- 12 2.5Y4/2暗灰黄色砂礫 10YR3/2黒褐色砂泥混
- 13 2.5Y4/2暗灰黄色砂礫
- 14 2.5Y5/2~4/2暗灰黄色砂礫
- 15 2.5Y4/6黄灰色シルト

図11 井戸 32・430・298・538 実測図 (1:40)

井戸 471 (図 10) 東側中央部で検出し、井戸枠に曲物を設置した小型の井戸である。掘形は直径 0.8 m、曲物の直径約 0.45 m、高さ 0.2 m、井戸の深さ 0.4 m、井戸底の標高 26.60 mを測る。井戸の底部から土師器皿が完形品に近い状態で出土している。

井戸 472 (図 10、図版 2) 南部中央部で検出し、井戸 471 と形状が類似する井戸である。井戸 471 と同じように井戸枠に曲物を設置した小型の井戸である。掘形の北と南を基礎によって壊されているが、掘形の大きさは直径 0.8 m、曲物の直径 0.35 m、高さ 0.35 m、井戸の深さ 0.5 m、井戸底の標高 26.65 mを測る。井戸 471 と異なるところは曲物が二重である。井戸 471 と同時期の土器が出土している。

井戸 323 (図 10、図版 2) 井戸 323 は井戸 471 の南方に位置し、さらに小型の井戸である。羽釜の底部を欠いて井戸枠に用いている。掘形の直径 0.65 m、井戸枠の羽釜の直径 0.3 m、井戸の深さ 0.4 m、井戸底の標高 26.55 mである。羽釜の周囲は 10 cmほどの石で固められていた。羽釜は外面に煤が付着しているため、煮炊きに用いられ底部が破損した後転用されたものであろう。

井戸 32 (図 11) 南東部で検出し北側と南側を基礎で壊されている。方形縦板組の井戸で、底部と下から 0.4 mの所に角材の横棧を設置している。掘形の大きさは東西 2.3 m、木枠は 0.8 m×0.9 m、井戸の深さ 0.6 m、井戸底の標高 26.10 mを測る。掘形はほかの井戸と比べ大きく播鉢状を呈する。掘形の周囲がゆるい砂礫層の旧流路と重複していたためと思われる。

井戸 430 (図 11、図版 3) 中央部で検出し木枠は残っていなかったものの底部に横棧が遺存しているため、方形の板組と思われる。掘形の大きさは 1.1 m×1.2 m、井戸枠は 0.75 m×0.85 m、深さ 0.6 m、井戸底の標高 26.50 mを測る。

井戸 298 (図 11) 中央部で検出し北側部分がわずかに残っている。底部に曲物を設置しているが、木枠が存在したかは不明である。曲物の大きさは直径 0.3 m、高さ 0.2 m、井戸の深さ 0.9 m、井戸底の標高 26.30 mを測る。

井戸 538 (図 11、図版 3) 調査区北部で検出し南側を壊されている。この井戸も木枠は遺存していないものの底部に横棧が残され方形板組と思われる。掘形の大きさは東西 1.2 m、井戸枠は 0.6 m、曲物の直径は 0.4 m、井戸底の標高は 26.30 mである。土師器皿や瓦器椀・鉢などの土器類がまとまって出土している。

土坑 526 北端部中央で検出した。大部分をフーチングで壊されているが、埋土から須恵器の甕がまとまって出土している。井戸枠はみられなかったが、井戸の可能性はある。

流路 564 遺物が全く出土しないため時期は確定できないが、層序から平安京以前の流路と類推しここに取り上げる。調査区南端部で検出した流路で、北東から南西に向かって流れる。流路の大きさは幅約 3 m、深さ約 0.6 mを測る。肩部はゆるやかで粗砂層とシルト層の互層で堆積している。

(3) 鎌倉時代の遺構 (図 12)

鎌倉時代の遺構には掘立柱建物・井戸・土坑・柱穴などがある。建物は調査区北東部で検出し、井戸は平安時代と同様に散在している。柱穴は全域にわたって検出し、柱穴の底部に根石を伴う

小ピットも多数みられるが、重複が激しく攪乱が多いため建物としてはまとまらない。

建物1（図13、図版4） 建物1（柱穴列1～4）の規模は東西桁行10.5m、南北梁行8.0mを測る。建物の方位はほぼ真北方向である。北側の桁行側柱筋はフーチングと地中梁によって壊され不明で、建物は礎石をもたない掘立柱建物である。柱穴は1.8mの柱間の箇所が多いが、南側の桁行側柱筋では0.6mの狭い柱間をとっている。ほとんどの柱穴は底部に根石を設置している。柱穴が掘られている土層は池550の堆積層でシルト層の軟弱だったため、柱の沈下を防ぐ目的で根石を設置したと類推できる。この建物は西側梁行側柱が三行と四行の境界線に、南側桁行側柱が五門と六門の境界線に一致している。

柱穴列5（図13） 建物1の柱穴列3の東側に位置し、北に対して2度西へ振れている。建物1と同様に根石をもつが対応する柱列が確認できず、建物1に関連するものか別の施設か判断できない。柱間も不揃いである。

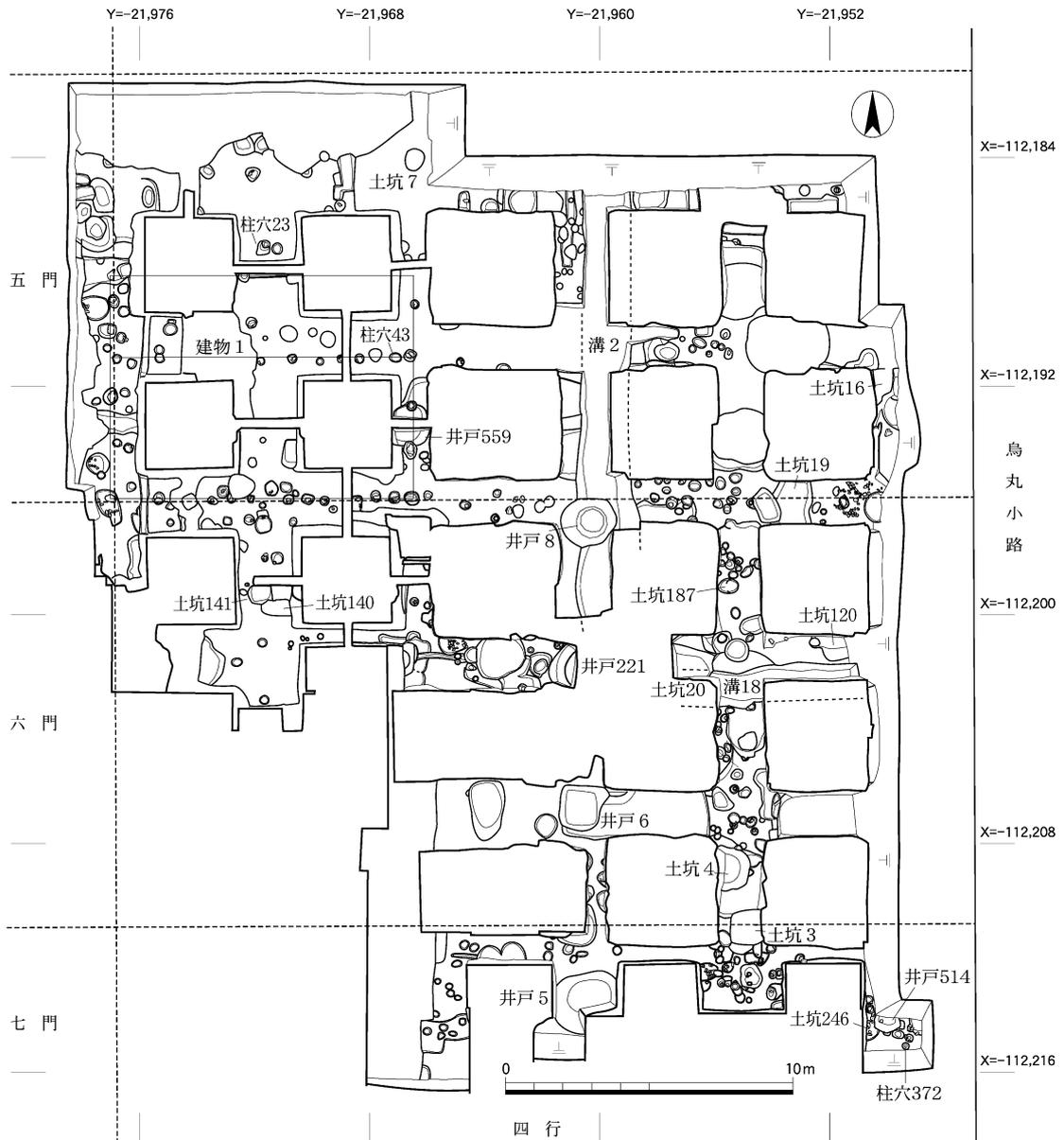
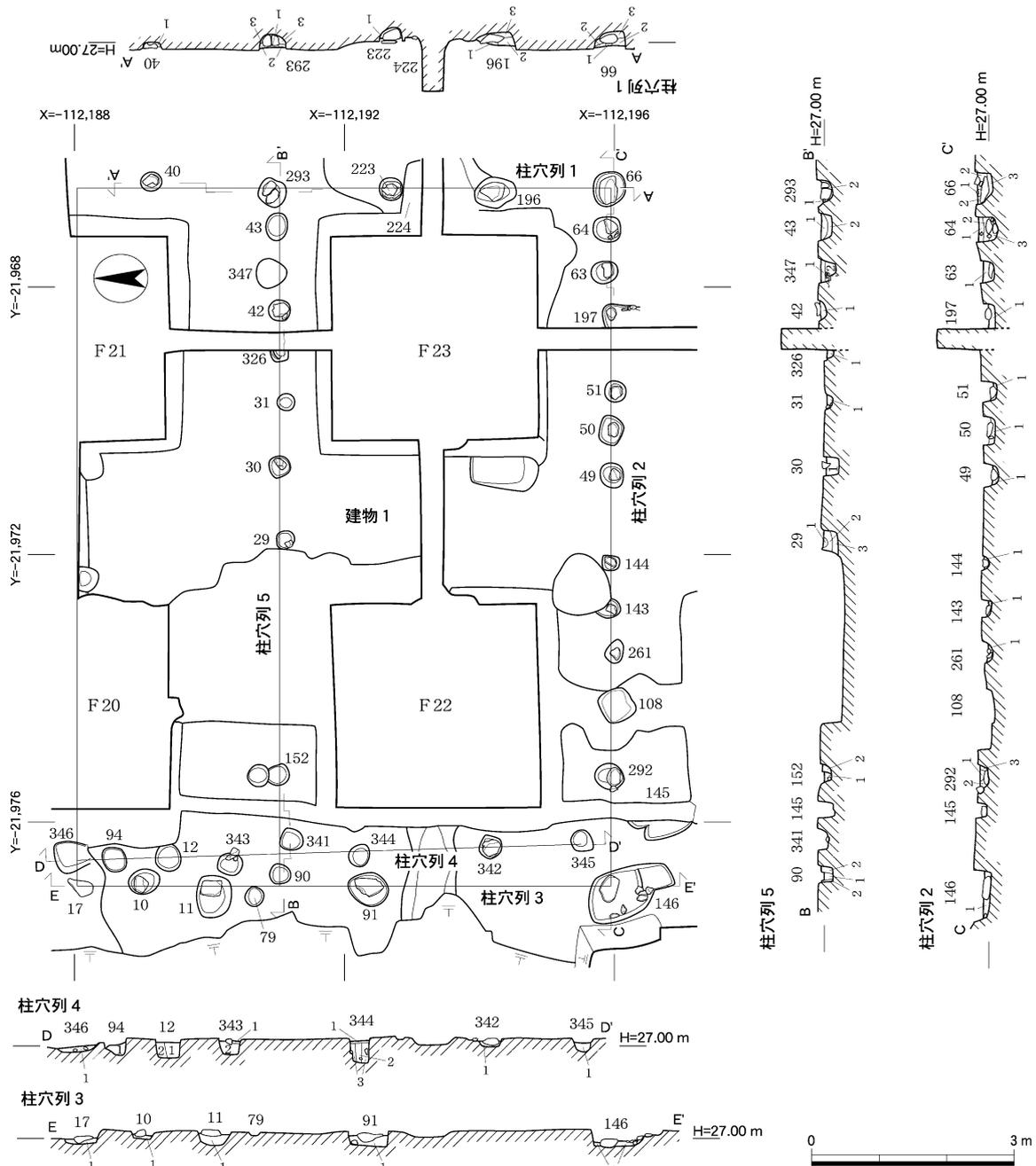
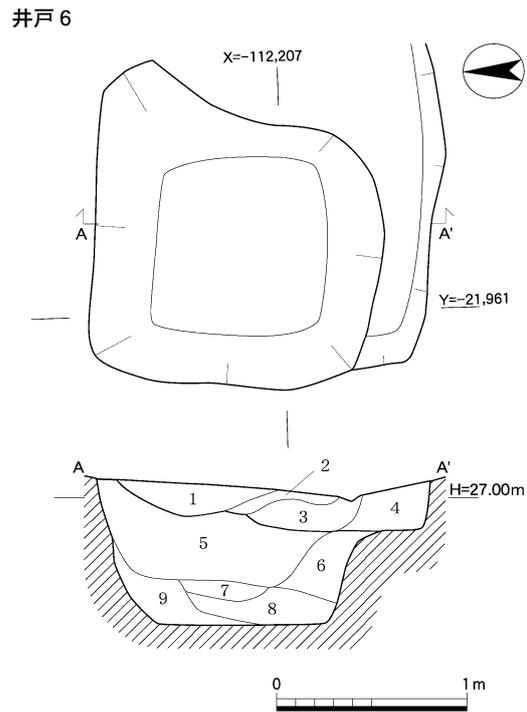
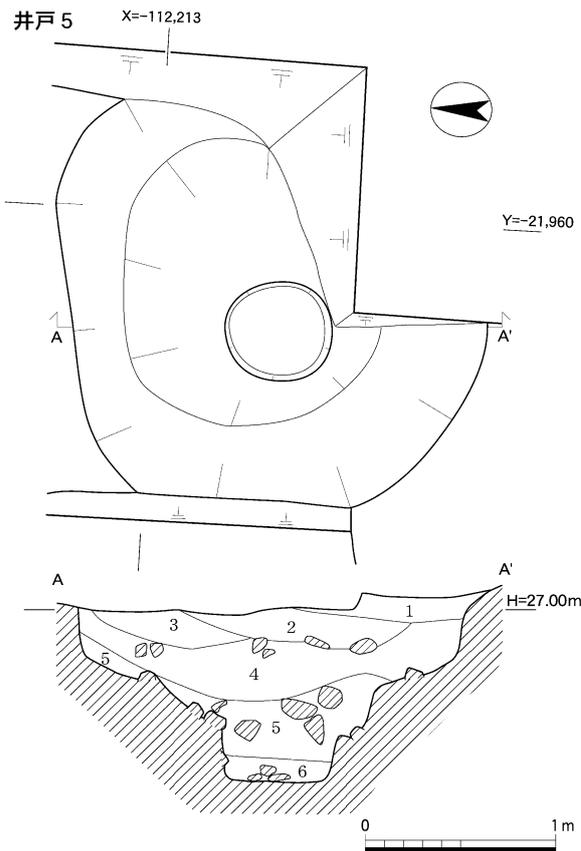


図12 第1面平面図（1：250）



<p>柱穴列1</p> <p>柱穴66 1 10YR4/4 褐色焼土 2 10YR3/2 黒褐色細砂</p> <p>柱穴196 1 10YR4/2 灰黄褐色細砂 2 10YR3/2 黒褐色細砂 3 10YR4/2 灰黄褐色シルト</p> <p>柱穴223 1 10YR3/1 黒褐色細砂</p> <p>柱穴293 1 10YR4/3 にぶい黄褐色細砂 2 10YR3/2 黒褐色細砂 3 2.5Y3/2 黒褐色細砂</p> <p>柱穴40 1 10YR3/1 黒褐色細砂</p> <p>柱穴列2</p> <p>柱穴146 1 10YR3/2 黒褐色細砂 シルト含む φ1~3cmの石少量含む</p> <p>柱穴292 1 10YR3/1 黒褐色細砂 2 10YR4/1 褐色シルト 3 10YR3/2 黒褐色細砂 炭少量含む</p> <p>柱穴261 1 10YR3/2 黒褐色細砂</p> <p>柱穴143 1 10YR2/2 黒褐色細砂</p> <p>柱穴144 1 10YR3/2 黒褐色細砂</p> <p>柱穴49 1 10YR3/2 黒褐色細砂 シルト含む</p> <p>柱穴50 1 10YR3/2 黒褐色細砂 シルト含む</p> <p>柱穴51 1 10YR3/2 黒褐色粗砂</p>	<p>柱穴197 1 10YR4/2 灰黄褐色細砂</p> <p>柱穴63 1 10YR3/2 黒褐色細砂</p> <p>柱穴64 1 10YR3/2 黒褐色細砂 φ3~5cmの石含む</p> <p>2 10YR4/2 灰黄褐色細砂 φ2~4cmの石含む</p> <p>柱穴66 1 10YR4/4 褐色焼土 2 10YR3/2 黒褐色細砂 3 10YR4/2 灰黄褐色シルト</p> <p>柱穴列3</p> <p>柱穴17 1 2.5Y3/1 黒褐色細砂</p> <p>柱穴10 1 2.5Y3/1 黒褐色細砂</p> <p>柱穴11 1 2.5Y3/1 黒褐色細砂 φ1~5cmの石少量含む</p> <p>柱穴91 1 10YR3/1 黒褐色細砂 粗砂含む</p> <p>柱穴146 1 10YR3/2 黒褐色細砂 シルト含む</p> <p>柱穴列4</p> <p>柱穴346 1 10YR3/2 黒褐色細砂</p> <p>柱穴94 1 10YR3/1 黒褐色細砂</p> <p>柱穴12 1 2.5Y3/2 黒褐色細砂</p> <p>柱穴343 1 10YR3/2 黒褐色細砂</p> <p>柱穴344 1 10YR3/2 黒褐色細砂</p> <p>柱穴342 1 10YR3/2 黒褐色細砂</p> <p>柱穴345 1 10YR3/1 黒褐色細砂</p>	<p>柱穴344 1 10YR3/1 黒褐色細砂 2 10YR2/2 黒褐色細砂 炭含む 3 10YR3/2 黒褐色シルト</p> <p>柱穴342 1 2.5Y3/1 黒褐色細砂</p> <p>柱穴345 1 10YR3/1 黒褐色細砂 φ1~5cmの石含む</p> <p>柱穴列5</p> <p>柱穴90 1 10YR3/1 黒褐色粗砂 2 2.5Y3/1 黒褐色粗砂</p> <p>柱穴152 1 10YR2/2 黒褐色シルト 2 10YR3/1 黒褐色シルト</p> <p>柱穴29 1 10YR3/3 暗褐色粗砂 2 10YR3/2 黒褐色細砂 3 10YR4/2 灰黄褐色粗砂</p> <p>柱穴30 1 10YR3/1 黒褐色細砂</p> <p>柱穴31 1 10YR3/1 黒褐色細砂</p> <p>柱穴326 1 10YR3/1 黒褐色細砂</p> <p>柱穴42 1 2.5Y3/2 黒褐色細砂</p> <p>柱穴347 1 2.5Y3/1 黒褐色シルト 2 10YR4/2 灰黄褐色細砂</p> <p>柱穴43 1 10YR3/2 黒褐色細砂 2 10YR3/2 黒褐色細砂 1 10YR3/2 黒褐色細砂</p> <p>柱穴293 1 10YR3/2 黒褐色細砂 2 2.5Y3/2 黒褐色細砂</p>
---	--	--

図 13 建物1・柱穴列5実測図 (1 : 100)



- 1 10YR3/1 黒褐色細砂 φ1~3cmの石多量含む
- 2 2.5Y4/2 暗灰黄色砂礫 φ1~5cmの石少量含む
- 3 10YR3/2 黒褐色細砂 φ1~3cmの石中量含む
- 4 2.5Y3/2 黒褐色砂礫 φ1~5cmの石多量含む
- 5 2.5Y4/2 暗灰黄色砂礫 φ15cmの石含む
- 6 10YR3/1 黒褐色炭層

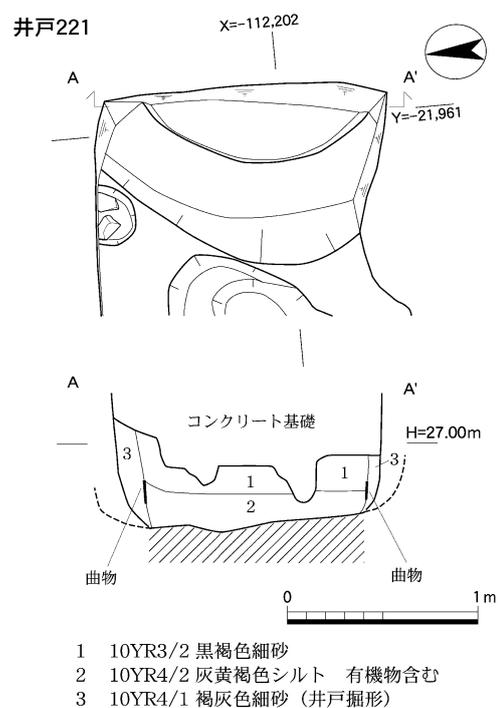
- 1 2.5Y3/1 黒褐色細砂 φ1~3cmの石中量含む
- 2 2.5Y4/2 暗灰黄色細砂 やや粘質、φ1~5cmの石中量含む
- 3 2.5Y3/1 黒褐色砂礫 φ1~5cmの石多量含む
- 4 10YR3/1 黒褐色細砂 φ1~3cm石多量含む
- 5 2.5Y3/2 黒褐色砂礫 φ1~5cmの石多量、細砂少量含む
- 6 2.5Y4/2 暗灰黄色礫 粗砂少量含む
- 7 10YR4/1 褐灰色シルト
- 8 2.5Y3/1 黒褐色粗砂シルト少量含む
- 9 2.5Y4/2 暗灰黄色砂礫

図14 井戸5・6実測図(1:40)

井戸5(図14) 調査区南端で検出し、井戸枠は遺存していないが形状から井戸とした。掘形の大きさは南北2.1m、深さ1.0m、井戸底の標高26.10mを測る。播鉢状を呈しているが井戸32と同じように下層にゆるい砂礫層の旧流路と重複しているためであろう。

井戸6(図14) 井戸5の北側で検出し、井戸枠をもたないが形状から井戸とした。方形の掘形で、大きさは1.7m×1.5m、深さ0.8m、井戸底の標高26.30mを測る。方形板組であったかも知れない。

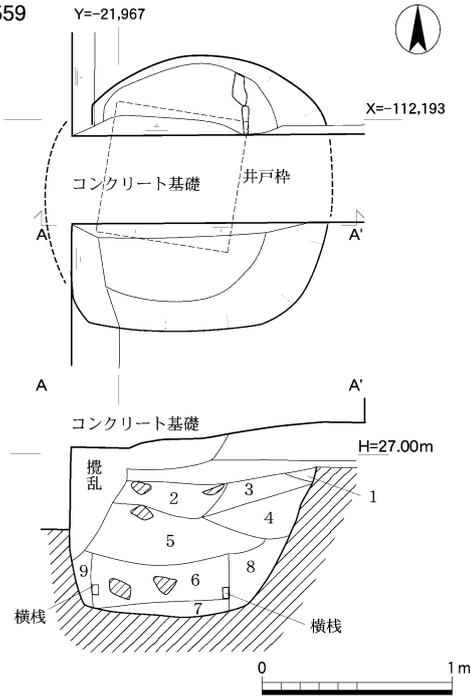
井戸221(図15) 中央部で検出したが大部分が攪乱され遺存状態は良くない。掘形の大きさは不明で、直径1.2mほどの曲物を設置している。井戸の深さ0.75m、井戸底の標高26.60mを測る。



- 1 10YR3/2 黒褐色細砂
- 2 10YR4/2 灰黄褐色シルト 有機物含む
- 3 10YR4/1 褐灰色細砂(井戸掘形)

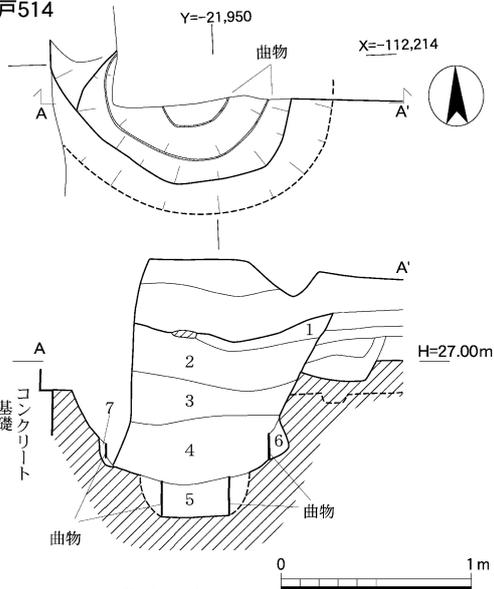
図15 井戸221実測図(1:40)

井戸559



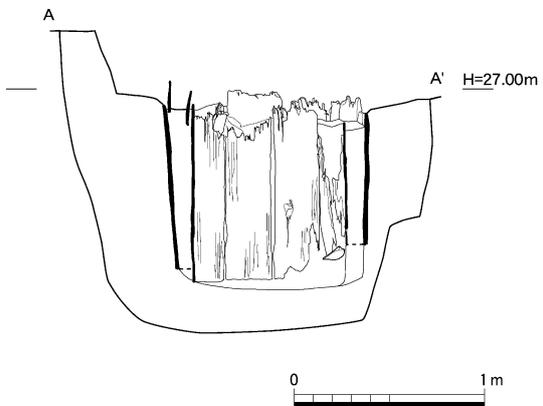
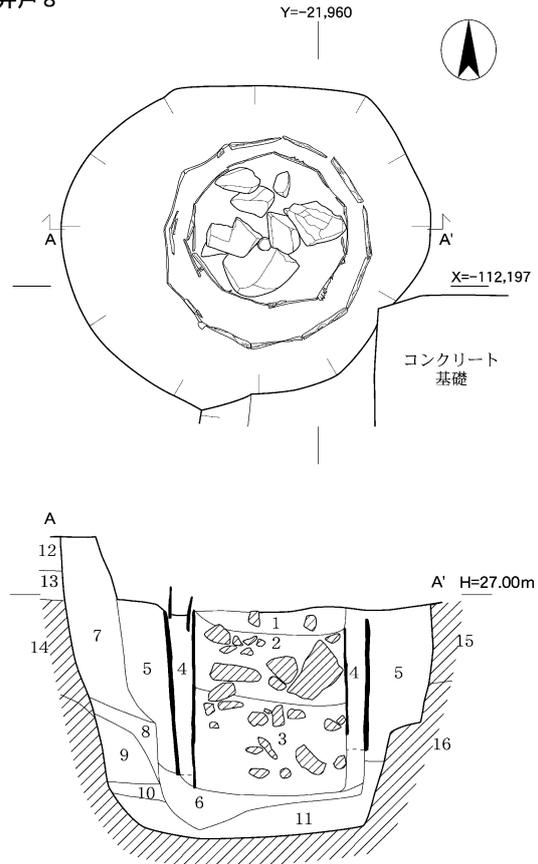
- 1 10YR4/1 褐灰色砂泥 粘質、炭少量混 (土坑か)
- 2 10YR3/1 黒褐色砂泥 φ3~10cm礫少量含む
- 3 10YR4/3 にぶい黄褐色砂礫
- 4 10YR4/1 褐灰色砂泥 粘質 2.5Y3/2暗褐色砂礫混
- 5 10YR3/1 黒褐色砂泥 φ3~10cm礫・炭少量含む
- 6 2.5Y4/2 オリーブ 褐色砂泥 粘質 φ10~15cm礫中量、炭少量含む (井戸埋土)
- 7 10YR4/4~4/6 褐色泥土 10YR7/8 黄橙色砂泥 ブロック混、φ5~10cm礫中量含む
- 8 2.5Y4/2 灰黄褐色砂礫 (井戸掘形)
- 9 2.5Y3/1 黒褐色砂礫 (井戸掘形)

井戸514



- 1 2.5Y4/3 オリーブ褐色細砂
- 2 10YR3/3 暗褐色細砂 φ2~6cm石少量含む
- 3 2.5Y3/1 黒褐色細砂 2.5Y4/3 オリーブ褐色シルトブロック含む
- 4 2.5Y3/2 黒褐色粗砂 φ2~4cm石中量、シルト含む
- 5 2.5Y4/2 暗灰黄色砂礫
- 6 10YR3/1 黒褐色砂泥 7.5YR3/4 暗褐色粗砂ブロック含む
- 7 10YR4/1 褐灰色砂泥 10YR4/4 褐色粗砂含む

井戸8



- 1 10YR3/2 黒褐色シルト
- 2 10YR3/1 黒褐色粗砂 φ5~10cmの石多量含む
- 3 2.5Y3/2 黒褐色細砂 φ3~10cmの石含む
- 4 10YR3/3 暗褐色粗砂 φ1~5cmの石多量含む
- 5 10YR3/2 黒褐色粗砂 φ1~5cmの石多量含む
- 6 10YR4/2 灰黄褐色砂礫
- 7 2.5Y4/1 黄灰色砂礫
- 8 10YR4/3 にぶい黄褐色砂礫
- 9 10YR4/2 灰黄褐色砂礫
- 10 10YR3/2 黒褐色シルト
- 11 7.5YR4/3 褐色砂礫
- 12 2.5Y4/2 暗灰黄色粗砂
- 13 2.5Y3/2 黒褐色粗砂
- 14 2.5Y4/1 黄灰色砂礫 細砂含む
- 15 10YR4/3 にぶい黄褐色砂礫
- 16 10YR4/2 灰黄褐色細砂 砂礫含む

図16 井戸559・514・8実測図(1:40)

井戸 559 (図 16) 井戸の中央をコンクリート製地中梁で分断されている。木枠は残っていないが横棧が遺存し、方形板組であることがわかる。掘形の大きさは南北 1.45 m、木枠東西 0.7 m、井戸の深さ 0.75 m、井戸底の標高 26.10 mを測る。

井戸 514 (図 16) 調査区南東部で検出し北東の大部分を壊されている。二重の曲物を設置している。曲物の大きさは外側が直径 0.85 m、内側 0.3 m、井戸の深さ 1.0 m、井戸底の標高 26.20 mを測る。

(4) 室町時代の遺構 (図 12)

室町時代の遺構としては溝・井戸・土器溜・土坑がある。

井戸 8 (図 16、図版 5) 中央部で検出し、溝 2 によって木枠の上部を壊されている。溝 2 より古い遺構である。木枠は円形縦板組で二重に設けられている。掘形の大きさは 1.9 m × 1.7 m、木枠の内側の直径は 0.8 m、外側の直径は 1.05 m、木枠の高さ 0.9 m、井戸の深さ 1.6 m、井戸底の標高 25.70 mを測る。中には大きな石が多量に入っており、一時期に埋め戻されたと推定される。この井戸は今調査でもっとも新しく、井戸底はもっとも深い。室町時代になると地下水位が下がったことが予想される。

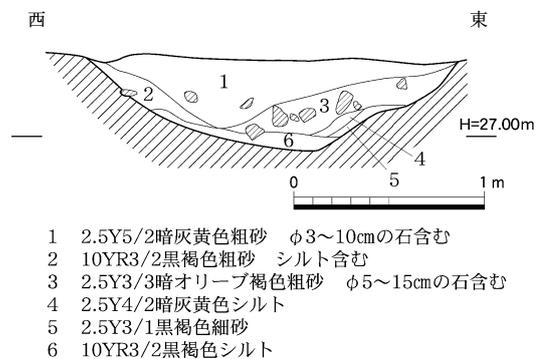


図 17 溝 2 断面図 (1 : 40)

溝 2 (図 17) まっすぐ北を指す南北方向の溝で中央部東寄りに位置する。南端はフーチングに隠れ不明である。幅約 1.8 m、深さ 0.4 mを測り、約 15 mにわたって検出した。溝の底部にはシルト層が堆積し、一時期滞水していたと思われる。

溝 18 東半中央部で検出し東西方向を向く。幅 1 m、深さ 0.4 mを測り、長さ 5 m分検出した。溝 2 と溝 18 は、交差部がフーチングによって隠れているものの、遺構の時期や規模からみてL字形に連結している可能性がある。烏丸通に面した屋敷跡(町屋)の区画溝と類推される。

土坑 7 (図 18、図版 5) 調査区北端部で検出し、東西 0.66 m、南北 0.83 m、深さ 0.3 mの小判形を呈する。中にはぎっしりと土師器の皿で充填されていた。土も流入しないほどの密度で土器が一時期に埋納されている。土坑下部には完形を保つ状態で埋

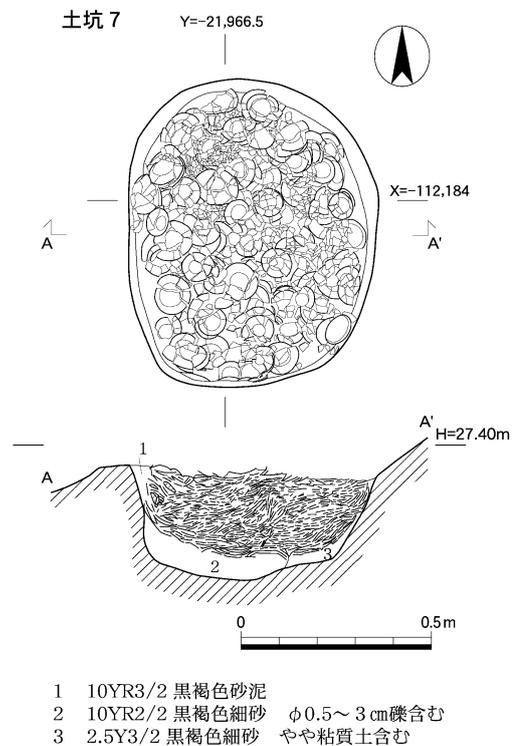


図 18 土坑 7 実測図 (1 : 20)

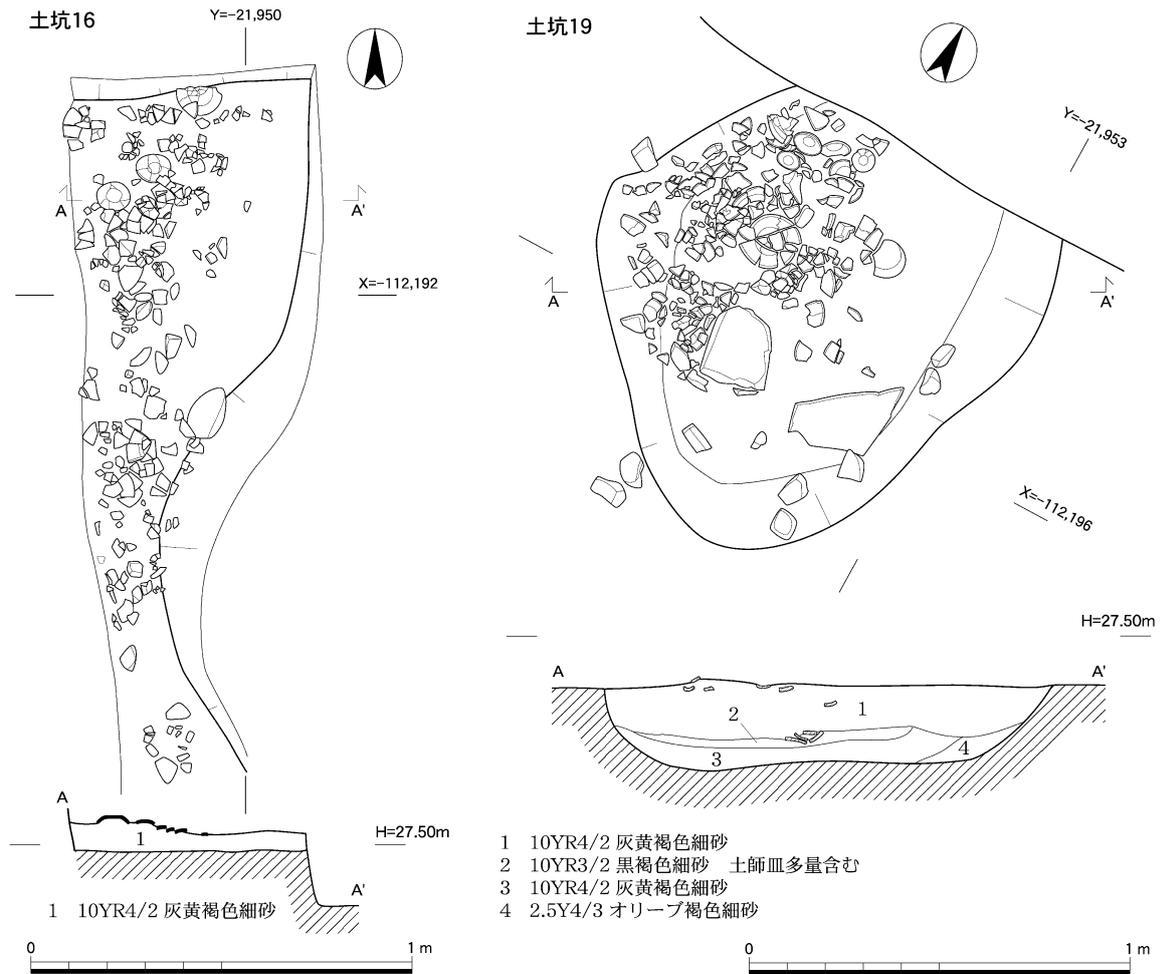


図19 土坑16・19実測図(1:20)

納された皿が多くみられたが、上層の大部分は土圧によって細かく破碎されていた。図17の平面図は底部に近いところで実測した。皿の大きさが2種類に限られ、特異な土器溜(土坑)である。

土坑16(図19) 土坑19の北東部で検出した。四方を攪乱されているため遺構の規模は不明である。東西0.5m、南北1.8mの範囲に集中して土器が出土した。

土坑19(図19) 調査区東寄りで検出し、幅1.1m、深さ0.2mを測る。土器類は土師器皿を中心に出土した。

土坑4 西側半分をフーチングで壊されている。南北1.5m、深さ0.75mの隅丸方形を呈する。埋土から備前焼の焼締陶器がまとまって出土している。

(5) 江戸時代の遺構(図12)

江戸時代の土坑は少なく南東部で検出した。土坑3は方形、土坑20は円形を呈し、中から破損した多くの陶磁器が出土した。土坑3の陶磁器は大部分が二次焼成を受けており、火災にあった後の廃棄土坑と思われる。江戸時代後期から幕末に属している。

4. 遺 物

遺物は整理箱で123箱出土した。古墳時代後期から江戸時代までの土器類・瓦類・土製品・木製品・金属製品・石製品などがある。

古墳時代の土器類はわずかで、古代の基盤層である砂礫層から出土している。磨滅している土器もあり自然流路に流されてきたものと思われる。平安時代前期から中期の遺物は、池550中心に出土し、鎌倉時代以降の遺構にも混入している。平安時代後期から鎌倉時代の遺物は、井戸や包含層から全域にわたって出土した。室町時代の遺物は、土坑などからまとまって出土した。

(1) 平安時代の土器類

池550出土土器(図20、図版6) 池550出土土器には土師器(1～17)、須恵器(18～26)、黒色土器(27～29)、緑釉陶器(30～37)、灰釉陶器(38～43)がみられる。土師器は高台の付かない杯A(1～8)と高台が付く杯B(9)、椀(10)がある。8は平らな底部から屈曲して強く立ち上がり古相の形態を示し、1～7は底部が小さく外方へ開く体部をもつ。3～8は端部内面に沈線をもうける。10は回転台を使用して底部に糸切り痕を残す。土師器皿(12)は口径が大きく底部をヘラケズりする。皿(11)は底部に記号のような墨書を一字描いている。13～16は口縁部外面を強くヨコナデする。13・15は端部内面に沈線を施す。土師器甕(17)は「く」の字形の頸部に上方へ肥厚させた口縁部をもつ。体部外面は縦方向にハケメ、頸部内面は横方向にハケメを施す。須恵器蓋(18～21)は宝珠つまみを付け、口縁部を屈曲させる。18には上面に3文字の墨書を描くが読みとれない。19・21は転用硯である。須恵器杯B(22～24)は大きさに違いはあるもの、いずれも逆台形の高台が付きまっすぐ外方へ開く体部である。25は小

表3 遺物概要表

時 代	内 容	コンテナ箱数	Aランク点数	Bランク箱数	Cランク箱数
平安時代	土師器、須恵器、黒色土器、緑釉陶器、灰釉陶器、輸入陶磁器、瓦、石製品、銭貨		土師器31点、須恵器16点、黒色土器7点、緑釉陶器8点、灰釉陶器7点、輸入陶磁器19点、瓦9点、石製品3点、銭貨1点		
鎌倉時代	土師器、須恵器、瓦器、焼締陶器、輸入陶磁器、埴、鏡、銭貨		土師器34点、須恵器2点、瓦器2点、瓦質土器3点、輸入陶磁器2点、埴3点、鏡1点、銭貨10点		
室町時代	土師器、瓦質土器、焼締陶器、輸入陶磁器、木製品		土師器131点、瓦質土器1点、焼締陶器9点		
江戸時代	陶磁器、銭貨		銭貨1点		
合 計		138箱	300点(18箱)	120箱	0箱

※ コンテナ箱数の合計は、整理後、Aランクの遺物を抽出したため、出土時より15箱多くなっている。

池550

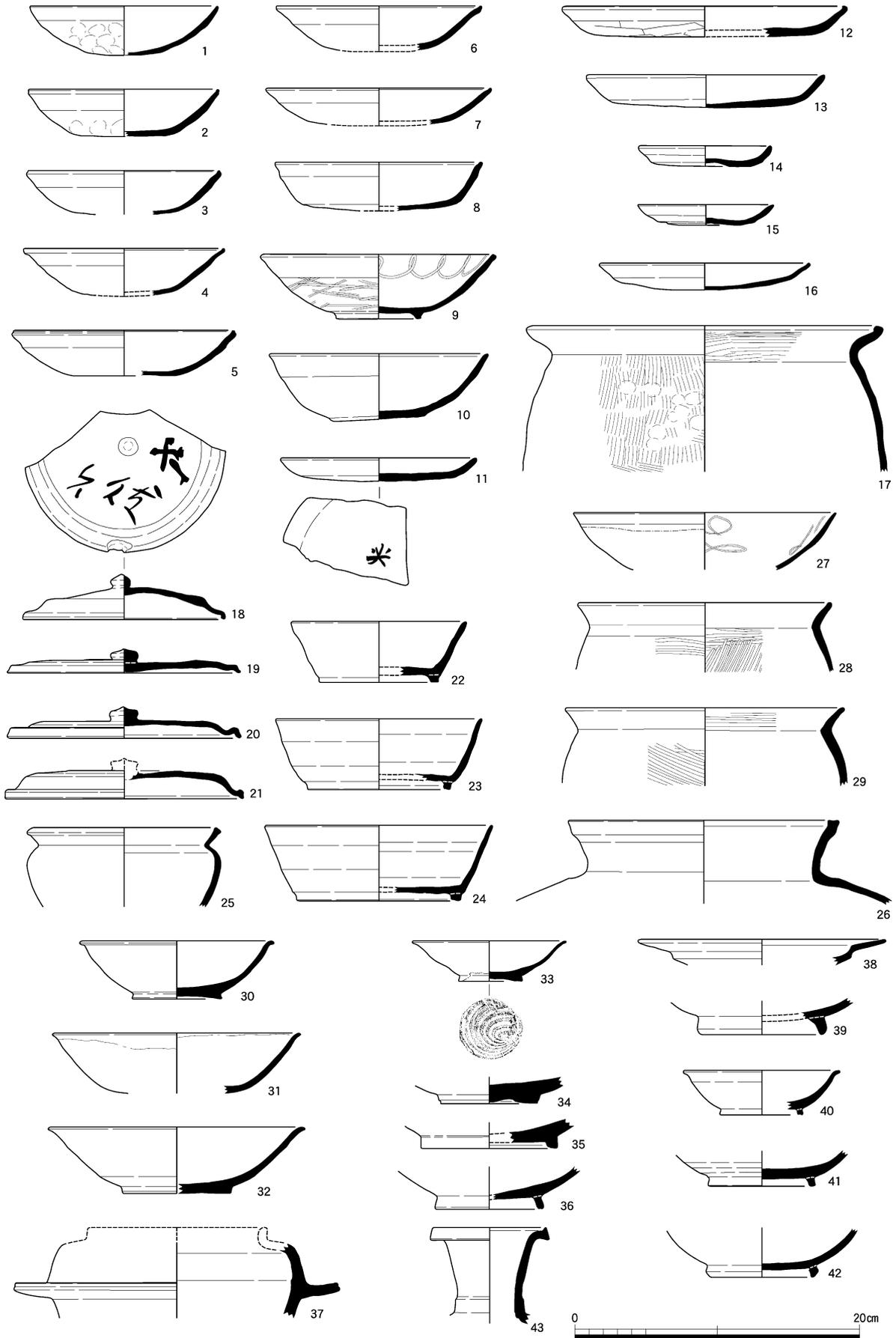


图 20 池 550 出土土器实测图 (1 : 4)

型の鉢で「く」の字に開く頸部で端部に平坦面をもつ。須恵器甕(26)は口縁端部に平坦面をもち、体部外面を平行タタキ、内面に青海波文が残る。黒色土器(27)は椀A類で内面から口縁部外面まで黒色化している。内面を丁寧にヘラミガキし暗文を施す。外面はナデ調整。28・29も内面をいぶし焼きする甕である。どちらも体部外面をヘラミガキし、28は体部内面もヘラミガキする。緑釉陶器は削り出しの高台(30・32～35)と貼り付けの高台(36)がある。削り出し高台の中でも30・32・33は円盤高台、34は蛇の目高台、35は輪高台である。36は東海産の緑釉陶器で他は京都産である。37は緑釉陶器の羽釜で鏝の上面から頸部にかけて緑灰色の釉を施す。鏝の下面から体部にかけては煤が付着し、実際に使用されていたことを示している。38～43は灰釉陶器で38は段皿、39は三日月高台の皿、40・41は逆台形の高台をもつ椀、42は三日月高台の椀である。43は壺で頸部内外面に灰釉を施す。いずれの灰釉もハケ塗りである。時期はI期新段階からII期新段階まで幅が認められ、池が作られてから機能している時期の幅を示している。

井戸521出土土器(図21、図版7) 土師器(44)、須恵器(49・50)、黒色土器(45～48)、灰釉陶器(51)がみられる。土師器皿(44)は緩やかに外方へ立ち上がる体部に肥厚させる口縁部をもつ。口縁部外面を強くナデ、外反させる。須恵器(49・50)は小型の瓶子である。黒色土器(45・46)は椀A類で内面をいぶし焼きする。45は内面を丁寧にヘラミガキし、外面はヘラケズリとナデ調整。46は内外面を丁寧にヘラミガキする。47は風字硯の海部にあたる。脚部は欠損。口縁端部内面に沈線を施す。内外面とも小判型の短辺に沿うようにヘラミガキする。甕(48)は内面を黒色化させるA類で、頸部内面をヘラミガキする。体部外面には煤が付着している。灰釉陶器(51)は頸部から口縁の内外面に灰釉をかける大型の壺である。この一群はII期新段階(10世紀前半)に属する。

井戸471・472出土土器(図21、図版7) 井戸471出土土器には土師器皿A(53～56)とコースター型皿Ac(57・58)がある。52は底部をヘラおこした回転台使用の皿で、西国地方からの搬入品である。53～56はいわゆる「ての字」状口縁を呈し、53・54は薄手、55・56は厚手である。57・58は折り返しの口縁部が分厚い。井戸472出土土器には土師器皿(59・60)がある。井戸471と472はIV期新段階の同時期と思われる。

井戸323出土土器(図21) 土師器皿(61～63)と羽釜(64)がある。皿Nは小の61と大の62・63がある。羽釜(64)は井戸枠に用いられ底部を欠く。丸みのある体部に口縁からやや下に鏝を貼り付ける。内外面ともにハケメで調整する。ハケメは下部と上部で器具を使い分けている。鏝から下に煤が付着している。V期中段階。

土坑526出土土器(図24) 須恵器甕(238～242)がある。238と242は口縁部を縦方向に切り取り端部を上方につまみ上げる。肩部には平行タタキが明瞭に残る。東播磨産と思われる。239と240は口縁端部斜め方向に切り取る。肩部には格子タタキが明瞭に残る。産地は明確ではないが瀬戸内海周辺と思われる。241は頸部を強く外反させ、口縁をかすかに上方へ持ち上げ端部を丸くおさめる。肩部にはまばらに平行タタキを施す。

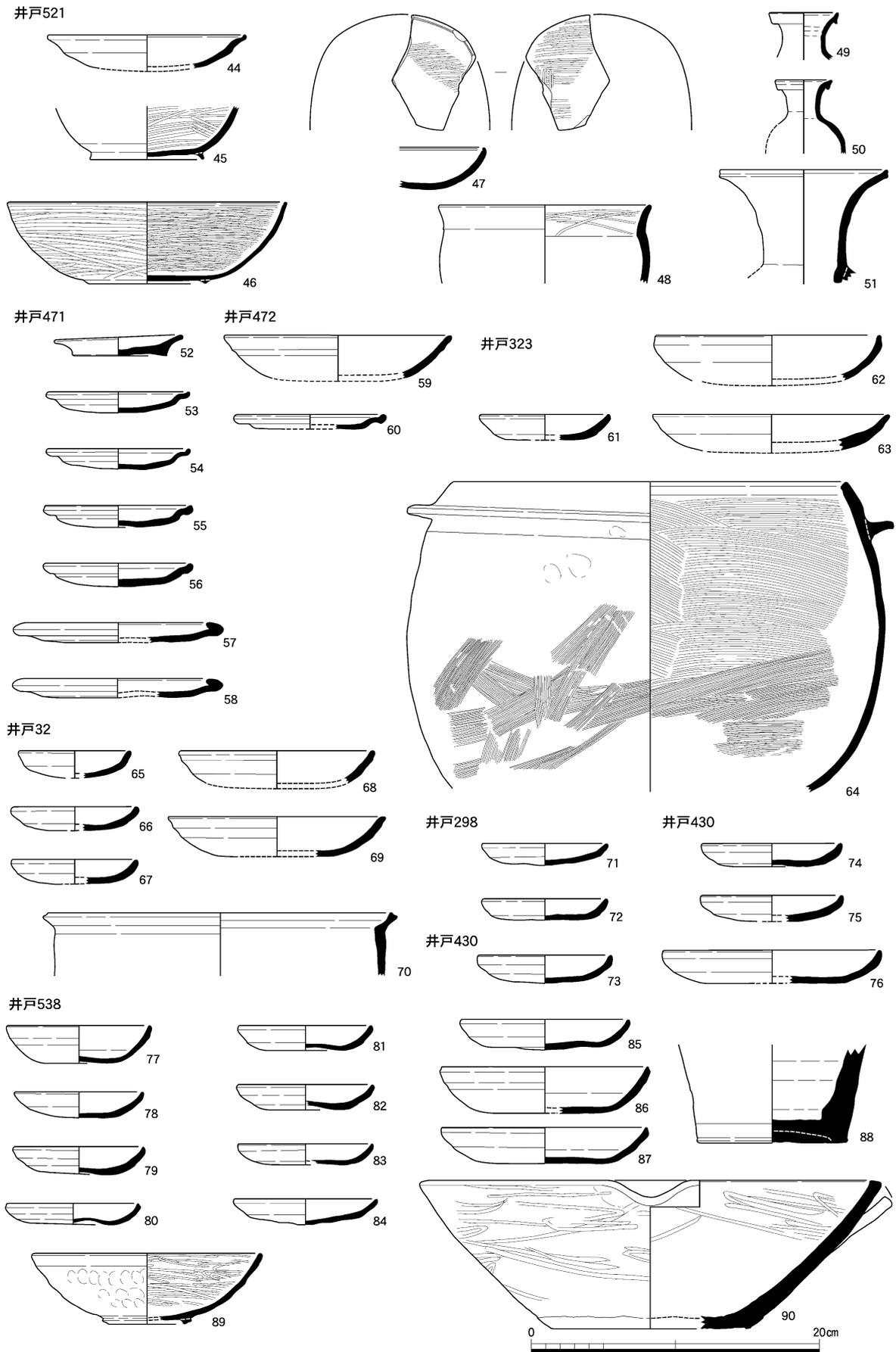


图 21 井戸 521・471・472・323・32・298・430・538 出土土器实测图 (1:4)

(2) 鎌倉時代の土器類

井戸 32 出土土器 (図 21) 土師器 (66 ~ 69) と瓦器皿 (65)、瓦質鍋 (70) がある。土師器皿 N は口径が 8.5 cm の小 (66・67) と口径 13.3 ~ 14.9 cm の大 (68・69) がある。皿 N 大 (69) は口縁部外面を二段ナデの調整。65 は口縁部がやや外反する器形である。瓦質鍋は内外面ともヘラでナデ調整する。VI 期古 ~ 中段階に属する。

井戸 298・430 出土土器 (図 21) 井戸 298 出土土器には土師器皿 N (71・72) がある。井戸 430 出土土器には土師器皿 N があり、口径 8.6 ~ 9.7 cm の小 (73 ~ 75) と口径 15.2 cm の大 (76) の 2 種に分かれる。VI 期中段階。

井戸 538 出土土器 (図 21、図版 7) 土師器 (77 ~ 87)、須恵器 (88)、瓦器 (89)、瓦質土器 (90) がある。土師器皿は白色系 (77) と赤色系 (78 ~ 87) がある。皿 N は口径 8.8 ~ 9.9 cm の小、

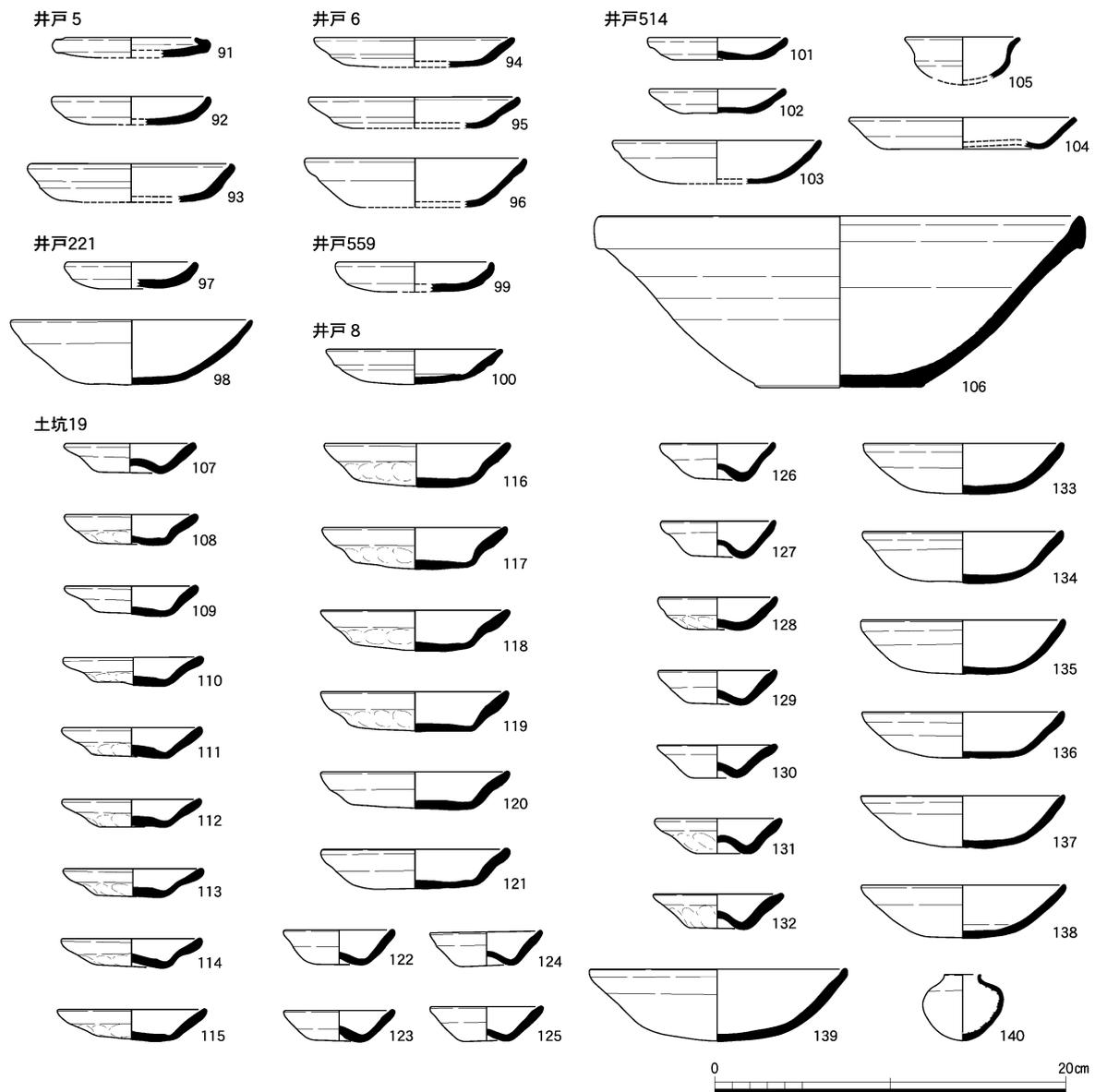
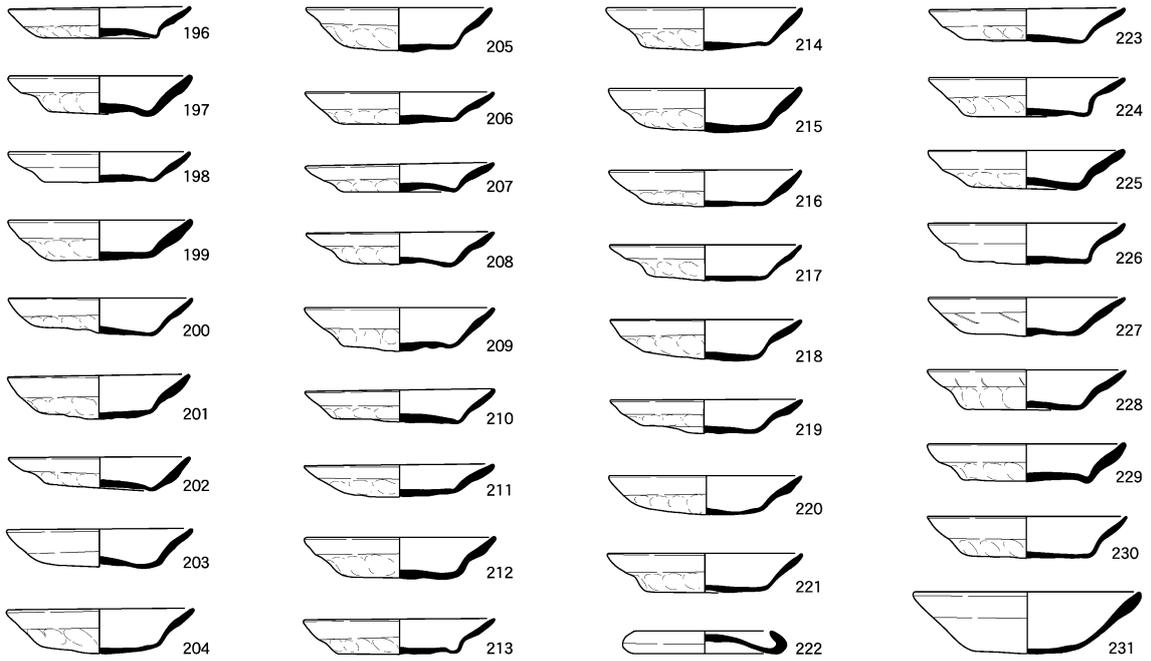
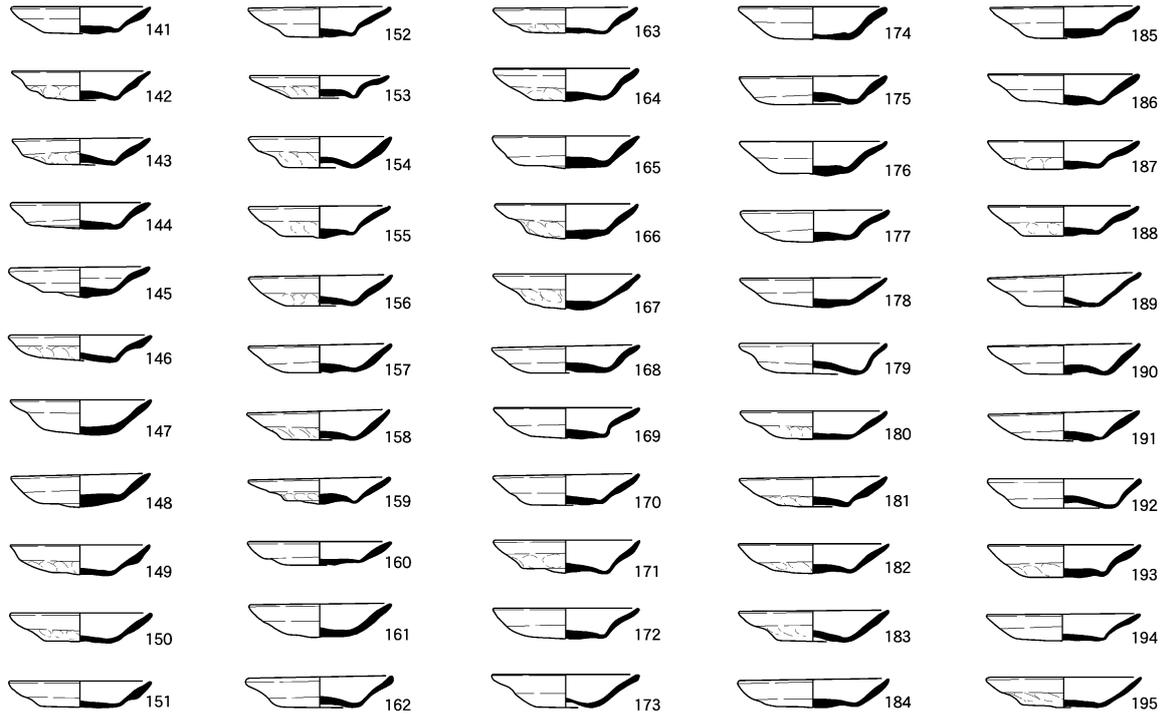


図 22 井戸 5・6・221・559・8・514、土坑 19 出土土器実測図 (1 : 4)

土坑 7



土坑 16

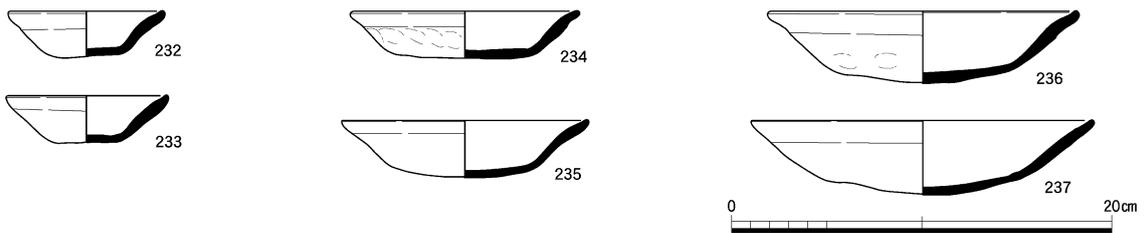


图 23 土坑 7·16 出土土器实测图 (1 : 4)

口径 11.5 cmの中、口径 14.2 cmの大がある。88 は須恵器壺の底部で上半部の器形は不明である。瓦器椀 (89) は内面をヘラミガキし、見込みに暗文を施す。90 は瓦質の片口鉢で内外面を横方向にヘラミガキする。内面は滑らかな使用痕が認められ、播鉢として利用されている。VI期新段階。

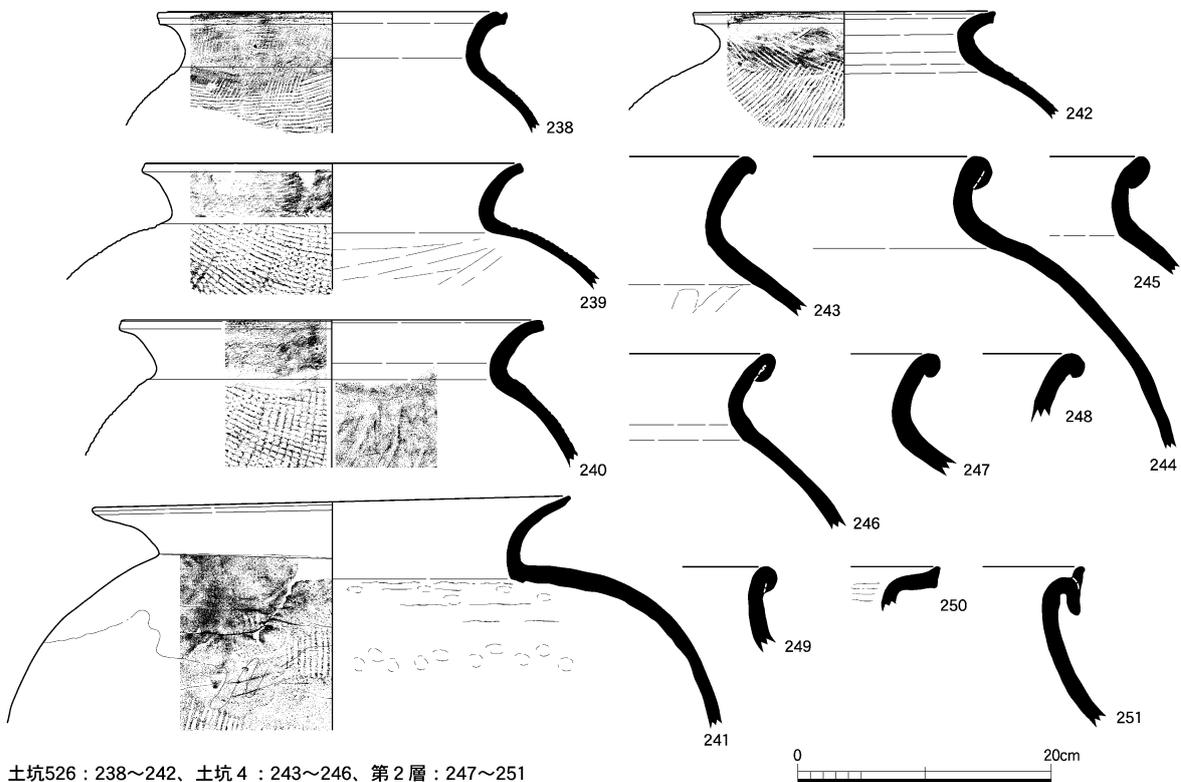
井戸 5・6・221・559 出土土器 (図 22) 井戸 5 には土師器皿 N の小 (92) と大 (93)、コースター型皿 Ac (91) がある。井戸 6 には赤色系皿 N (94・95) と白色系皿 S (96) がみられる。井戸 221 は赤色系皿 N (97) と白色系皿 Ac (98)、井戸 559 は赤色系皿 N (99) がある。いずれもVI期新段階に属する。

井戸 514 出土土器 (図 22) 土師器 (101～104)、瓦質土器 (105)、須恵器鉢 (106) がある。土師器皿 N は口径 7.1～7.8 cmの小 (101・102) と口径 12.7 cmの大 (104) に分かれ、白色系皿 S (103) がある。105 は瓦質の小型鉢、106 は東播系須恵器鉢である。105 は内面から見込みにかけて使用痕がみられる。VII古段階。

(3) 室町時代の土器類

井戸 8 出土土器 (図 22) 100 は土師器皿 N で、口縁部外面を強くナデて端部をとがらせる。体部内面に浅い圈線をめぐらす。

土坑 19 出土土器 (図 22、図版 8) 土師器の赤色系皿 N は口径 7.4～8.4 cmを測る小 (107～115) と口径 10.4～10.6 cmの大 (116～121) に分かれる。白色系土師器はヘソ皿 Sh (122～132) と皿 S (133～139) がある。皿 Sh は口径が 6.2～7.3 cm、皿 S は口径が 11.2～11.5 cm



土坑526 : 238～242、土坑 4 : 243～246、第 2 層 : 247～251

図 24 土坑 526・4、第 2 層出土土器 (1 : 6)

と 13.5 cm の 2 種がみられる。140 は瓦質の小壺である。Ⅷ期中段階。

土坑 7 出土土器 (図 23、図版 7) 土坑 7 からは土師器皿が多量に出土している。大半が赤色系皿であり、1 点だけ白色系皿 (231) がみられ、特異な土器の構成といえる。皿 N は口径が 7.2 ~ 8.2 cm の小 (141 ~ 195) と口径 9.4 ~ 10.5 cm の大 (196 ~ 229) がある。ほかにコースター型皿 Ac が 1 点と白色系皿 S (231) がある。Ⅷ期新段階に属する一群である。

土坑 16 出土土器 (図 23) 土師器の赤色系皿 N が 1 点 (234) と、口径が 8.0 ~ 8.3 cm を測る白色系皿 S の小 (232・233) と口径 12.9 cm の中 (235)、口径 16.1 ~ 17.9 cm の大 (236・237) の 3 種がある。Ⅸ期古段階に属する。

土坑 4 出土土器 (図 24) 焼締陶器甕 (243 ~ 246) がある。243 は口縁部を外方へわずかに折り曲げ丸くおさめる。244 ~ 246 は口縁部を折り曲げて玉縁状を呈する。いずれも備前産である。

第 2 層出土土器 (図 24) 焼締陶器甕 (247 ~ 249) は玉縁が小さく古相を示す備前産である。250・251 は口縁部を N 字形をかたどる常滑産の甕である。

(4) 輸入陶磁器

青白磁 (図版 8) 合子の蓋と身がある。身 (281) は菊座状の体部に受け部が付く。蓋 (280) は天井部上面には 6 個の円弧が描かれ内外に草花文や小花文を浮き出させる型造りである。280 と 281 は大きさや釉薬が同じ青白色を呈し、組み合わせられる。平安時代後期 (12 世紀) に属する。

白磁 (図版 8) 合子の蓋 (282) と身 (283) は口径と釉調が類似し、組み合わせられる。282 の体部には輪花を施し天井部上面に型造りで文様をあらわす。小破片のため文様は不明。284 と 285 は四耳壺の口縁部と肩部、286 と 287 は水注の口縁部と取手と思われる。288 と 289 は椀Ⅳ類、290 は椀Ⅴ類、291 は椀Ⅷ類である。291 は見込みを輪状に釉薬をかきとる。292 と 293 は皿Ⅳ類、294 と 295 は皿Ⅶ類である。294 は口ハゲの口縁。いずれも平安時代後期 (11 世紀から 12 世紀) に属する。

青磁 (図版 8) 296 は体部に花文と茎を浮かび上がらせた壺の破片と思われる。体部内面に段を有し内外面に青磁釉を施す。外面の釉は厚い。297 は円球形の小壺である。体部の腰と肩に列点を浮き出させる。無頸の口縁部で底部はわずかに窪ませた無高台である。内外面に釉薬をかける。漆で継いでいる。298 は龍泉窯系青磁椀Ⅲ類で外面にかすかに鎬蓮弁文を有し、厚い釉薬をかけている。299 は龍泉窯系青磁椀Ⅰ類で内面見込みに片彫りの花文を施す。300 は龍泉窯系杯Ⅲ類で内面見込みに双魚文を有する。299 が平安時代後期 (12 世紀)、ほかは鎌倉時代から室町時代初期 (13 世紀中頃から 14 世紀初頭) である。

(5) 瓦類・埴類

軒丸瓦 (図 25) 252 は複弁八弁蓮華文軒丸瓦で周縁と瓦当裏面を欠く。盛り上がった中房は押されて蓮子が不明瞭。内外区をわける圏線と珠文帯をめぐらす。外区には鋸歯文がめぐると思わ

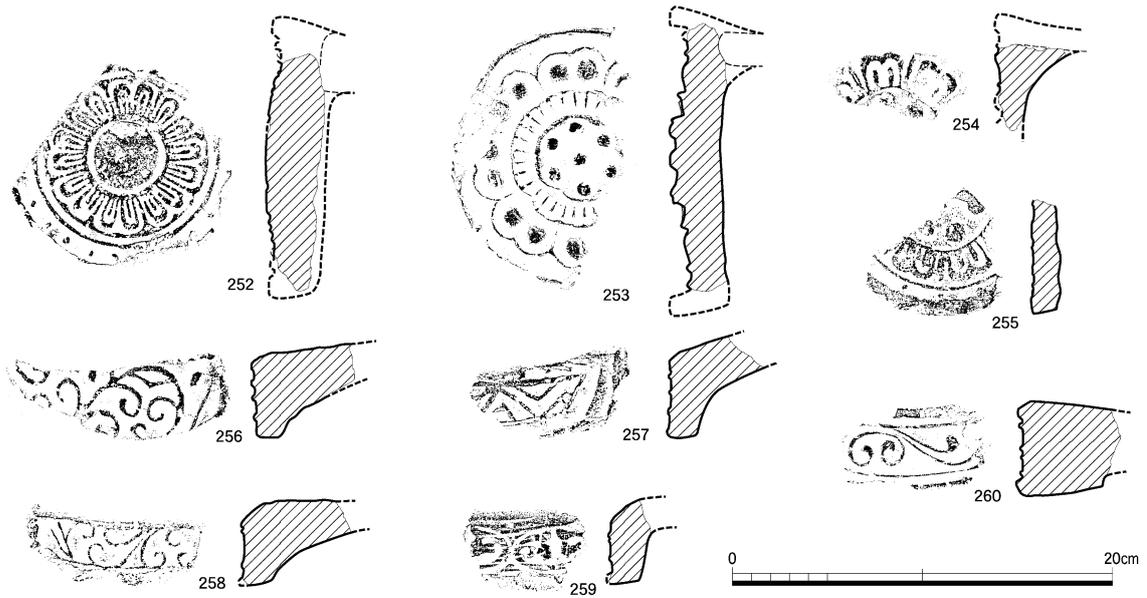


図 25 軒瓦拓影・実測図 (1 : 4)

れ平城宮式 6282 型式に類似する。F 9 北第 2 層出土。253 も周縁を欠損し複弁八弁蓮華文軒丸瓦である。中房には 1 + 6 の蓮子を配し、周囲は蕊がめぐる。硬質の焼成で播磨系軒丸瓦である。F 11 北溝 18 出土。254 と 255 は類似する複弁八弁蓮華文である。254 は F 7 北第 1 層、255 は F 7 東井戸 430 出土。

軒平瓦 (図 25) 256・257 は唐草文軒平瓦である。256 は栗栖野瓦窯産と思われる。256 は F 2 北土坑 180、257 は F 4 北井戸 538 出土。258 は幾何学文軒平瓦で、F 20 北東土坑 390 出土。259 は三鈷杵文軒平瓦で、F 7 北東井戸 8 出土。256 ~ 259 は瓦当の成形が折曲げ作りで、京都系の軒平瓦である。260 は唐草文軒平瓦で段顎である。F 8 北第 3 層出土。

方形有孔埴 (図 26) 方形有孔埴はいずれも破損している。261 は短辺 10.6 cm、長辺 8.0 cm 以上、厚さ 5.5 cm、F 4 東溝 2 上層から出土。262 の大きさは短辺 11.6 cm、長辺 21.3 cm 以上、厚さ 4.5 cm、F 7 北層から出土。263 は短辺 15.3 cm、長辺 14.0 cm 以上、厚さ 4.3 cm を測り、F 19 北東 2 層から出土している。261・262 は直径 2.5 cm ほどの穴、263 は直径 3.0 cm の孔を穿つ。他の出土例から 2 孔あったと思われる。263 の下面は斜め方向に縄タタキを行っているが、他は上面下面と両側面は長辺に平行、端面は短辺に平行に縄タタキを行っている。263 は上面下面とも平坦であるが、261 と 262 は孔周辺がややくぼむ。窪みの中も縄タタキ目が残る。胎土には長石粒や石英粒を含み、焼成はいずれも瓦質である。現段階では用途不明の遺物であるが、当該地一帯の中世遺跡から出土し、何らかの工房に関係する遺物であることはまちがいないであろう。

(6) 石製品

石製帯飾具 (図 27・28) 石製帯飾具が 3 点出土している。264・265 は巡方で裏面に潜り穴を設けている。266 は丸軛で裏面には潜り穴がみられず、未製品の可能性がある。巡方の 264 は井戸 521、265 は第 2 層から出土し、どちらも横 3.8 cm、縦 3.6 cm、厚さ 0.6 cm を測る。丸軛の

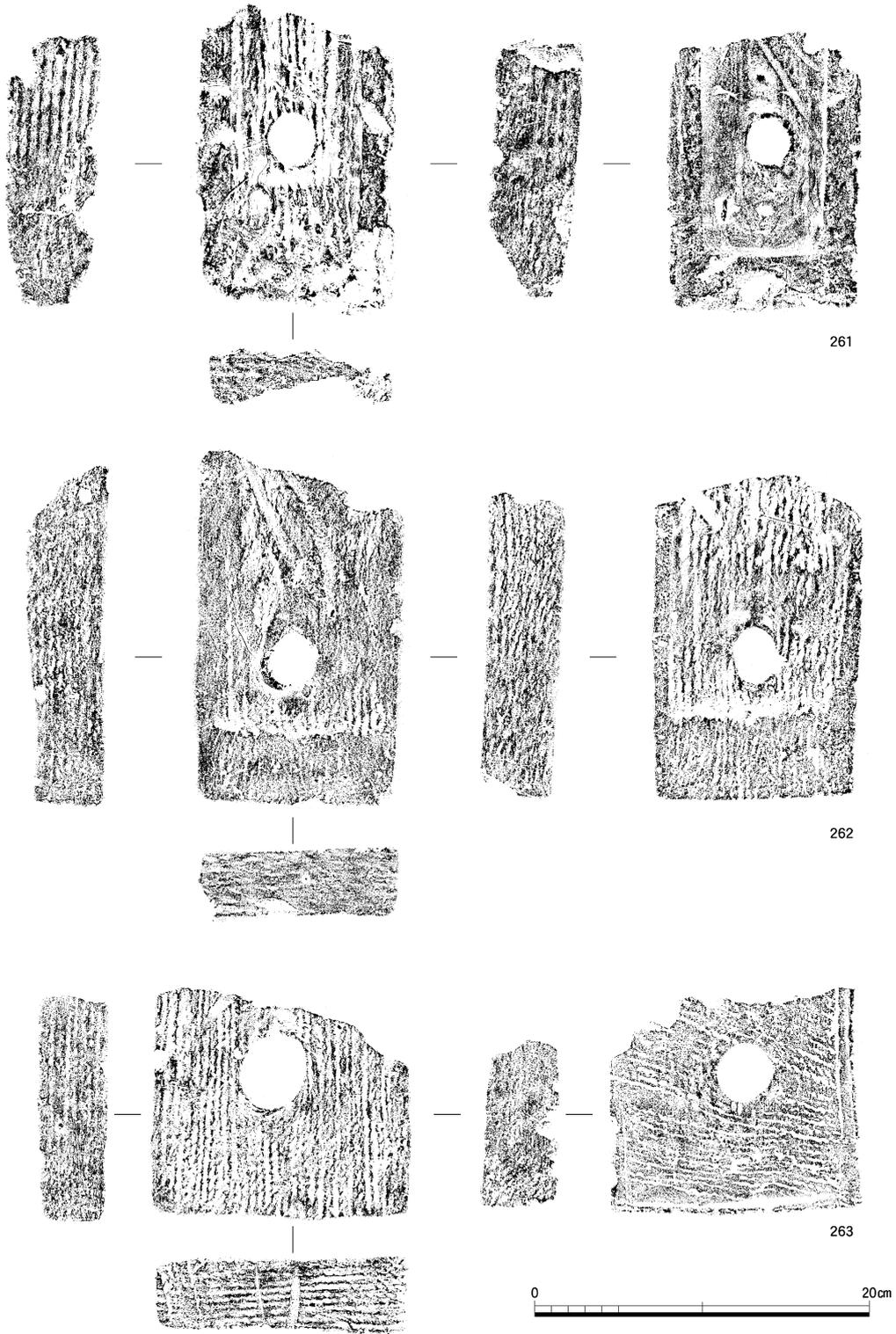


图 26 方形有孔埴拓影 (1 : 4)

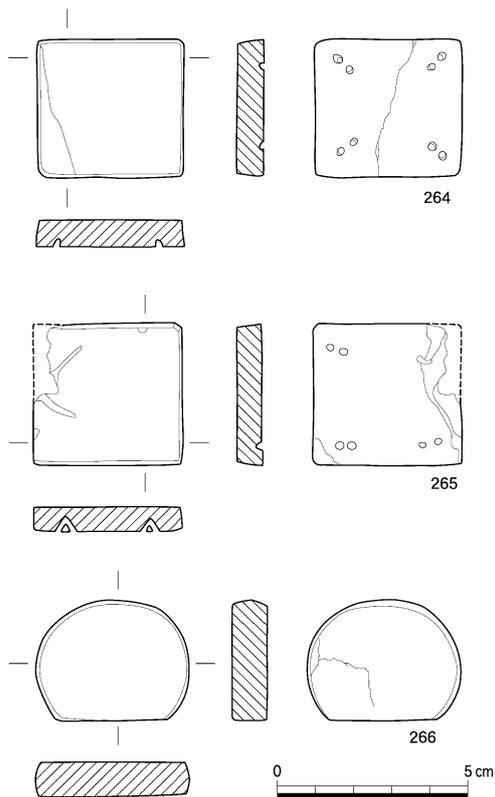


図 27 石製帯飾具実測図 (1 : 2)

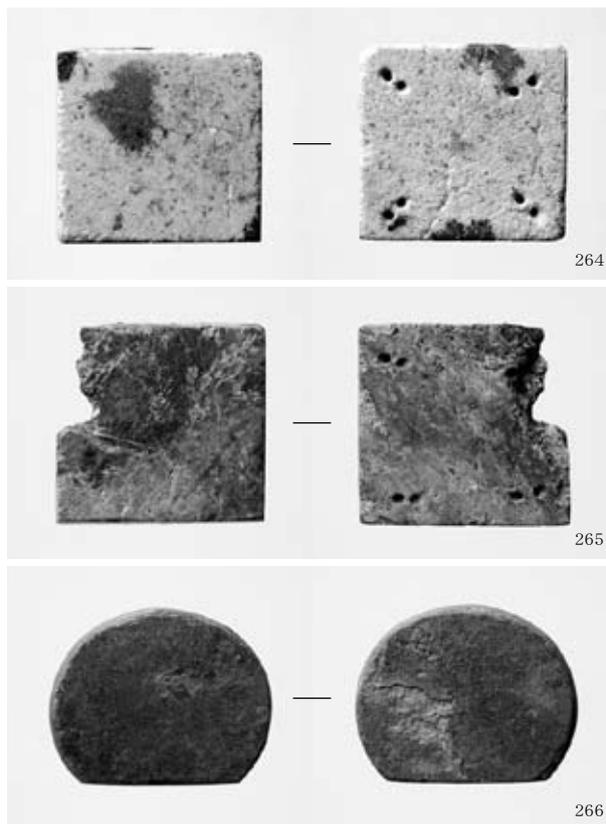


図 28 石製帯飾具

266 は柱穴 58 からで横 4.0 cm、縦 3.3 cm、厚さ 0.8 cm を測る。265 と 266 が緑色、264 は白色を呈する。

八条三条七町では石製帯金具の製作途中段階の未成品が多数出土している。今調査では加工途中の未製品は認められないため、264・265 は使用された帯金具とみてよいであろう。

(7) 金属製品

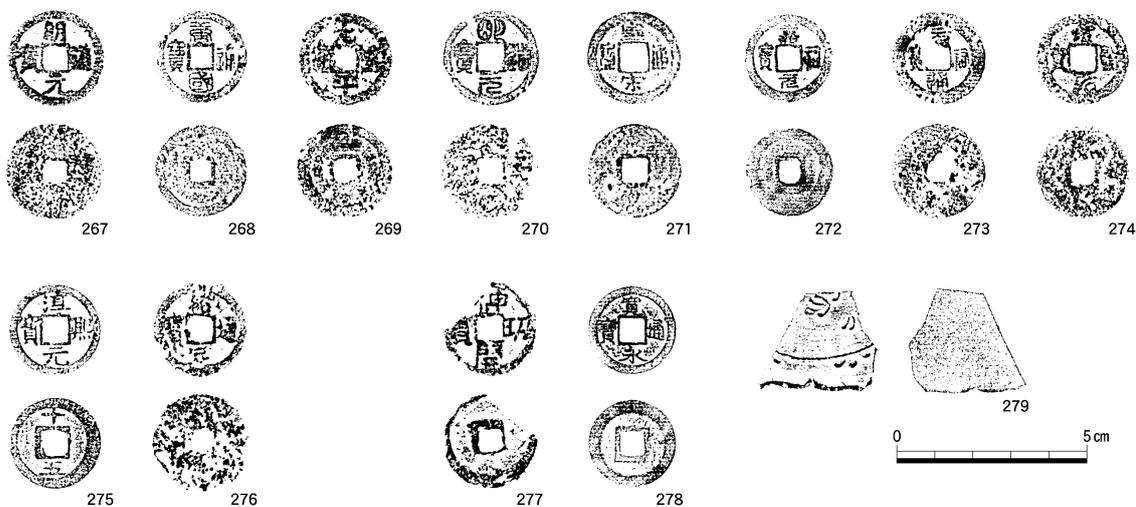


図 29 金属製品拓影 (1 : 2)

表4 錢貨一覧表

番号	国名	錢名	初鑄(年)	重量(g)	出土遺構	備考
267	唐	開元通寶	621	3.467	F 24東 土坑141	
268	南唐	唐国通寶	959	3.507	F 9 北 土坑19	
269	北宋	太平通寶	976	2.594	F 7 北東 井戸 8	
270	北宋	明道元寶	1032	3.425	F 24東 土坑140	
271	北宋	皇宋通寶	1038	3.204	F 22北東 柱穴29	
272	北宋	嘉祐元寶	1056	3.592	F 8 東 土坑187	
273	北宋	元祐通寶	1086	2.744	F 19東 柱穴372	
274	北宋	紹聖元寶	1094	3.127	F 19南東 第1層	
275	南宋	淳熙元寶	1174	3.513	F 7 北東 井戸 8	
276	南宋	紹定通寶	1228	3.435	F 1 東 溝 2	
277	日本	神功開寶	765	2.66	F 25北東 池550	
278	日本	寛永通寶		3.14	F 12東 土坑 3	新寛永

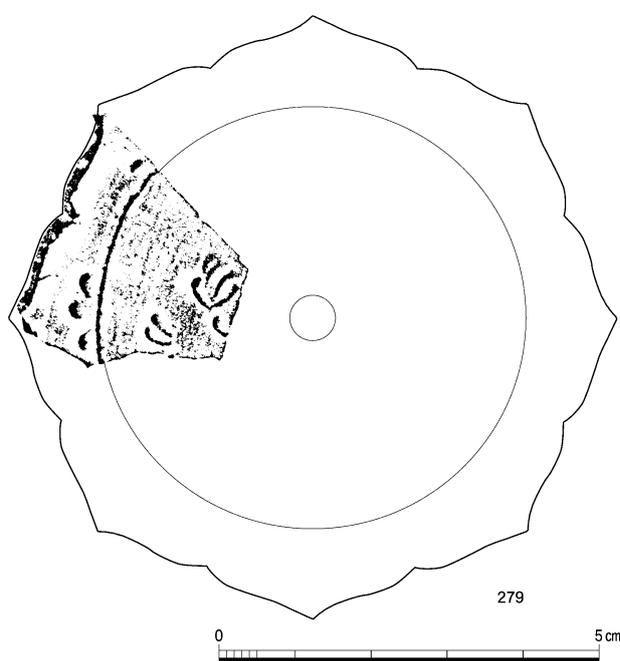


図30 八稜鏡復元図(1:1)

様は不明である。復元の大きさは直径 7.9 cm、厚さ 0.15 cmを測る。

錢貨(図29、表4) 錢貨が12点ある。中国錢が10種類(267~276)、日本錢が2種で(277・278)ある。中国錢は唐1種「開元通寶」(267)、南唐1種「唐国通寶」(268)、北宋6種「太平通寶」(269)・「明道元寶」(270)・「皇宋通寶」(271)・「嘉祐元寶」(272)・「元祐通寶」(273)・「紹聖元寶」(274)、南宋2種「淳熙元寶」(275)・「紹定通寶」(276)がある。日本錢は皇朝十二錢の「神功開寶」(276)と「寛永通寶」(278)である。いずれも1種類ずつの出土である。

八稜鏡(図29・30) 鏡の破片が第2層から1点(279)出土している。草花文八稜鏡であるが、小片のため全体の文様は不明である。

参考文献

1. 小森俊寛・上村憲章「京都の都市遺跡から出土する土器の編年的研究」『研究紀要』第3号 財団法人京都市埋蔵文化財研究所 1996年
2. 『大宰府条坊跡』-陶磁器分類編-太宰府の文化財第49集 太宰府教育委員会 2000年

5. ま と め

今調査地は元近鉄百貨店があったところで、百貨店の建物基礎によって遺跡の遺存状況に影響があると予想された。しかし、基礎と基礎の間には遺構が壊されずに残っており、平安時代以降の遺構と遺物を検出することができた。近鉄百貨店の前身は丸物百貨店である。丸物百貨店は大正9年（1920）に東本願寺から土地を借用して京都物産館として開店した。大正15年（1926）に新館が完成、昭和3年（1928）に新館西側が増築、昭和11年（1936）に南側が増築されている。調査区では3種類の異なったコンクリート基礎のフーチングが確認されたが、基礎が作られた順番と建物の年代が一致することを確認した。



図31 昭和8年頃の丸物百貨店
(烏丸通から、近鉄百貨店所蔵)

今調査では平安時代前期から中期にかけての池や井戸、平安時代後期の井戸、鎌倉時代の柱穴や井戸、室町時代の建物・溝・井戸・土坑などを検出した。また、各時代の遺物も良好な状態で出土し、大きな成果を得ることができた。

調査地周辺の左京八条二坊・三坊では当該期の流路や土坑は検出されているものの、邸宅跡は検出されてはいなかった。その点で今調査の池550の発見は貴重な成果といえる。池550は自然流路から湿地に変化した水溜りを利用して造られたと思われる。その一部を掘り直し、形を整え、肩部に拳大の石を撒き洲浜を形成して園池としている。景石は抜き取られた可能性もあるが、もともと景石を使わない池であろう。池550からは9世紀前半から10世紀前半までの遺物が出土しており、これは9世紀前半頃に池が作られ10世紀前半頃に廃絶され埋まったことを示している。池の土壌分析で検出した珪藻の *Navicula veneta* や、オモダカ科、イボクサなどは、池が廃絶される寸前の状況を示していると考えられる。建物跡は検出できなかったが、当該地は池を備えた貴族の邸宅跡と類推できる。池は九町の南東部北寄り、四行五門と六門にかけて位置しており、邸宅の宅地は九町の東側2分の1町を占めている可能性がある。左京の七条以南八条は文献史料から平安時代後期（11世紀末葉）以降に貴族の邸宅ができたとされていたが、平安時代前期の9世紀中頃から八条でも邸宅が営まれていたことが明らかとなった。九条の東寺周辺では右大臣藤原三守や九条殿という邸宅が知られている。そのうち藤原三守邸は左京九条二坊十一・十四町に2町を占地し、庭園があり湧水があふれていると記されている（『綜芸種智院の式』『三教指帰性靈集』日本古典文学大系¹⁾71）。今調査の池も湧水で満たされていると想定できるため、藤原三守邸ほど大きくはないが宅地利用の参考となろう。また、湧水の根拠となる調査区下層で検出した旧流路の方向は北東から南西に流れていることが予想されるため、同じ水系の可能性はある。

平安時代中期の井戸 521 は烏丸小路に近い場所に作られている。町の中央部に建物があり、井戸は道路沿いに設けられていたことが想定される。ところが平安時代後期以降になると土地利用に変化がみられる。柱穴は道路沿いにも密集するようになり、井戸の位置が道路から奥へ入ったところに作られるようになる。第1面(図12)の鎌倉時代から室町時代の井戸の位置をみると、井戸が烏丸小路から西へ13mほど入ったところで、南北に5～6mおきに並んでいる。貴族の邸宅だった宅地から烏丸通に面した町屋へ転換したと類推できる。

調査区北西部で検出した鎌倉時代の掘立柱建物1の規模は東西桁行10.5m、南北梁行8.0mを測り、当該期の建物としては大型に属する。鎌倉時代から室町時代は七条町、八条院町などの商工業の町として栄えた地域である。したがってこの大型建物は特異といえる。また、建物の柱筋が平安時代に施工された四行八門制の地割りに一致する。中世段階までこの地割りが残っていることは重要な注目点である。このような検出例は数少なく、四行八門制の施工と維持に関する研究に貴重なデータを得ることができた。調査区周辺のこれまでの調査例では鋳型や鞆・坩堝などの銅製品工房に関係する遺物が多数出土している。今調査では焼土や有孔埴はみられるが、調査地内で作られていたことを示す遺物は認められない。このため、西半部で検出した大型建物は工房を管理する役所的な施設とも想定できる。

江戸時代に入ると火災廃棄土坑とみられる遺構は存在するが建物跡は認められず、明治10年になって京都駅(七条ステーション)ができるまで当該地は耕作地として利用されていたようである。鉄道が開通して烏丸通がメインストリートとなったことにより、京都駅界隈や烏丸通の開発が始まったのである。

以上のように、建物のフーチングを残しながらその間を発掘するという特殊な都市遺跡の調査となったが、平安時代の庭園遺構や鎌倉時代の建物、多数の井戸、豊富な出土遺物という大きな成果をあげることができた。

註

- 1) 京都大学西山良平教授より御教示いただいた。

付章 自然科学分析

パリノ・サーヴェイ株式会社

はじめに

今回の分析調査では、平安京左京八条三坊九町跡で検出された平安時代前期から中期の池 550 および室町時代の溝 2 の古環境に関する情報を得ることを目的として、珪藻分析、花粉分析、植物珪酸体分析、種実分析を実施する。

1 調査地点

今回の調査区で検出された池 550 は扇状地性堆積物の砂礫層上面の凹部を利用して構築されており、埋土中からは平安時代前期から中期の遺物が出土する。その後、調査区は、水位上昇とともに氾濫堆積物の流入により埋没するが、鎌倉時代には客土が行われ、溝が掘削されるなど人間活動が再開するが、再び氾濫堆積物が流入し、室町時代に溝が掘削される。

調査地点の堆積層の層序を模式柱状図として図 32 示す。調査区の基底の堆積物は、側方への層相変化が著しい砂礫からなり、上面は起伏が著しい。この起伏の凹地部分を利用して池状遺構が構築されている。池状遺構を埋積する堆積物は、人為的に取り込まれた礫がまじる有機質泥からなり、その上位に人為的客土が累重する。一方、室町時代の溝埋土は、下部に機能期に形成されたと判断される有機質泥、その上位に砂礫・土壌偽礫などからなる人為的な埋め戻しの堆積物が厚く累重する。

分析試料は、図 32 に示す層準より採取した。花粉・珪藻分析は、鎌倉時代の埋積物（1 地点；1）、平安時代（9 世紀）の池埋積物（1 地点；2・3）、室町時代の堆積物（2 地点；1）、植物珪酸体分析は、1 地点から採取された 3 点について分析する。種実分析用は、溝埋積物 1 点分析する（微化石分析の 1 地点；3 に相当）。

2 分析方法

(1) 珪藻分析

試料を湿重で 7g 前後秤量し、過酸化水素水、塩酸処理、自然沈降法（4 時間放置）の順に物理・化学処理を施して、珪藻化石を濃集する。検鏡に適する濃度まで希釈した後、カバーガラス上に滴下し乾燥させる。乾燥後、プレパラートで封入して、永久プレパラートを作製

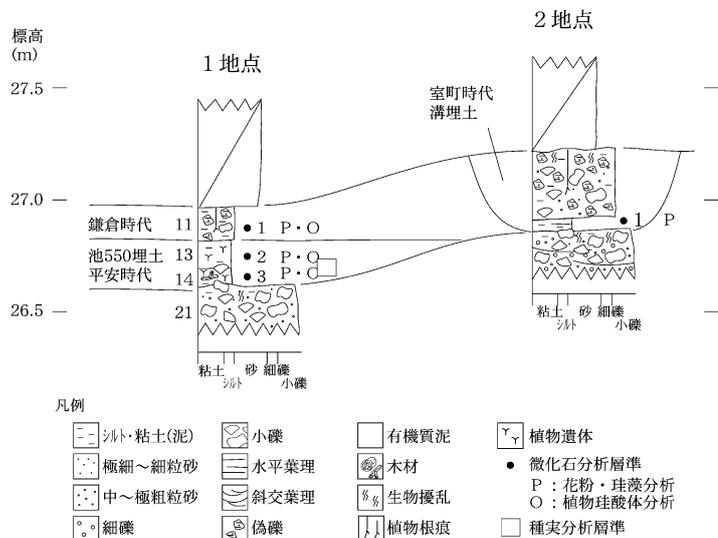


図 32 調査地点の層序模式柱状図

する。検鏡は、光学顕微鏡で油浸 600 倍あるいは 1000 倍で行い、メカニカルステージでカバーガラスの任意の測線に沿って走査し、珪藻殻が半分以上残存するものを対象に 200 個体以上同定・計数する（化石の少ない試料はこの限りではない）。種の同定は、原口ほか（1998）、Krammer（1992）、Krammer & Lange-Bertalot（1986, 1988, 1991a, 1991b）、渡辺ほか（2005）、小林ほか（2006）などを参照し、分類基準は、Round, Crawford & Mann（1990）に従う。なお、壊れた珪藻殻の計数基準は、柳沢（2000）に従う。

同定結果は、中心類（Centric diatoms; 広義のコアミケイソウ綱 Coscinodiscophyceae）と羽状類（Pennate diatoms）に分け、羽状類は無縦溝羽状珪藻類（Araphid pennate diatoms; 広義のオビケイソウ綱 Fragilariophyceae）と有縦溝羽状珪藻類（Raphid pennate diatoms; 広義のクサリケイソウ綱 Bacillariophyceae）に分ける。また、有縦溝類は、単縦溝類、双縦溝類、管縦溝類、翼管縦溝類、短縦溝類に細分する。

各種類の生態性は、Vos & de Wolf（1993）を参考とするほか、塩分濃度に対する区分は Lowe（1974）に従い、真塩性種（海水生種）、中塩性種（汽水生種）、貧塩性種（淡水生種）に類別する。また、貧塩性種はさらに細かく生態区分し、塩分・水素イオン濃度（pH）・流水に対する適応能について示す（表 5）。そして、産出個体数 100 個体以上の試料は、産出率 2.0% 以上の種類について主要珪藻化石群集の層位分布図を作成するほか、淡水生種の生態性も 100 個体以上の試料について図示する。また、産出化石が現地性か異地性かを判断する目安として、完形殻の出現率を求める。堆積環境の解析にあたり、淡水生種（貧塩性種）は安藤（1990）、陸生珪藻は伊藤・堀内（1991）、汚濁耐性は渡辺ほか（2005）の環境指標種を参考とする。

（2）花粉分析

試料約 10g を秤り取り、水酸化カリウムによる泥化、篩別、重液（臭化亜鉛、比重 2.3）による有機物の分離、フッ化水素酸による鉱物粒の溶解、アセトリシス（無水酢酸 9、濃硫酸 1 の混合液）処理によるセルロースの分解、の順に物理・化学的処理を施す。処理後の残渣から一部をとり、グリセリンで封入してプレパラートを作成し、同定を行う。結果は同定・計数結果の一覧表、および花粉化石群集の分布図として表示する。木本花粉は木本花粉総数、草本花粉・シダ類胞子は総数から不明花粉を除いた数をそれぞれ基数として、百分率で出現率を算出し図示する。

（3）植物珪酸体分析

各試料について過酸化水素水・塩酸処理、沈定法、重液分離法（ポリタングステン酸ナトリウム、比重 2.5）の順に物理・化学処理を行い、植物珪酸体を分離・濃集する。これをカバーガラス上に滴下・乾燥させる。乾燥後、プリュウラックスで封入してプレパラートを作製する。400 倍の光学顕微鏡下で全面を走査し、その間に出現するイネ科葉部（葉身と葉鞘）の葉部短細胞に由来した植物珪酸体（以下、短細胞珪酸体と呼ぶ）および葉身機動細胞に由来した植物珪酸体（以下、機動細胞珪酸体と呼ぶ）を、近藤（2004）の分類に基づいて同定・計数する。

分析の際には、分析試料の乾燥重量、プレパラート作成に用いた分析残渣量、検鏡に用いたプレパラートの数や検鏡した面積を正確に計量し、堆積物 1g あたりの植物珪酸体含量（同定した

表5 珪藻化石の生態性区分と環境指標種群

塩分濃度に対する区分 Lowe (1974) による		
海水生種	強塩性種	塩分濃度40.0%以上の高濃度海水域に生育する種
	真塩性種 (海水生種)	塩分濃度40.0~30.0%に生育する種
汽水生種	中塩性種 (汽水生種)	塩分濃度30.0~0.5%に生育する種
淡水生種	貧塩性種 (淡水生種)	塩分濃度0.5%以下に生育する種
淡水生種の生態性区分		
塩分	貧塩好塩性種	少量の塩分がある方が良く生育する種
	貧塩不定性種	少量の塩分があってもこれに良く耐えることができる種
	貧塩嫌塩性種	少量の塩分にも耐えることができない種
	広域塩性種	淡水~汽水域まで広い範囲の塩分濃度に適応できる種
pH:Hustedt (1937-38)による	真酸性種	pH5.5以下の酸性水域に最適の出現域がある種
	好酸性種	pH7.0以下の水域に主として出現する種
	pH不定性種	pH7.0付近の中性水域で最も良く生育する種
	好アルカリ性種	pH7.0以上の水域に主として出現する種
	真アルカリ性種	pH7.0以上の水域にのみ出現する種
流水 :Hustedt (1937-38)による	真止水性種	止水域にのみ生育する種
	好止水性種	止水域に特徴的であるが、流水域にも生育する種
	流水不定性種	止水域にも流水域にも普通に生育する種
	好流水性種	流水域に特徴的であるが、止水域にも生育する種
	真流水性種	流水域にのみ生育する種
主に海水域での指標種群 (小杉,1988による)		
外洋指標種群(A)	塩分濃度が約35%の外洋水中で浮遊生活するもの	
内湾指標種群(B)	塩分濃度35~26%の内湾水中で浮遊生活することからそのような環境を指標することのできる種群	
海水藻場指標種群(C1)	塩分濃度35~12%の海域で海藻(草)に付着生育することからそのような環境を指標することのできる種群	
汽水藻場指標種群(C2)	塩分濃度12~4%の汽水域で海藻(草)に付着生育することからそのような環境を指標することのできる種群	
海水砂質干潟指標種群(D1)	塩分濃度35~26%の砂底の砂に付着生育することからそのような環境を指標することができる種群	
汽水砂質干潟指標種群(D2)	塩分濃度26~5%の砂底の砂に付着生育することからそのような環境を指標することができる種群	
海水泥質干潟指標種群(E1)	30~12%の閉鎖性の高い塩性湿地など泥底の泥に付着生育することからそのような環境を指標することのできる種群	
汽水泥質干潟指標種群(E2)	塩分濃度12~2%の汽水化した塩性湿地などの泥に付着生育することからそのような環境を指標することのできる種群	
淡水底生種群(F)	2%以下の淡水域の底質の砂、泥、水生植物などに付着生育することからそのような環境を指標することのできる種群	
淡水浮遊生種群(G)	塩分濃度2%以下の湖沼などの淡水域で浮遊生活することからそのような環境を指標することのできる種群	
河口浮遊生種群(H)	塩分濃度20~2%の河口域で浮遊生活、あるいは付着生活することからそのような環境を指標することのできる種群	
主に淡水域での指標種群 (安藤,1990による)		
上流性河川指標種群(J)	河川上流部の峡谷部に集中して出現することから上流部の環境を指標する可能性の大きい種群	
中~下流性河川指標種群(K)	河川中~下流部や河川沿いの河岸段丘、扇状地、自然堤防、後背湿地などに集中して出現することから、そのような環境を指標する可能性の大きい種群	
最下流性河川指標種群(L)	最下流部の三角州の部分に集中して出現することから、そのような環境を指標する可能性の大きい種群	
湖沼浮遊性種群(M)	水深が約1.5m以上ある湖沼で浮遊生活する種群で湖沼環境を指標する可能性の大きい種群	
湖沼沼沢湿地指標種群(N)	湖沼における浮遊生種としても沼沢湿地の付着生種としても優勢に出現することから、そのような環境を指標する可能性の大きい種群	
沼沢湿地付着生種群(O)	沼よりも浅く水深が1m前後で一面に水生植物が繁茂している沼沢や更に水深の浅い湿地で優勢な出現の見られることからそのような環境を指標する可能性の大きい種群	
高層湿原指標種群(P)	ミズゴケを主体とした環境や泥炭が形成される環境に集中して出現することから、そのような環境を指標する可能性の大きい種群	
陸域指標種群(Q)	水中でなく、多少の湿り気のある土壌表面、岩の表面、コケなど常に大気に曝された好気的環境(陸域)に集中して生育することからそのような環境を指標する可能性の大きい種群	
陸域での指標種群 (伊藤・堀内,1991による)		
陸生珪藻A群(RA)	陸生珪藻の中でも、分布がほぼ陸域に限られる耐乾性の高い種群	
陸生珪藻B群(RB)	陸生珪藻A群に随伴し、陸域にも水中にも生育する種群	
未区分陸生珪藻(RI)	陸生珪藻に相当すると考えられるが、乾湿に対する適応性の不明な種群	

数を堆積物 1 g あたりの個数に換算) を求める。

結果は、植物珪酸体含量の一覧表で示す。各分類群の含量は 10 の位で丸め (100 単位にする)、合計は各分類群の丸めない数字を合計した後に丸めている。各分類群の植物珪酸体含量とその層位的変化から古植生について検討するために、植物珪酸体含量の層位的変化を図示する。

(4) 種実分析

試料 200cc (303.88g) を水に浸し、粒径 0.5 mm の篩を通して水洗する。篩内の試料を粒径別にシャーレに集めて双眼実体顕微鏡下で観察し、ピンセットを用いて同定可能な種実を抽出する。抽出された種遺体を双眼実体顕微鏡下で観察する。現生標本および石川 (1994)、中山ほか (2000) 等の図鑑との対照から、種類と部位を同定し、個数を数えて表示する。炭化材、高師小僧 (褐鉄鉱) は、70℃ 48 時間後の重量を表示する。分析後は、種実遺体等を種類別に容器に入れ、70% 程度のエタノール溶液で液浸し、保管する。

3 結果

(1) 珪藻分析

結果を表 6、図 33 に示す。また、珪藻化石の生態性区分や環境指標种群の説明を表 5 に示す。何れの試料も珪藻化石が豊富に産出する。完形殻の出現率は、約 70% 以上である。産出分類群数は、合計で 38 属 91 分類群である。地点別に珪藻化石群集の特徴を述べる。

・ 1 地点

試料番号 3 と試料番号 2 は、群集が近似する。淡水域に生育する水生珪藻 (以下、水生珪藻と

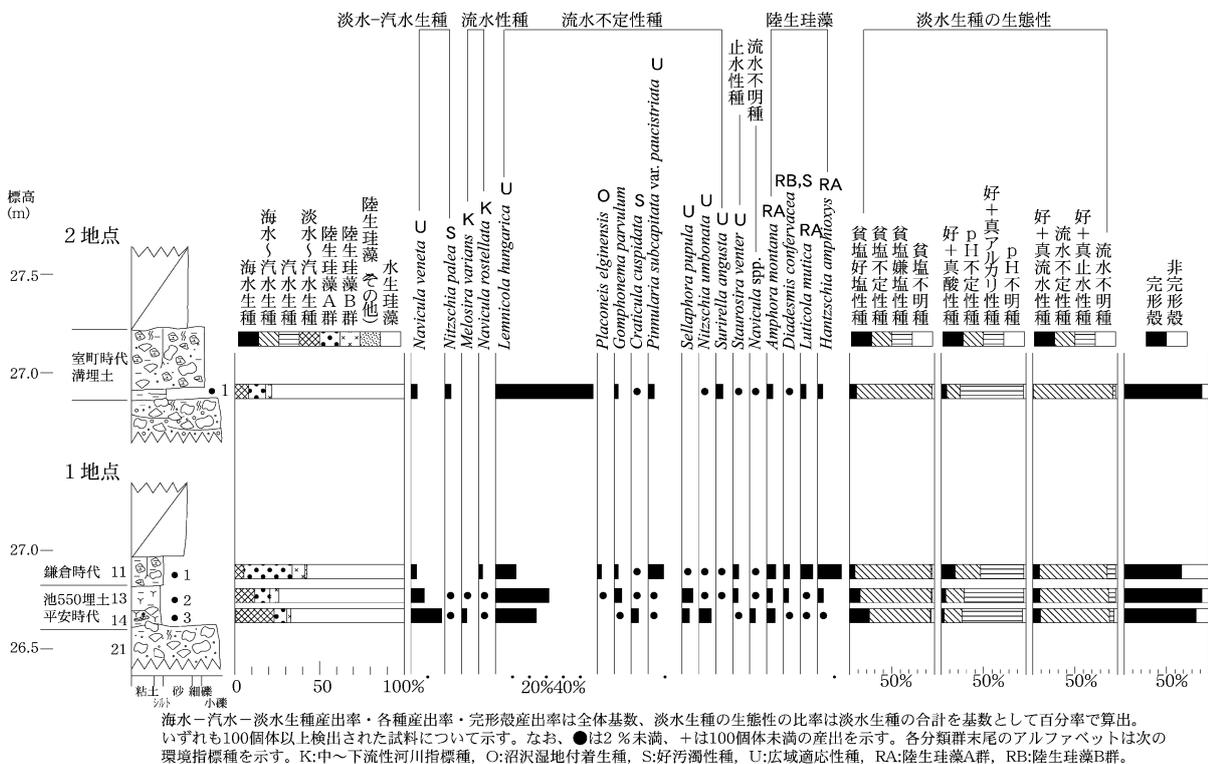


図 33 各地点の主要珪藻化石群集

表6 珪藻分析結果

種類	生態性			環境指標種	地点・試料番号			
	塩分	pH	流水		1地点			2地点
					1	2	3	1
Bacillariophyta (珪藻植物門)								
Centric Diatoms (中心型珪藻類)								
<i>Melosira varians</i> Agardh	Ogh-ind	al-il	r-ph	K,U	-	3	6	-
<i>Cyclotella caspia</i> Grunow	Meh				-	-	1	-
<i>Cyclotella meneghiniana</i> Kuetzing	Ogh-Meh	al-il	l-ph	L,S	-	-	-	2
Araphid Pennate Diatoms(無縱溝羽狀珪藻類)								
<i>Fragilaria capucina</i> var. <i>gracilis</i> (Oestr.)Hustedt	Ogh-ind	ind	l-ph	T	-	1	3	1
<i>Fragilaria mesolepta</i> Rabenhorst	Ogh-ind	al-il	l-ph	T	-	-	1	-
<i>Fragilaria vaucheriae</i> (Kuetz.)Petersen	Ogh-ind	al-il	r-ph	K,T	-	1	2	1
<i>Fragilariforma virescens</i> (Ralfs)Williams & Round	Ogh-ind	ac-il	l-ph	P,U	-	1	-	-
<i>Pseudostausira brevistriata</i> (Grun.)Williams & Round	Ogh-hil	al-il	l-ph	U	2	1	1	-
<i>Punctastriata linearis</i> D.M.Williams et Round	Ogh-ind	al-il	l-ph	U	-	-	2	1
<i>Stausira construens</i> Ehrenberg	Ogh-ind	al-il	l-ph	U	2	1	-	-
<i>Stausira construens</i> var. <i>binodis</i> (Ehren.)Hamilton	Ogh-ind	al-il	l-ph	U	1	3	-	1
<i>Stausira venter</i> (Ehren.)H.Kobayasi	Ogh-ind	al-il	l-ph	U	7	6	2	2
<i>Stausirella pinnata</i> (Ehr.)Williams & Round	Ogh-ind	al-il	l-ph	U	-	1	-	-
<i>Ulnaria ulna</i> (Nitzsch)Compere	Ogh-ind	al-il	ind	U	-	-	-	2
Raphid Pennate Diatoms(有縱溝羽狀珪藻類)								
Monoraphid Pennate Diatoms(單縱溝羽狀珪藻類)								
<i>Lemnicola hungarica</i> (Grunow)Round & Basson	Ogh-ind	al-il	ind	U	25	64	49	126
<i>Planothidium lanceolatum</i> (Breb. ex Kuetz.)Lange-Bertalot	Ogh-ind	ind	r-ph	K,T	-	1	1	-
<i>Planothidium rostratum</i> (Oestrup)Round et Bukhtiyarova	Ogh-ind	al-il	r-ph	U	-	1	1	-
<i>Achmanthidium exiguum</i> (Grunow)Czarnecki	Ogh-ind	al-il	ind	S	-	2	1	-
Biraphid Pennate Diatoms(雙縱溝羽狀珪藻類)								
<i>Amphora copulata</i> (Kuetz.)Schoeman et R.E.M.Archibald	Ogh-ind	al-il	ind	U	1	3	1	-
<i>Amphora montana</i> Krasske	Ogh-ind	al-il	ind	RA,U	11	7	10	8
<i>Anomooneis sphaerophora</i> (Kuetz.)Pfitzer	Ogh-Meh	al-bi	ind		-	3	1	-
<i>Cymbella affinis</i> Kuetzing	Ogh-ind	al-il	ind	T	-	-	1	-
<i>Cymbella cuspidata</i> Kuetzing	Ogh-ind	ind	ind	T	-	-	-	1
<i>Cymbella turgidula</i> var. <i>nipponica</i> Skvortzow	Ogh-ind	al-il	r-ph	T	-	-	1	-
<i>Cymbopleura naviculiformis</i> (Auerswald)Krammer	Ogh-ind	ind	ind	O,U	-	1	-	1
<i>Encyonema mesianum</i> (Kholnoky)D.G.Mann	Ogh-ind	ind	ind	T	-	-	1	-
<i>Placoneis elginensis</i> (Greg.)E.J.Cox	Ogh-ind	al-il	ind	O,U	5	2	-	-
<i>Placoneis elginensis</i> var. <i>neglecta</i> (Krasske)H.Kobayasi	Ogh-ind	al-il	r-ph	U	1	1	1	-
<i>Gomphonema biceps</i> F.Meister	Ogh-ind	al-il	r-ph	T	1	-	-	-
<i>Gomphonema grovei</i> var. <i>lingulatum</i> (Hust.)Lange-Bertalot	Ogh-ind	al-il	l-ph		1	-	-	-
<i>Gomphonema lagenula</i> Kuetzing	Ogh-ind	ind	r-ph	S	1	-	1	-
<i>Gomphonema parvulum</i> (Kuetz.)Kuetzing	Ogh-ind	ind	ind	U	5	9	2	5
<i>Geissleria decussis</i> (Oestrup)Lange-B. et Metzeltin	Ogh-ind	al-il	r-ph	K,T	1	3	-	-
<i>Hippodonta capitata</i> (Ehr.)Lange-B.,Metzeltin et Witkowski	Ogh-Meh	al-il	r-ph	U	2	-	-	-
<i>Navicula cincta</i> (Ehr.)Kuetzing	Ogh-Meh	al-il	ind	U	-	4	3	-
<i>Navicula veneta</i> Kuetzing	Ogh-Meh	al-il	ind	U	7	16	37	8
<i>Navicula constans</i> Hustedt	Ogh-unk	unk	unk		-	-	1	1
<i>Navicula kotschy</i> Grunow	Ogh-ind	al-il	ind		1	-	4	-
<i>Navicula nipponica</i> (Skv.)Lange-Bertalot	Ogh-ind	ind	ind	T	1	-	-	-
<i>Navicula rostellata</i> Kuetzing	Ogh-ind	al-il	r-ph	K,U	5	1	3	-
<i>Navicula tenelloides</i> Hustedt	Ogh-unk	unk	r-ph	J,U,RI	-	-	-	1
<i>Navicula</i> spp.	Ogh-unk	unk	unk		2	2	7	2
<i>Gyrosigma scalproides</i> (Rabh.)Cleve	Ogh-ind	al-il	r-ph	U	1	3	-	-
<i>Craticula cuspidata</i> (Kuetz.)D.G.Mann	Ogh-ind	al-il	ind	S	1	2	9	1
<i>Stauroneis borrichii</i> (Pet.)Lund	Ogh-ind	ind	ind	RI	1	-	-	-
<i>Stauroneis laenburgiana</i> Hustedt	Ogh-ind	al-il	ind		-	1	-	-
<i>Stauroneis obtusa</i> Lagerstedt	Ogh-ind	ind	ind	RB	1	-	-	-
<i>Stauroneis phoenicenteron</i> (Nitz.)Ehrenberg	Ogh-ind	ind	l-ph	O,U	2	1	1	-
<i>Stauroneis phoenicenteron</i> var. <i>signata</i> Meister	Ogh-ind	ind	ind		1	-	-	-
<i>Stauroneis smithii</i> Grunow	Ogh-ind	al-il	r-ph	U	-	-	1	-
<i>Frustulia vulgaris</i> (Thwait.)De Toni	Ogh-ind	al-il	ind	U	1	-	1	1
<i>Diadesmis confervacea</i> Kuetzing	Ogh-ind	al-il	ind	RB,S	7	6	4	1
<i>Diadesmis contenta</i> (Grun.ex Van Heurck)D.G.Mann	Ogh-ind	al-il	ind	RA,T	1	-	-	-
<i>Luticola minor</i> (R.M.Patrick)Mayama	Ogh-ind	al-il	ind		1	-	-	-
<i>Luticola mutica</i> (Kuetz.)D.G.Mann	Ogh-ind	al-il	ind	RA,S	15	4	1	7
<i>Neidium alpinum</i> Hustedt	Ogh-ind	ac-il	ind	RA	2	-	-	-
<i>Neidium ampliatum</i> (Ehr.)Krammer	Ogh-ind	ac-il	l-ph		1	1	-	-
<i>Neidium gracile</i> Hustedt	Ogh-hob	ac-il	ind		-	1	-	-
<i>Neidium</i> spp.	Ogh-unk	unk	unk		1	-	-	-
<i>Caloneis bacillum</i> (Grun.)Cleve	Ogh-ind	al-il	r-ph	U	1	1	-	-
<i>Caloneis leptosoma</i> Krammer & Lange-Bertalot	Ogh-ind	ind	l-ph	RB	2	-	-	-
<i>Caloneis silicula</i> (Ehr.)Cleve	Ogh-ind	al-il	ind		1	-	-	-
<i>Pinnularia acrosphaeria</i> var. <i>turgidula</i> Grunow ex Cleve	Ogh-unk	unk	unk		-	1	-	-
<i>Pinnularia brauniana</i> (Grun.)Mills	Ogh-hob	ac-bi	l-ph	P,U	1	-	-	-
<i>Pinnularia brebissonii</i> (Kuetz.)Rabenhorst	Ogh-ind	ind	ind	U	1	2	-	-
<i>Pinnularia gibba</i> Ehrenberg	Ogh-ind	ac-il	ind	O,U	4	1	2	2

種 類	生態性			環境 指標種	地点・試料番号			
	塩分	pH	流水		1地点			2地点
					1	2	3	1
<i>Pinnularia mesolepta</i> (Ehr.)W.Smith	Ogh-ind	ac-il	ind	S	2	-	-	-
<i>Pinnularia neomajor</i> Krammer	Ogh-ind	ac-il	l-bi		1	-	1	-
<i>Pinnularia obscura</i> Krasske	Ogh-ind	ind	ind	RA	1	-	-	-
<i>Pinnularia rupestris</i> Hantzsch	Ogh-hob	ac-il	ind	O	1	-	1	-
<i>Pinnularia schoenfelderi</i> Krammer	Ogh-ind	ind	ind	RB	4	-	-	-
<i>Pinnularia schroederii</i> (Hust.)Krammer	Ogh-ind	ind	ind	RI	1	-	-	-
<i>Pinnularia subcapitata</i> Gregory	Ogh-ind	ac-il	ind	RB,S	2	3	1	4
<i>Pinnularia subcapitata</i> var. <i>paucistriata</i> (Grun.)Cleve	Ogh-ind	ac-il	ind	U	19	3	2	8
<i>Pinnularia viridis</i> (Nitz.)Ehrenberg	Ogh-ind	ind	ind	O,U	1	1	1	-
<i>Pinnularia</i> spp.	Ogh-unk	unk	unk		2	2	-	1
<i>Sellaphora laevisima</i> (Kuetz.)Mann	Ogh-ind	ind	ind	U	1	-	-	-
<i>Sellaphora pupula</i> (Kuetz.)Mereschkowsky	Ogh-ind	ind	ind	S	3	13	9	-
<i>Sellaphora seminulum</i> (Grun.)D.G.Mann	Ogh-ind	al-il	ind	RB,S	-	1	-	2
管縦溝類								
<i>Hantzschia amphioxys</i> (Ehr.)Grunow	Ogh-ind	ind	ind	RA,U	29	7	4	7
<i>Nitzschia brevissima</i> Grunow	Ogh-Meh	al-il	ind	U	1	-	-	-
<i>Nitzschia frustulum</i> (Kuetz.)Grunow	Ogh-Meh	al-il	r-ph		-	-	1	-
<i>Nitzschia palea</i> (Kuetz.)W.Smith	Ogh-Meh	ind	ind	S	-	1	3	8
<i>Nitzschia nana</i> Grunow	Ogh-ind	ind	ind	S	1	-	-	-
<i>Nitzschia sigmoidea</i> (Ehr.)W.Smith	Ogh-ind	al-bi	ind	T	1	1	-	-
<i>Nitzschia umbonata</i> (Ehr.)Lange-B.	Ogh-ind	ind	ind	U	1	4	15	3
<i>Nitzschia</i> spp.	Ogh-unk	unk	unk		-	-	-	1
<i>Tryblionella debilis</i> Arnott	Ogh-ind	al-il	ind	RB,U	-	-	-	1
<i>Rhopalodia gibberula</i> (Ehr.)O.Muller	Ogh-Meh	al-il	ind	U	1	-	1	-
翼管縦溝類								
<i>Surirella angusta</i> Kuetzing	Ogh-ind	ind	ind	U	1	1	-	9
<i>Surirella minuta</i> Brebisson	Ogh-ind	ind	r-ph	U	3	1	-	-
<i>Surirella ovata</i> Kuetzing	Ogh-ind	al-il	r-ph	U	1	1	-	-
短縦溝類								
<i>Eumotia minor</i> (Kuetz.)Grunow	Ogh-hob	ind	ind	O,T	1	1	1	-
<i>Eumotia praerupta</i> var. <i>bidens</i> (Ehren.)Grunow	Ogh-hob	ac-il	l-ph	RB,O,T	-	1	-	-
<i>Eumotia veneris</i> (Kuetz.)De Toni	Ogh-hob	ac-il	ind	T	1	-	-	-
海水生種					0	0	0	0
海水～汽水生種					0	0	0	0
汽水生種					0	0	1	0
淡水～汽水生種					11	24	46	18
淡水生種					196	179	156	201
珪藻化石総数					207	203	203	219

珪藻の適応性
H.R. : 塩分濃度 pH : 水素イオン濃度 C.R. : 流水
Meh : 汽水生種 al-bi : 真アルカリ性種 l-bi : 真止水性種
Ogh-Meh : 淡水～汽水生種 al-il : 好アルカリ性種 l-ph : 好止水性種
Ogh-hil : 貧塩好塩性種 ind : pH不定性種 ind : 流水不定性種
Ogh-ind : 貧塩不定性種 ac-il : 好酸性種 r-ph : 好流水性種
Ogh-hob : 貧塩嫌塩性種 ac-bi : 真酸性種 r-bi : 真流水性種
Ogh-unk : 貧塩不明種 unk : pH不明種 unk : 流水不明種
環境指標種群
J: 上流性河川指標種, K: 中～下流性河川指標種, L: 最下流性河川指標種, O: 沼沢湿地付着生種,
P: 高層湿原指標種 (以上は安藤, 1990)
S: 好汚濁性種, U: 広域適応性種, T: 好清水性種 (以上はAsai and Watanabe, 1995)
R: 陸生珪藻 (RA:A群, RB:B群, RI:未区分, 伊藤・堀内, 1991)

言う) が全体の約 70% を占め、次いで淡水～汽水生種が 10 ～ 20% 産出する。淡水性種の生態性 (塩分濃度、水素イオン濃度、流水に対する適応性) の特徴は、貧塩不定性種、好+真アルカリ性種、流水不定性種が優占する。流水不定性で付着性の *Lemnicola hungarica* が約 30% 産出し、次いで淡水～汽水生種の *Navicula veneta* が 10 ～ 20% 産出する。その他流水不定性で付着性の *Sellaphora pupula*、*Nitzschia umbonata*、*Craticula cuspidata* 等を伴う。

試料番号 1 は、好気的環境に耐性のある陸生珪藻が約 35% と多産する以外は、前試料とほぼ同様な種類が産出する。また、淡水生種の生態性の特徴も近似している。流水不定性で付着性の *Lemnicola hungarica*、*Pinnularia subcapitata* var. *paucistriata* が約 10% 産出し、淡水～汽水生種の *Navicula veneta*、流水不定性で沼沢湿地付着生種群の *Placoneis elginensis*、流水不定性で付着性の *Gomphonema parvulum*、好止水性の *Staurosira venter* 等を伴う。陸生珪藻

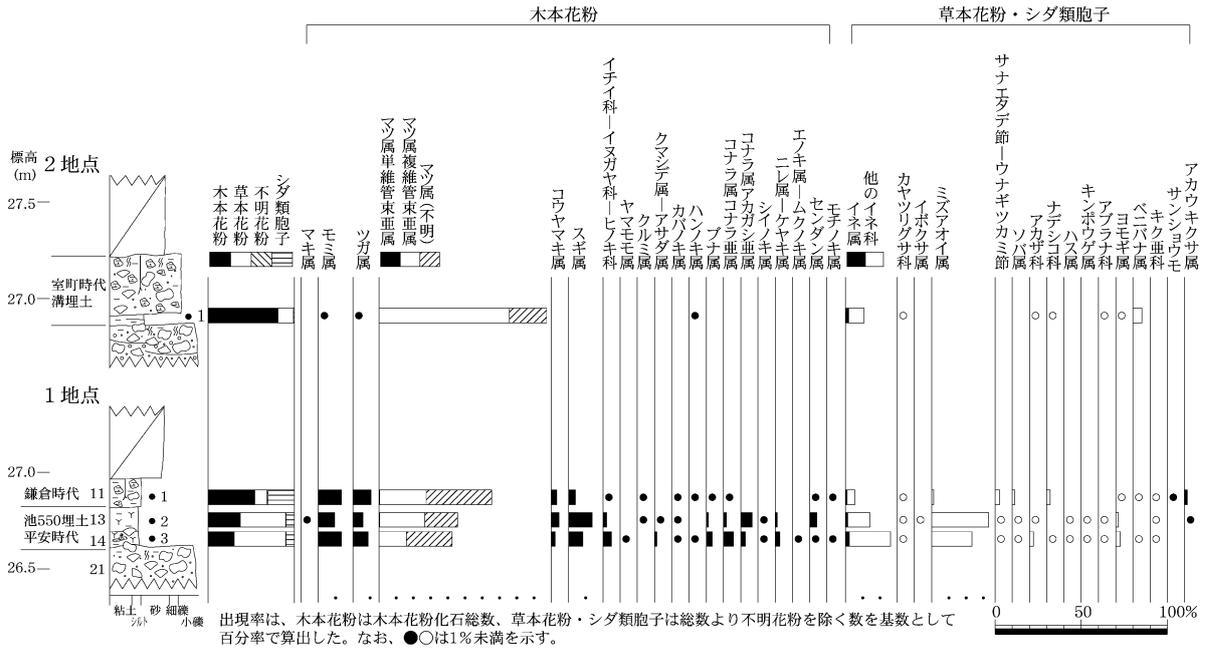


図 34 各地点の花粉化石群集層位分布

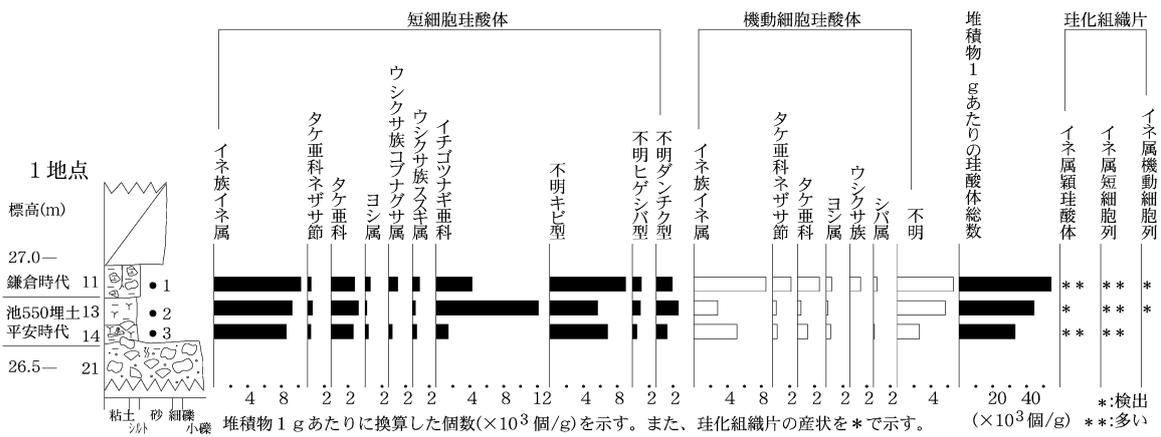


図 35 1地点の植物珪酸体含量

では、耐乾性の高い陸生珪藻A群の *Hantzschia amphioxys* が約 15%と多産し、同じく陸生珪藻A群の *Luticola mutica*、*Amphora montana* 等を伴う。

・ 2地点

試料番号1は、水生珪藻が約 80%と優占する。淡水生種の生態性の特徴は1地点の試料番号3と試料番号2に近似し、貧塩不定性種、好+真アルカリ性種、流水不定性種が優占する。特徴は、流水不定性で付着性の *Lemnicola hungarica* が約 60%と優占し、淡水～汽水生種の *Navicula veneta*、*Nitzschia palea*、流水不定性で付着性の *Pinnularia subcapitata* var. *paucistriata*、*Surirella angusta* 等を伴う。

(2) 花粉分析

結果を表7、図34に示す。1地点の2・3は木本花粉に比べ、草本花粉の割合が高い。草本

表7 花粉分析結果

種 類	調査地点・試料			
	1地点			2地点
	1	2	3	1
木本花粉				
マキ属	-	1	-	-
モミ属	30	23	30	2
ツガ属	24	14	20	2
トウヒ属	-	-	1	-
マツ属単維管束亜属	1	1	-	-
マツ属複維管束亜属	61	63	36	165
マツ属(不明)	86	46	60	47
コウヤマキ属	7	11	5	-
スギ属	9	33	19	-
イチイ科-イヌガヤ科-ヒノキ科	1	5	11	-
ヤナギ属	-	1	-	-
ヤマモモ属	-	-	1	-
クルミ属	1	2	-	-
クマシデ属-アサダ属	-	2	3	-
カバノキ属	1	1	2	-
ハンノキ属	1	-	1	1
ブナ属	1	3	8	-
コナラ属コナラ亜属	1	4	13	-
コナラ属アカガシ亜属	-	16	6	-
シイノキ属	-	1	1	-
ニレ属-ケヤキ属	-	3	6	-
エノキ属-ムクノキ属	-	-	1	-
センダン属	1	10	1	-
モチノキ属	1	-	1	-
ウコギ科	-	-	-	1
スイカズラ属	-	1	-	-
草本花粉				
イネ属	4	8	17	5
他のイネ科	18	83	177	24
カヤツリグサ科	2	5	6	1
イボクサ属	-	1	-	-
ツククサ属	-	-	1	-
ミズアオイ属	5	211	174	-
クワ科	-	-	1	-
サナエタデ節-ウナギツカミ節	11	4	4	-
ソバ属	6	1	1	-
アカザ科	-	6	17	1
ナデシコ科	8	-	7	1
ハス属	-	1	4	-
キンボウゲ属	-	1	2	-
キンボウゲ科	1	-	-	-
アブラナ科	-	1	3	1
バラ科	-	1	1	-
カタバミ属	-	-	1	-
セリ科	-	1	-	-
ヨモギ属	1	10	20	1
ベニバナ属	2	-	1	14
キク亜科	2	3	4	-
タンポポ科	-	-	5	-
不明花粉	3	4	3	1
シダ類胞子				
イノモトソウ属	4	-	-	-
サンショウモ	2	-	-	-
アカウキクサ属	6	1	-	-
他のシダ類胞子	115	60	72	2
合 計				
木本花粉	226	241	226	218
草本花粉	60	337	446	48
不明花粉	3	4	3	1
シダ類胞子	127	61	72	2
総計(不明を除く)	413	639	744	268

表8 植物珪酸体含量

種 類	調査地点・試料番号		
	1地点		
	1	2	3
イネ科葉部短細胞珪酸体			
イネ族イネ属	10,300	9,300	8,600
タケ亜科ネザザ節	400	600	400
タケ亜科	2,800	3,200	2,600
ヨシ属	600	200	400
ウシクサ族コブナグサ属	1,100	-	400
ウシクサ族ススキ属	900	400	500
イチゴツナギ亜科	4,300	12,100	1,400
不明キビ型	9,000	5,700	6,900
不明ヒゲシバ型	1,100	900	500
不明ダンチク型	1,900	2,700	1,300
イネ科葉身機動細胞珪酸体			
イネ族イネ属	8,600	2,800	5,100
タケ亜科ネザザ節	2,100	400	500
タケ亜科	2,600	400	1,200
ヨシ属	600	200	500
ウシクサ族	1,300	-	-
シバ属	400	-	100
不明	6,600	5,700	2,600
合 計			
イネ科葉部短細胞珪酸体	32,300	35,100	23,100
イネ科葉身機動細胞珪酸体	22,300	9,500	10,100
総 計	54,600	44,500	33,200
珪化組織片			
イネ属類珪酸体	**	*	**
イネ属短細胞列	**	**	**
イネ属機動細胞列	*	*	-

数値は含量密度(個/g)を示し、10の位で丸めた値として示す(100単位にする)
珪化組織片の産状は、-:産出せず、*:産出、**:多く産出である。

花粉はイネ科とミズアオイ属の割合が高く、イネ科の中には栽培種であるイネ属を含む。ミズアオイ属以外の水生植物は、イボクサ属やハス属等が検出される。イネ属以外の栽培植物は、ソバ属、ベニバナ属、ハス属(諸説ある)が検出される。木本花粉はマツ属が多く、モミ属、ツガ属、スギ属、コナラ属等を伴う。

1地点の1は、草本花粉に比べ木本花

粉の割合が高い。木本花粉の組成は、下位と変わらないが、マツ属の割合が高い。草本類は、イネ科等が検出されるが、全体的に低率である。水生植物として、ミズアオイ属、サンショウモ、アカウキクサ属が検出される。栽培植物は下位と同じ種類が検出される。

2地点の1は、木本花粉の割合が非常に高い。木本花粉のほとんどがマツ属（主に複維管束垂属）で占められ、他の種類はほとんど検出されないため、組成が単調となる。草本花粉は全体的に低率で、イネ属を含むイネ科とベニバナ属が若干多くみられる。

(3) 植物珪酸体分析

結果を表8、図35に示す。各試料での植物珪酸体の産状は同様であり、栽培植物であるイネ属の産出が目立つ。

この中には、単体の短細胞珪酸体や機動細胞珪酸体が見られる。その含量は、短細胞珪酸体が1万個/g前後、機動細胞珪酸体ではばらつきが見られ、2,800～8,600個/gである。また、これらを含む珪化組織片や朮（穎）に形成される穎珪酸体も見られる。

この他には、ネザサ節を含むタケ亜科、ヨシ属、ススキ属、イチゴツナギ亜科などが見られる。試料番号2ではイチゴツナギ亜科の産出が目立つ。

(4) 種実同定

結果を表9に示す。被子植物12分類群（常緑低木-小高木のヒサカキ、草本のオモダカ科、イボクサ、ホシクサ属、イネ、ホタルイ属、スベリヒユ科、アカザ科、タガラシ、アリノトウグサ、チドメグサ属、タカサブロウ）63個の種実のほかに、木材5個（最大径4mm）、炭化材0.37g（最大径1cm）、昆虫15個、高師小僧0.16g（最大径8.5mm）、土器1個（径1.9cm）が検出された。栽培種は、炭化したイネの穎の破片が3個確認された。以下に、種実の形態的特徴等を記す。

<木本>

・ヒサカキ (*Eurya japonica* Thunb.) ツバキ科ヒサカキ属

種子が検出された。黒褐色、長さ1.3mm、幅1.4mm程度、厚さ0.5mm程度のやや偏平な不規則多角状広倒卵体。基部の臍に向かい薄くなる。種皮表面は臍を中心に楕円形や円形凹点による網目模様が指紋状に広がる。

表9 種実分析結果

分類群	部位	状態	1地点	備考
木本				
ヒサカキ	種子	完形	1	
草本				
オモダカ科	種子	完形	1	
イボクサ	種子	完形	12	
ホシクサ属	種子	完形	29	
イネ	穎	破片 炭化	3	基部2個
ホタルイ属	果実	破片	2	
スベリヒユ科	種子	完形	3	
		破片	1	
アカザ科	種子	完形	1	
タガラシ	果実	完形	5	
		破片	1	
アリノトウグサ	核	完形	1	
チドメグサ属	果実	完形	1	
タカサブロウ	果実	破片	2	
木材			5	最大径4mm
炭化材			0.37g	最大径1cm
昆虫			15	
高師小僧(褐鉄鉱)			0.16g	最大径8.5mm
土器			1	径1.9cm
			分析量	200cc(303.88g)

<草本>

・オモダカ科 (Alismataceae)

種子が検出された。淡褐色、長さ 1.5 mm、幅 1.0 mm程度の倒U字状に曲がった円柱状で偏平。種皮は薄く膜状で柔らかい。表面には縦長の微細な網目模様が配列する。

・イボクサ (Murdannia keisak (Hassk.) Hand.-Mazz.) ツユクサ科イボクサ属

種子が検出された。淡褐色、長さ 1.3 mm、径 1.8 mm程度の歪な半横長楕円体。背面は丸みがあり、腹面は平ら。臍は線形で腹面の正中線上にあり、胚は一側面の浅い円形の凹みに存在する。種皮は薄く柔らかく透き通り、表面は円形の小孔が散在する。

・ホシクサ属 (Eriocaulon) ホシクサ科

種子が検出された。淡褐色、長さ 1.5 mm、径 0.6 mm程度の楕円体。頂部は褐色の小さい花柱が突出し、基部には円形のやや突出する臍がある。種皮は薄く透きとおり、表面には横長で六角形の網目模様が縦列する。

・イネ (Oryza sativa L.) イネ科イネ属

穎の破片が検出された。炭化しており黒色。完形ならば、長さ 6.0 ~ 7.5 mm、幅 3.0 ~ 4.0 mm、厚さ 2.0 mm程度のやや偏平な長楕円体。基部に斜切状円柱形の果実序柄と1対の護穎を有し、その上に外穎（護穎と言う場合もある）と内穎がある。外穎は5脈、内穎は3脈をもち、ともに舟形を呈し、縫合してやや偏平な長楕円形の稲朶を構成する。穎は柔らかく、表面には顆粒状突起が縦列する。

・ホタルイ属 (Scirpus) カヤツリグサ科

果実の破片が検出された。黒褐色、長さ 1.9 mm、径 1.5 mm程度の片凸レンズ状広倒卵体。頂部は尖り、基部は切形で刺針状の花被片が伸びる。背面正中線上は鈍稜。果皮表面は光沢があり、不規則な波状横皺状模様が発達する。

・スベリヒユ科 (Portulacaceae)

種子が検出された。黒色、径 0.8 mm程度のやや偏平な腎状円形。基部は凹み、臍がある。臍には種柄の一部が残る。種皮表面には鈍円錐状突起が臍から同心円状に配列する。

・アカザ科 (Chenopodiaceae)

種子が検出された。黒色、径 0.8 mm程度のやや偏平な円盤状。基部は凹み、臍がある。種皮表面には臍を取り囲むように微細な網目模様が放射状に配列し、光沢がある。

・タガラシ (Ranunculus sceleratus L.) キンポウゲ科キンポウゲ属

果実が検出された。長さ 1.2 mm、幅 0.8 mm、厚さ 0.3 mm程度のやや偏平な広楕円体。果皮表面は粗面。中心部は淡黄褐色でやや凹み、縁は黄白色の海綿状で水に浮きやすい。

・アリノトウグサ (Haloragis micrantha (Thunb.) R. Br.) アリノトウグサ科アリノトウグサ属

核が検出された。淡灰褐色、長さ 0.8 mm、径 0.7 mm程度の倒卵体。頂部は尖り、基部は切形。表面には顕著な8本の稜が縦列する。

・チドメグサ属 (Hydrocotyle) セリ科

果実が検出された。淡灰褐色、長さ 0.8 mm、幅 0.7 mm 程度のやや偏平な半月形。一端には太い柄があり、合生面は平坦。果皮は厚く、やや弾力がある。表面には 1 本の明瞭な円弧状の稜がある。

・タカサブロウ (Eclipta prostrata L.) キク科タカサブロウ属

果実の破片が検出された。灰黒褐色、完形ならば長さ 2 ~ 3 mm、径 1 mm 程度のやや偏平な三角状倒狭卵体。破片の長さは 1.7 mm 程度。両端は切形で頂部に淡褐色、円形の臍がある。果皮表面は粗面で、微細な網目模様が配列する。海綿状で表面には瘤状突起が分布する翼を欠損する。

4 考察

4-1 各時代の調査区の古環境

(1) 池 550 の環境

池 550 埋土の珪藻化石群集をみると、淡水～汽水生種の *Navicula veneta*、流水不定性種の *Lemnicola hungarica* が多産する。*Navicula veneta* は、電解質物質の豊富な水域から汽水域に普通にみられるほか、強度に富栄養化した時にもみられることから、汚濁に対する適応性が強い種とされている (Witkowski & Lange-Bertalot & Metzeltin, 2000)。また、*Lemnicola hungarica* は、付着性の中汚濁耐性種で池や流れの弱い川などで浮葉植物の葉に付着して生育する場合が一般的な種で、水田からも出現する (田中, 2002・伊藤, 2007)。よって、これらの試料が堆積する頃は、富栄養化した止水域が推定される。花粉化石で検出されるミズアオイ属やハス属、植物珪酸体で検出されるヨシ属、種実で検出されるオモダカ科、イボクサ、ホシクサ属、ホタルイ属、タガラシ、タカサブロウといった水生植物が、いずれも浅い沼地など富栄養化した場所にみられる種類であることから調和的である。これらの植物が池に生育し、その遺体よって富栄養化が進行していたと思われる。この中でもハスは、仏教と関係が深い植物であり、寺院の池などに好んで植えられていた種類である。なおハスが日本に自生していたか、もしくは渡来した植物かについては諸説ある。またミズアオイ属のミズアオイは、和歌に詠まれるなど古くから親しまれた植物で、食用にもなる。これらが池に自然に生育していたか、意図的に植栽したかは定かでないが、当時利用されていた可能性は高い。

栽培植物をみると、イネが花粉化石、植物珪酸体、種実遺体で検出される。遺構の用途 (池) や周辺が屋敷地であったことから、耕作地であったとは考えにくいので、周辺からの流入や、屋敷地として使われる以前の土地利用状況を反映している可能性が高い。この他の栽培種として、ソバ属やベニバナ属も検出され、周辺での栽培・利用が考えられる。

(2) 鎌倉時代の包含層

珪藻化石群集は、陸生珪藻が多産するなど下位とは異なる。本試料から多産した *Pinnularia subcapitata* var. *paucistriata* は、沼沢や水田に多産する種とされ、水田では水のない冬季にも生存する (Ohtsuka and Fujita, 2001) とされる。さらに陸生珪藻が検出されることから、乾湿を繰り返すような状態になったことが推測される。もしくは、当時客土が行われたと考えられて

いることから、様々な環境の群集が混在し、当時の環境を的確に反映していない可能性もある。

花粉化石群集をみると、水生植物や栽培植物等が検出される等、種類構成は下位と大きな変化はないが、草本花粉の割合が減少する。平安時代においては、池ならびにその周辺に多くの草本類が生育する環境下にあったが、鎌倉時代に入ってこのような環境が何らかの影響で縮小されたため、後背山地に生育する木本類の割合が相対的に高まった可能性がある。一方、植物珪酸体については、平安時代と比べて大きな変化は認められない。各微化石の挙動（タフォノミー）が関係していると思われるが、理由は不明である。

（3）室町時代の溝2

2地点の室町時代の溝2覆土の試料番号1からは、前述した *Lemnicola hungarica* が優占することが特徴である。本種は、前述したように池や流れの弱い川などで浮葉植物の葉に付着して生育する場合が一般的な種であることから、停滞もしくは弱い流れがあり、水質が富栄養化していたと考えられる。花粉化石群集は、木本類が主となることから、草地が減少し、木本類が相対的に多くなったと思われる。また、イネ属やベニバナ属が検出されることから、周辺でのこれらの栽培・利用が伺われる。

4-2 森林植生

平安京における古植生情報は、平安京右京五条二坊九町・十六町における平安時代から中世の花粉分析（パリノ・サーヴェイ株式会社,1991）、平安京右京三条一坊三・六・七町跡における平安時代の園池埋土の植物化石分析（環境考古学研究会,2002）、平安京右京三条一坊二町跡の12世紀の朱雀大路西側溝埋土の花粉・種実化分析（環境考古学研究会,2004）、史跡二条離宮の9世紀～13世紀まで続く庭園の池埋土の花粉分析（環境考古学研究会,2001）、平安京左京二条二坊十町（高陽院）跡の11世紀の池埋土の花粉・植物珪酸体分析（古環境研究所,2001）、大覚寺大沢池の12世紀～14世紀の池堆積物の花粉分析（未公表）、平安京右京六条一坊三町跡の12世紀末溝埋土の花粉分析（パリノ・サーヴェイ,2006）、平安京右京三条三坊の平安時代前期の土坑の花粉分析結果（パリノ・サーヴェイ,2009）などが存在する。これらの分析結果を参考にしながら、今回の結果について検討する。

木本花粉をみると、平安時代前半、鎌倉時代、室町時代といずれの時期の堆積物でもマツ属の割合が高く、室町時代以降の層準で著しく増加していることが確認される。

上記した調査事例をみると、平安時代までは、アカガシ亜属やシイノキ属といった常緑広葉樹の花粉化石が比較的多くみられる場合が多い。これらの常緑広葉樹は、今回の結果でも検出されているが、いずれも低率である。マツ属の増加は古墳時代以降に始まるが、急増するのは12世紀末以降であり、この傾向は向日市長岡京跡の遺構でも確認されている（パリノ・サーヴェイ株式会社,2003など）。これは、周辺の開発に伴って、森林が伐採され、陽樹であるマツ林が増加したことなどが理由として考えられている。今回の結果が、本地点特有の現象であるか、ある程度範

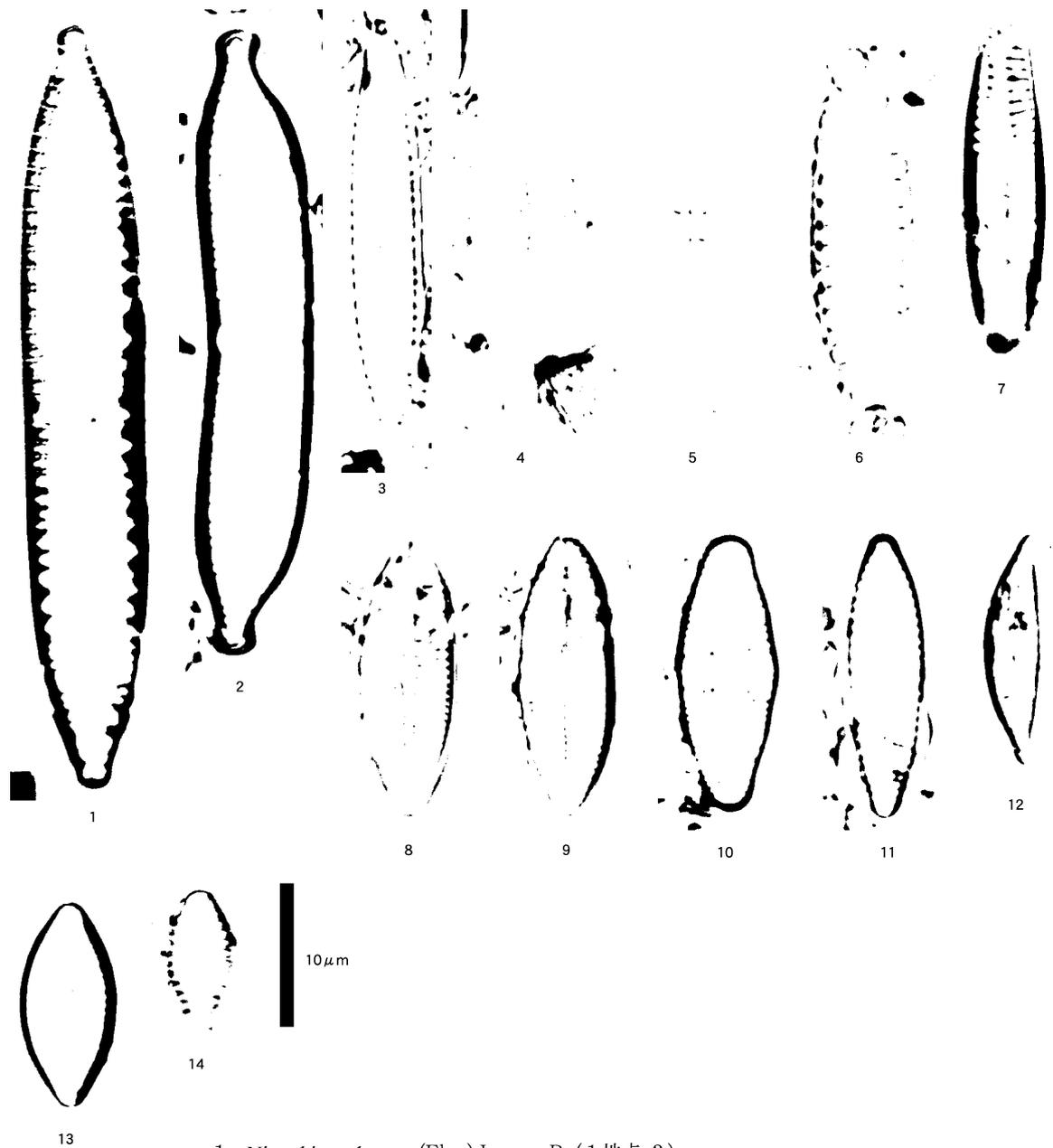
圃をもった地域的なものであるかは不明である。ただし、同じ屋敷地である平安京右京三条三坊跡の花粉分析結果でも今回と類似するマツ属の産状を示しており、屋敷地でのマツの植栽など局地的な植生に関連している可能性もある。また、虫媒花で花粉が検出されにくいセンダン属も比較的多く見られるが、ハスとともに仏教に関連した樹木であるので、植栽の可能性もある。これまでの成果によれば、モミ属、ツガ属、コウヤマキ属、スギ属などの針葉樹は、扇状地面、谷頭、斜面地など土地条件の悪い場所に、アカガシ垂属やシノキ属などの常緑広葉樹は条件の良い場所に生育していたと考えられている。

室町時代の花粉化石群集は、マツ属がさらに増加し、全体的な組成が単調となる。開発が進んでマツ二次林の占める割合が増加したとも考えられる。また、マツは有用材で成長が早く、樹形が好まれることから周辺に植栽されていた可能性もある。

引用文献

- 安藤 一男,1990,淡水産珪藻による環境指標種群の設定と古環境復元への応用.東北地理,42,73-88.
- Asai, K. & Watanabe, T.,1995,Statistic Classification of Epilithic Diatom Species into Three Ecological Groups relating to Organic Water Pollution (2) Saprophilous and saproxenous taxa. Diatom,10, 35-47.
- 原口 和夫・三友 清史・小林 弘,1998,埼玉の藻類 珪藻類.埼玉県植物誌,埼玉県教育委員会,527-600.
- Hustedt, F.,1937-1939,Systematische und ökologische Untersuchungen über die Diatomeen-Flora von Java, Bali und Sumatra. Archiv für Hydrobiologie, Supplement,15:131-177,15:187-295,15:393-506,15:638-790,16:1-155,16:274-394.
- 伊藤 良永・堀内 誠示,1991,陸生珪藻の現在に於ける分布と古環境解析への応用.珪藻学会誌,6,23-45.
- 伊藤 良永,2007,水田の形態別(乾田、半乾田)違いに基づく珪藻植生の基礎的研究.徳永重元博士献呈論集,299-319.
- 石川 茂雄,1994,原色日本植物種子写真図鑑.石川茂雄図鑑刊行委員会,328p.
- 環境考古学研究会,2001,自然科学分析.京都市埋蔵文化財研究所発掘調査概報 2001-15 史跡旧二条離宮(二条城),財団法人 京都市埋蔵文化財研究所,55-58.
- 環境考古学研究会,2002,自然遺物の環境考古学分析.京都市埋蔵文化財研究所発掘調査概報 2002-5 平安京跡右京三条一坊三・六・七町,財団法人 京都市埋蔵文化財研究所,33-47.
- 環境考古学研究会,2004,溝64の土壌分析について.京都市埋蔵文化財研究所発掘調査概報 2004-6 平安京右京三条一坊二町跡,財団法人 京都市埋蔵文化財研究所,21-23.
- 古環境研究所,2005,自然科学分析.京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2005-8 平安京左京六条三坊五町跡,財団法人 京都市埋蔵文化財研究所,152-165.中村 純,1967,花粉分析.古今書院,232p.
- 小杉 正人,1988,珪藻の環境指標種群の設定と古環境復元への応用.第四紀研究,27, 1-20.
- 小林 弘・出井 雅彦・真山 茂樹・南雲 保・長田 啓五,2006,小林弘珪藻図鑑.第1巻, (株)内田老鶴圃,531p.
- 近藤 鍊三,2004,植物ケイ酸体研究.ペドロジスト,48,46-64.
- Krammer, K.,1992,PINNULARIA.eine Monographie der europäischen Taxa.BIBLIOTHECA DIATOMOLOGICA BAND26. J.CRAMER,353p.

- Krammer, K. & Lange-Bertalot, H.,1986,Bacillariophyceae.1.Teil: Naviculaceae. In:Suesswasserflora von Mittel-europa.Band2/1. Gustav Fischer Verlag,876p.
- Krammer, K. & Lange-Bertalot, H.,1988,Bacillariophyceae.2.Teil: Epithemiaceae,Bacillariaceae, Surirellaceae. In: Suesswasserflora von Mitteleuropa.Band2/2. Gustav Fischer Verlag,536p
- Krammer, K. & Lange-Bertalot, H.,1991a,Bacillariophyceae.3.Teil: Centrales,Fragilariaceae, Eunotiaceae. In: Suesswasserflora von Mitteleuropa.Band2/3. Gustav Fischer Verlag,230p.
- Krammer, K. & Lange-Bertalot, H.,1991b,Bacillariophyceae.4.Teil: Achnanthaceae,Kritische Ergaenzungen zu Navicula(Lineolatae)und Gomphonema. In: Suesswasserflora von Mitteleuropa. Band2/4. Gustav Fischer Verlag,248p.
- Lowe, R.L.,1974,Environmental Requirements and pollution Tolerance of Fresh-water Diatoms. 334p. In Environmental Monitoring Ser.EPA Report 670/4-74-005. Nat. Environmental Res. Center Office of Res. Develop., U.S. Environ. Protect. Agency, Cincinnati.
- 中山 至大・井之口希秀・南谷 忠志,2000,日本植物種子図鑑. 東北大学出版会 ,642p.
- Ohtsuka,T. & Fujita,Y.2001.The diatom flora and its seasonal change in a paddy field in Central Japan.Nova Hedwigia 73,97-128.
- パリノ・サーヴェイ株式会社,1991,平安京右京五条二坊九町・十六町発掘調査花粉・植物珪酸体報告,平安京右京五条二坊九町・十六町 京都市右京区西院三蔵町,京都文化博物館,108-116.
- パリノ・サーヴェイ株式会社,2003,自然科学分析の成果. 向日市埋蔵文化財調査報告書第 61 集,長岡京跡・物集女車塚周辺遺跡,財団法人 向日市埋蔵文化財センター,270-283.
- パリノ・サーヴェイ株式会社,2008,6. 付章 自然科学分析 .39-62. 京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2008- 7 平安京右京六条一坊三町跡,(財)京都市埋蔵文化財研究所.
- Round, F. E., Crawford, R. M. & Mann, D. G.1990,The diatoms. Biology & morphology of the genera. 747p. Cambridge University Press, Cambridge.
- 田中正昭,2002,日本淡水産動・植物プランクトン図鑑 .584p.
- Vos, P.C. & H. de Wolf,1993,Diatoms as a tool for reconstructing sedimentary environments in coastal wetlands; methodological aspects.Hydrobiologica,269/270,285-296.
- 渡辺 仁治・浅井 一視・大塚 泰介・辻 彰洋・伯耆 晶子,2005,淡水珪藻生態図鑑. 内田老鶴圃,666p.
- 柳沢 幸夫,2000,II - 1 - 3 - 2 - (5) 計数・同定. 化石の研究法—採集から最新の解析法まで—,化石研究会, 共立出版株式会社,49-50.
- Witkowski, A., & Lange-Bertalot, H. & Metzeltin, D.,2000, Iconographia Diatomologica 7. Diatom flora of Marine coast I. A.R.G.Gantner Verlag K.G., 881p.



- 1 . *Nitzschia umbonata* (Ehr.) Lange-B. (1 地点; 3)
- 2 . *Hantzschia amphioxys* (Ehr.) Grunow (1 地点; 1)
- 3 . *Nitzschia palea* (Kuetz.) W.Smith (2 地点; 1)
- 4 . *Navicula veneta* Kuetzing (1 地点; 2)
- 5 . *Sellaphora pupula* (Kuetz.) Mereschkowsky (1 地点; 2)
- 6 . *Surirella angusta* Kuetzing (2 地点; 1)
- 7 . *Pinnularia subcapitata* var. *paucistriata* (Grun.) Cleve (1 地点; 1)
- 8 . *Lemnocola hungarica* (Grunow) Round & Basson (縦溝殻: 1 地点; 1)
- 9 . *Lemnocola hungarica* (Grunow) Round & Basson (無縦溝殻: 1 地点; 1)
- 10 . *Luticola mutica* (Kuetz.) D.G.Mann (1 地点; 2)
- 11 . *Gomphonema parvulum* (Kuetz.) Kuetzing (1 地点; 2)
- 12 . *Amphora montana* Krasske (1 地点; 1)
- 13 . *Diadesmis confervacea* Kuetzing (1 地点; 1)
- 14 . *Staurosira venter* (Ehren.) H.Kobayasi (1 地点; 3)

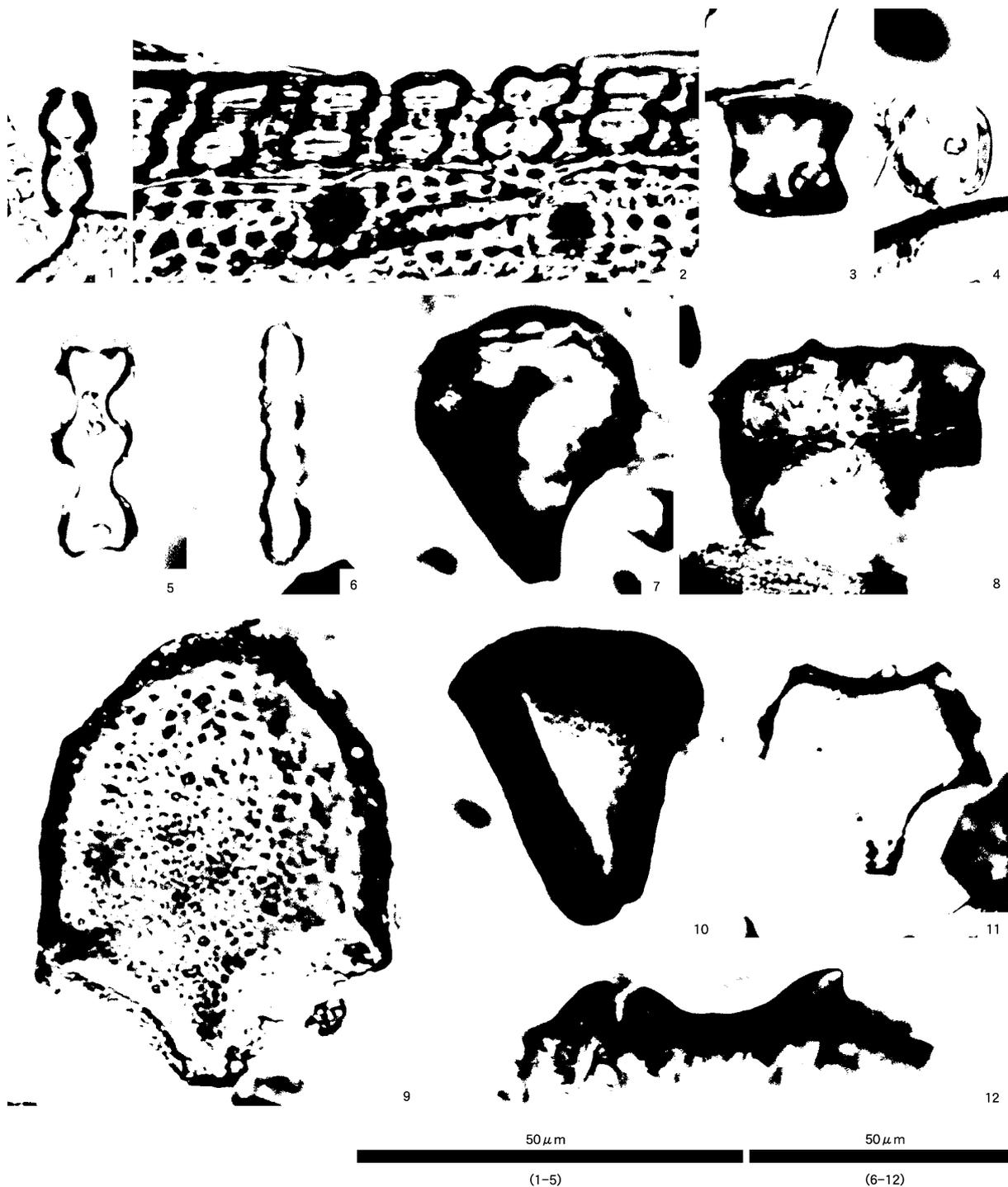
図 36 珪藻化石



- 1 . モミ属 (1地点; 3)
- 3 . マツ属 (2地点; 1)
- 5 . イチイ科—イヌガヤ科—ヒノキ科 (1地点; 3)
- 7 . アカガシ亜属 (1地点; 3)
- 9 . センダン属 (1地点; 2)
- 11 . ハス属 (1地点; 3)
- 13 . ミズアオイ属 (1地点; 3)

- 2 . ツガ属 (1地点; 3)
- 4 . スギ属 (1地点; 3)
- 6 . ソバ属 (1地点; 1)
- 8 . カヤツリグサ科 (1地点; 3)
- 10 . イネ科 (1地点; 3)
- 12 . ベニバナ属 (2地点; 1)

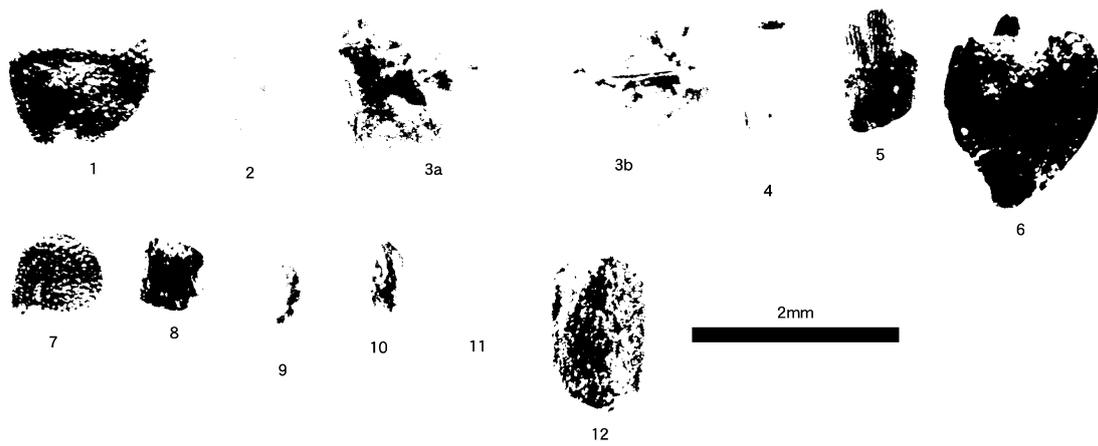
図 37 花粉化石



1. イネ属短細胞珪酸体 (1地点; 1)
3. ネザサ節短細胞珪酸体 (1地点; 3)
5. ススキ属短細胞珪酸体 (1地点; 1)
7. イネ属機動細胞珪酸体 (1地点; 1)
9. ヨシ属機動細胞珪酸体 (1地点; 3)
11. シバ属機動細胞珪酸体 (1地点; 1)

2. イネ属短細胞列 (1地点; 3)
4. ヨシ属短細胞珪酸体 (1地点; 3)
6. イチゴツナギ亜科短細胞珪酸体 (1地点; 2)
8. ネザサ節機動細胞珪酸体 (1地点; 3)
10. ウシクサ族機動細胞珪酸体 (1地点; 1)
12. イネ属穎珪酸体 (1地点; 3)

図 38 植物珪酸体



- | | |
|-----------------------|-----------------------|
| 1 . ヒサカキ 種子 (1 地点) | 2 . オモダカ科 種子 (1 地点) |
| 3 . イボクサ 種子 (1 地点) | 4 . ホシクサ属 種子 (1 地点) |
| 5 . イネ 穎 (1 地点) | 6 . ホタルイ属 果実 (1 地点) |
| 7 . スベリヒユ科 種子 (1 地点) | 8 . アカザ科 種子 (1 地点) |
| 9 . タガラシ 果実 (1 地点) | 10 . アリノトウグサ 核 (1 地点) |
| 11 . チドメグサ属 果実 (1 地点) | 12 . タカサブロウ 果実 (1 地点) |

図 39 種実化石

付表1 掲載土器一覧表

番号	器種	器形	遺構名	口径cm	器高cm	底径cm	残存率	色調	備考
1	土師器	杯	池550	13.1	3.5		25%	10YR7/3にぶい黄橙色	
2	土師器	杯	池550	13.4	3.4		25%	10YR7/3にぶい黄橙色	
3	土師器	杯	池550	13.3			30%	10YR7/3にぶい黄橙色	
4	土師器	杯	池550	14.0	(3.4)		25%	10YR7/3にぶい黄橙色	
5	土師器	杯	池550	15.2	(3.2)		30%	10YR7/2にぶい黄橙色	
6	土師器	杯	池550	14.3	(3.2)		30%	10YR7/3にぶい黄橙色	
7	土師器	杯	池550	15.8	(2.7)		20%	10YR8/2灰白色	
8	土師器	杯	池550	14.4	(3.4)		20%	10YR7/2にぶい黄橙色	
9	土師器	杯	池550	16.0	5.1	6.4	35%	10YR7/4にぶい黄橙色	暗文 高台
10	土師器	椀	池550	15.3	4.6	6.3	35%	10YR7/2にぶい黄橙色	
11	土師器	皿	池550	13.6	1.6		15%	10YR7/4にぶい黄橙色	墨書
12	土師器	皿	池550	19.4	(2.2)		25%	7.5YR7/3にぶい橙色	
13	土師器	皿	池550	16.8	2.2		45%	5YR6/6にぶい黄橙色	
14	土師器	皿	池550	9.2	1.6		80%	2.5Y6/6にぶい黄橙色	
15	土師器	皿	池550	9.5	1.5		100%	10YR7/4にぶい黄橙色	
16	土師器	皿	池550	14.7	2.0		30%	10YR7/3にぶい黄橙色	墨書
17	土師器	甕	池550	24.0			10%	10YR6/2灰黄褐色	
18	須恵器	蓋	池550		3.2	14.0	40%	N6/0灰色	墨書
19	須恵器	蓋	池550		1.7	16.1	15%	N4/0灰色	墨痕 転用硯
20	須恵器	蓋	池550		2.2	16.1	25%	N5/0灰色	
21	須恵器	蓋	池550			16.6	30%	N5/0灰色	墨痕 転用硯
22	須恵器	杯	池550	14.4	5.0	9.9	20%	N5/0灰色	
23	須恵器	杯	池550	12.2	4.3	8.3	25%	N5/0灰色	
24	須恵器	杯	池550	15.9	5.4	10.9	30%	N6/0灰色	
25	須恵器	鉢	池550	13.0			10%	7.5Y5/1灰色	
26	須恵器	甕	池550	18.7			20%	N4/0灰色	
27	黒色土器	椀	池550	18.3			25%	10YR6/3にぶい黄橙色	
28	黒色土器	甕	池550	17.5			20%	2.5Y5/2暗灰黄色	
29	黒色土器	甕	池550	19.4			15%	7.5YR4/1褐灰色	
30	緑釉陶器	椀	池550	13.2	4.1	6.0	25%	10YR8/2灰白色	
31	緑釉陶器	椀	池550	17.3			30%	2.5Y8/2灰白色	
32	緑釉陶器	椀	池550	17.6	4.7	7.4	10%	10YR8/2灰白色	
33	緑釉陶器	椀	池550	10.6	2.9	4.4	25%	10YR8/2灰白色	
34	緑釉陶器	椀	池550			6.8		7.5YR6/3にぶい黄橙色	
35	緑釉陶器	椀	池550			9.4		2.5Y7/3浅黄色	
36	緑釉陶器	皿	池550			7.5		5Y7/2灰白色	
37	緑釉陶器	羽釜	池550				20%	2.5Y7/2灰黄色	
38	灰釉陶器	皿	池550	17.2			10%	7.5Y7/1灰白色	
39	灰釉陶器	椀	池550			8.6	15%	10YR7/1灰白色	
40	灰釉陶器	椀	池550	10.8	3.2	5.7	25%	2.5Y7/1灰白色	

番号	器種	器形	遺構名	口径cm	器高cm	底径cm	残存率	色調	備考
41	灰釉陶器	椀	池550			7.5	20%	10YR8/1~8/2灰白色	
42	灰釉陶器	椀	池550			7.0	30%	2.5Y7/2灰黄色	
43	灰釉陶器	壺	池550	7.9			15%	5Y6/1灰色	
44	土師器	皿	井戸521	13.6			15%	10YR7/3にぶい黄橙色	
45	黒色土器	椀	井戸521			7.9	40%	7.5YR6/3にぶい黄橙色	
46	黒色土器	椀	井戸521	29.1	5.7	8.1	50%	7.5YR6/4にぶい橙色	
47	黒色土器	風字硯	井戸521					N3/0暗灰色	
48	黒色土器	甕	井戸521	14.6			30%	N3/0暗灰色	
49	須恵器	瓶子	井戸521	4.7			60%	N5/0灰色	
50	須恵器	瓶子	井戸521	3.8			50%	N6/0灰色	
51	灰釉陶器	壺	井戸521	11.6			50%	2.5Y7/1灰白色	
52	土師器	皿	井戸471	8.7	1.5	6.2	100%	2.5Y8/1灰白色	
53	土師器	皿	井戸471	9.7	1.5		50%	10YR7/3にぶい黄橙色	
54	土師器	皿	井戸471	9.7	1.5		90%	10YR7/3にぶい黄橙色	
55	土師器	皿	井戸471	10.0	1.6		40%	7.5YR6/4にぶい橙色	
56	土師器	皿	井戸471	10.1	1.7		100%	7.5YR7/3にぶい橙色	
57	土師器	皿	井戸471	12.5	(1.4)		50%	10YR7/3にぶい黄橙色	
58	土師器	皿	井戸471	9.3	1.5		60%	10YR7/3にぶい黄橙色	
59	土師器	皿	井戸472	15.7			15%	2.5Y7/3浅黄色	
60	土師器	皿	井戸472	10.3	(1.1)		40%	7.5YR7/3にぶい黄橙色	
61	土師器	皿	井戸323	8.9	1.8		25%	10YR7/3にぶい黄橙色	
62	土師器	皿	井戸323	15.0			15%	7.5YR7/4にぶい黄橙色	
63	土師器	皿	井戸323	16.3			15%	10YR7/2にぶい黄橙色	
64	土師器	羽釜	井戸323	27.0			90%	2.5Y8/2灰白色	
65	瓦器	皿	井戸32	7.8	1.9		25%	N4/0灰色	
66	土師器	皿	井戸32	8.5	1.7		25%	2.5Y7/2灰黄色	
67	土師器	皿	井戸32	8.5	1.7		20%	10YR7/3にぶい黄橙色	
68	土師器	皿	井戸32	13.3			15%	7.5YR7/3にぶい黄橙色	
69	土師器	皿	井戸32	14.9	(2.8)		10%	7.5YR7/4にぶい黄橙色	
70	瓦質土器	鍋	井戸32	23.7			15%	N4/0灰色	
71	土師器	皿	井戸298	8.6	1.6		50%	2.5Y7/2灰黄色	
72	土師器	皿	井戸298	8.6	1.5		40%	2.5Y7/3浅黄色	
73	土師器	皿	井戸430	9.2	2.0		35%	10YR7/3にぶい黄橙色	
74	土師器	皿	井戸430	9.7	1.6		40%	2.5Y7/3浅黄色	
75	土師器	皿	井戸430	9.7	(1.8)		20%	2.5Y7/2灰黄色	
76	土師器	皿	井戸430	15.0	2.3		15%	10YR6/3にぶい黄橙色	
77	土師器	皿	井戸538	9.8	2.7		100%	10YR7/2にぶい黄橙色	
78	土師器	皿	井戸538	8.8	1.9		90%	10YR7/3にぶい黄橙色	
79	土師器	皿	井戸538	8.9	2.0		90%	7.5YR8/4浅黄橙色	
80	土師器	皿	井戸538	9.1	1.5		90%	10YR7/2にぶい黄橙色	

番号	器種	器形	遺構名	口径cm	器高cm	底径cm	残存率	色調	備考
81	土師器	皿	井戸538	9.1	1.8		25%	7.5YR7/3にぶい橙色	
82	土師器	皿	井戸538	9.3	1.8		45%	10YR8/2灰白色	
83	土師器	皿	井戸538	9.3	1.5		75%	10YR7/3にぶい黄橙色	穿孔
84	土師器	皿	井戸538	9.9	15.6		40%	7.5YR7/4にぶい橙色	
85	土師器	皿	井戸538	11.5	2.1		40%	10YR7/2にぶい黄橙色	
86	土師器	皿	井戸538	14.2	(3.3)		40%	7.5YR7/4にぶい橙色	
87	土師器	皿	井戸538	14.1	2.6		90%	10YR7/2にぶい黄橙色	
88	須恵器	壺	井戸538			10.3		N5/9灰色	
89	瓦器	椀	井戸538	15.6	5.0	5.2	25%	N4/0灰色	
90	瓦質土器	播鉢	井戸538	30.6	13.5		20%	N4/0灰色	
91	土師器	皿	井戸5	7.5	1.1		20%	10YR7/3にぶい黄橙色	
92	土師器	皿	井戸5	8.9			30%	10YR7/2にぶい黄橙色	
93	土師器	皿	井戸5	11.5			15%	10YR7/3にぶい黄橙色	
94	土師器	皿	井戸6	11.3	1.7		15%	10YR7/4にぶい黄橙色	
95	土師器	皿	井戸6	11.8			20%	10YR7/4にぶい黄橙色	
96	土師器	皿	井戸6	12.4			20%	10YR8/2灰白色	
97	土師器	皿	井戸221	7.3	1.5		25%	10YR7/2にぶい黄橙色	
98	土師器	皿	井戸221	13.6	3.7		80%	10YR7/3にぶい黄橙色	
99	土師器	皿	井戸559	8.8			20%	10YR7/2にぶい黄橙色	
100	土師器	皿	井戸8	9.9	2.0		50%	10YR7/3にぶい黄橙色	
101	土師器	皿	井戸514	7.8	1.3		30%	10YR7/3にぶい黄橙色	
102	土師器	皿	井戸514	7.1	1.4		30%	10YR7/2にぶい黄橙色	
103	土師器	皿	井戸514	11.7	2.5		15%	10YR8/2灰白色	
104	土師器	皿	井戸514	12.7			20%	10YR7/3にぶい黄橙色	
105	瓦質土器	小鉢	井戸514	6.5			25%	10YR7/2にぶい黄橙色	
106	須恵器	鉢	井戸514	27.2	9.8	9.2	20%	5Y5/1灰色	
107	土師器	皿	土坑19	7.4	1.7		90%	7.5YR8/4浅黄橙色	
108	土師器	皿	土坑19	7.4	1.7		100%	7.5YR7/4にぶい橙色	
109	土師器	皿	土坑19	7.4	1.7		90%	7.5YR7/4にぶい橙色	
110	土師器	皿	土坑19	7.8	1.7		100%	7.5YR8/4浅黄橙色	
111	土師器	皿	土坑19	7.8	1.7		80%	7.5YR7/4にぶい橙色	
112	土師器	皿	土坑19	7.8	1.6		100%	7.5YR7/4にぶい橙色	
113	土師器	皿	土坑19	7.8	1.6		100%	7.5YR7/4にぶい橙色	
114	土師器	皿	土坑19	7.9	1.7		100%	7.5YR7/4にぶい橙色	
115	土師器	皿	土坑19	8.3	1.8		90%	10YR8/3浅黄橙色	
116	土師器	皿	土坑19	10.4	2.4		90%	7.5YR7/4にぶい橙色	
117	土師器	皿	土坑19	10.4	2.5		50%	7.5YR7/4にぶい橙色	
118	土師器	皿	土坑19	10.5	2.3		90%	7.5YR7/4にぶい橙色	
119	土師器	皿	土坑19	10.6	2.3		100%	7.5YR7/4にぶい橙色	
120	土師器	皿	土坑19	10.6	2.2		65%	7.5YR7/4にぶい橙色	

番号	器種	器形	遺構名	口径cm	器高cm	底径cm	残存率	色調	備考
121	土師器	皿	土坑19	10.5	2.3		90%	7.5YR7/4にぶい橙	
122	土師器	皿	土坑19	6.2	2.0		80%	10YR8/1灰白色	
123	土師器	皿	土坑19	6.2	1.8		100%	10YR8/1灰白色	
124	土師器	皿	土坑19	6.3	2.0		90%	2.5YR8/2灰白色	
125	土師器	皿	土坑19	6.3	2.0		65%	2.5YR8/2灰白色	
126	土師器	皿	土坑19	6.4	2.2		80%	2.5YR8/2灰白色	
127	土師器	皿	土坑19	6.4	2.1		100%	10YR8/1灰白色	
128	土師器	皿	土坑19	6.6	1.9		90%	10YR8/2灰白色	
129	土師器	皿	土坑19	6.6	2.0		100%	10YR8/1灰白色	
130	土師器	皿	土坑19	6.7	1.9		100%	10YR8/2灰白色	
131	土師器	皿	土坑19	7.0	2.0		100%	10YR8/1灰白色	
132	土師器	皿	土坑19	7.3	2.0		100%	10YR8/1灰白色	
133	土師器	皿	土坑19	11.2	2.9		80%	2.5YR8/1灰白色	
134	土師器	皿	土坑19	11.3	3.0		80%	2.5YR8/2灰白色	
135	土師器	皿	土坑19	11.4	3.1		50%	2.5YR8/2灰白色	
136	土師器	皿	土坑19	11.4	2.6		65%	2.5YR8/1灰白色	
137	土師器	皿	土坑19	11.4	3.0		50%	2.5YR8/2灰白色	
138	土師器	皿	土坑19	11.5	3.0		50%	2.5YR8/2灰白色	
139	土師器	皿	土坑19	13.5	3.9		90%	7.5YR8/3浅黄橙色	
140	瓦質土器	小壺	土坑19	2.0	3.8		100%	2.5Y7/1灰白色	
141	土師器	皿	土坑7	7.2	1.5		90%	10YR7/2にぶい黄橙色	
142	土師器	皿	土坑7	7.2	1.6		90%	7.5YR8/3浅黄橙色	
143	土師器	皿	土坑7	7.2	1.5		80%	7.5YR7/3にぶい橙色	
144	土師器	皿	土坑7	7.2	1.4		65%	7.5YR7/4にぶい橙色	
145	土師器	皿	土坑7	7.2	1.7		90%	10YR7/3にぶい黄橙色	
146	土師器	皿	土坑7	7.3	1.5		90%	7.5YR7/3にぶい橙色	
147	土師器	皿	土坑7	7.2	1.9		90%	7.5YR7/4にぶい橙色	
148	土師器	皿	土坑7	7.3	1.8		65%	5YR7/6にぶい橙色	
149	土師器	皿	土坑7	7.3	1.7		100%	7.5YR7/3にぶい橙色	
150	土師器	皿	土坑7	7.3	1.6		90%	7.5YR7/4にぶい橙色	
151	土師器	皿	土坑7	7.4	1.5		60%	7.5YR7/4にぶい橙色	
152	土師器	皿	土坑7	7.4	1.6		90%	7.5YR7/3にぶい橙色	
153	土師器	皿	土坑7	7.2	1.2		50%	7.5YR6/4にぶい橙色	
154	土師器	皿	土坑7	7.4	1.7		100%	7.5YR7/4にぶい橙色	
155	土師器	皿	土坑7	7.4	1.8		90%	7.5YR7/4にぶい橙色	
156	土師器	皿	土坑7	7.4	1.7		90%	10YR7/3にぶい黄橙色	
157	土師器	皿	土坑7	7.4	1.6		90%	7.5YR7/4浅黄橙色	
158	土師器	皿	土坑7	7.4	1.7		90%	7.5YR6/4にぶい橙色	
159	土師器	皿	土坑7	7.4	1.5		100%	7.5YR8/3にぶい橙色	
160	土師器	皿	土坑7	7.5	1.3		60%	7.5YR7/3にぶい橙色	

番号	器種	器形	遺構名	口径cm	器高cm	底径cm	残存率	色調	備考
161	土師器	皿	土坑7	7.5	1.8		100%	10YR7/3にぶい橙色	
162	土師器	皿	土坑7	7.5	1.9		100%	7.5YR7/4にぶい橙色	
163	土師器	皿	土坑7	7.5	1.4		90%	7.5YR7/4にぶい橙色	
164	土師器	皿	土坑7	7.5	1.8		90%	7.5YR6/4にぶい橙色	
165	土師器	皿	土坑7	7.6	1.7		90%	7.5YR7/4にぶい橙色	
166	土師器	皿	土坑7	7.6	1.9		90%	7.5YR7/4にぶい橙色	
167	土師器	皿	土坑7	7.6	1.9		100%	7.5YR7/4にぶい橙色	
168	土師器	皿	土坑7	7.6	1.5		80%	7.5YR6/4にぶい橙色	
169	土師器	皿	土坑7	7.6	1.7		90%	10YR7/4にぶい黄橙色	
170	土師器	皿	土坑7	7.6	1.7		90%	7.5YR7/4にぶい黄橙色	
171	土師器	皿	土坑7	7.6	1.8		65%	10YR6/2灰黄褐色	
172	土師器	皿	土坑7	7.6	1.7		100%	10YR7/3にぶい黄橙色	
173	土師器	皿	土坑7	7.7	1.8		50%	10YR7/3にぶい黄橙色	
174	土師器	皿	土坑7	7.7	1.8		80%	7.5YR7/4にぶい橙色	
175	土師器	皿	土坑7	7.7	1.5		100%	7.5YR7/4にぶい橙色	
176	土師器	皿	土坑7	7.7	1.9		100%	7.5YR7/4にぶい橙色	
177	土師器	皿	土坑7	7.7	1.7		100%	7.5YR7/5にぶい橙色	
178	土師器	皿	土坑7	7.7	1.6		90%	7.5YR7/4にぶい橙色	
179	土師器	皿	土坑7	7.7	1.7		80%	7.5YR7/3にぶい橙色	
180	土師器	皿	土坑7	7.7	1.6		90%	7.5YR7/4にぶい橙色	
181	土師器	皿	土坑7	7.7	1.7		90%	7.5YR7/10にぶい橙色	
182	土師器	皿	土坑7	7.4	1.6		90%	10YR7/3にぶい黄橙色	
183	土師器	皿	土坑7	7.8	1.7		90%	10YR7/3にぶい黄橙色	
184	土師器	皿	土坑7	7.8	1.6		50%	7.5YR6/4にぶい橙色	
185	土師器	皿	土坑7	7.8	1.7		90%	10YR7/4にぶい黄橙色	
186	土師器	皿	土坑7	7.9	1.7		90%	7.5YR7/4にぶい橙色	
187	土師器	皿	土坑7	7.9	1.5		90%	10YR7/4にぶい黄橙色	
188	土師器	皿	土坑7	7.9	1.6		75%	10YR7/3にぶい黄橙色	
189	土師器	皿	土坑7	7.9	1.9		80%	7.5YR7/4にぶい橙色	
190	土師器	皿	土坑7	7.9	1.7		90%	7.5YR7/4にぶい橙色	
191	土師器	皿	土坑7	7.9	1.7		80%	7.5YR7/3にぶい橙色	
192	土師器	皿	土坑7	7.9	1.6		90%	10YR7/4にぶい黄橙色	
193	土師器	皿	土坑7	8.0	1.8		90%	7.5YR6/4にぶい橙色	
194	土師器	皿	土坑7	8.0	1.5		90%	7.5YR7/4にぶい橙色	
195	土師器	皿	土坑7	8.1	1.7		90%	7.5YR7/3にぶい橙色	
196	土師器	皿	土坑7	9.4	1.7		90%	10YR8/3浅黄橙色	
197	土師器	皿	土坑7	9.4	2.1		60%	7.5YR8/4浅黄橙色	
198	土師器	皿	土坑7	9.5	1.7		90%	10YR8/3浅黄橙色	
199	土師器	皿	土坑7	9.5	2.1		90%	5YR7/6にぶい橙色	
200	土師器	皿	土坑7	9.5	2.0		85%	10YR7/3にぶい黄橙色	

番号	器種	器形	遺構名	口径cm	器高cm	底径cm	残存率	色調	備考
201	土師器	皿	土坑7	9.5	2.4		90%	7.5YR7/4にぶい橙色	
202	土師器	皿	土坑7	9.5	1.8		90%	10YR8/3浅黄橙色	
203	土師器	皿	土坑7	9.5	2.2		90%	7.5YR7/4にぶい橙色	
204	土師器	皿	土坑7	9.7	2.5		90%	7.5YR7/4にぶい橙色	
205	土師器	皿	土坑7	9.7	2.4		90%	7.5YR7/4にぶい橙色	
206	土師器	皿	土坑7	9.8	1.7		90%	10YR8/3浅黄橙色	
207	土師器	皿	土坑7	9.8	1.6		75%	10YR8/3浅黄橙色	
208	土師器	皿	土坑7	9.8	1.9		85%	7.5YR8/3浅黄橙色	
209	土師器	皿	土坑7	9.9	2.3		90%	7.5YR7/3にぶい黄橙色	
210	土師器	皿	土坑7	9.9	1.9		90%	10YR8/3浅黄橙色	
211	土師器	皿	土坑7	9.9	1.8		65%	10YR8/3浅黄橙色	
212	土師器	皿	土坑7	9.9	2.2		90%	5YR7/6にぶい橙色	
213	土師器	皿	土坑7	10.0	1.9		80%	7.5YR7/3にぶい黄橙色	
214	土師器	皿	土坑7	10.0	2.3		100%	10YR8/3浅黄橙色	
215	土師器	皿	土坑7	10.0	2.3		80%	5YR7/6橙色	
216	土師器	皿	土坑7	10.0	2.0		90%	7.5YR7/4にぶい橙色	
217	土師器	皿	土坑7	10.0	2.0		90%	10YR8/3浅黄橙色	
218	土師器	皿	土坑7	10.0	2.2		80%	7.5YR7/4にぶい黄橙色	
219	土師器	皿	土坑7	1.8	1.8		100%	10YR7/4にぶい黄橙色	
220	土師器	皿	土坑7	10.1	2.1		80%	5YR7/6にぶい橙色	
221	土師器	皿	土坑7	10.8	2.1		100%	10YR8/3浅黄橙色	
222	土師器	皿	土坑7	7.1	1.2		100%	7.5YR6/4にぶい橙色	
223	土師器	皿	土坑7	10.2	1.9		100%	7.5YR7/4にぶい橙色	
224	土師器	皿	土坑7	10.2	2.1		90%	10YR7/4にぶい黄橙色	
225	土師器	皿	土坑7	10.2	2.1		80%	5YR7/6橙色	
226	土師器	皿	土坑7	10.3	2.2		90%	10YR8/3浅黄橙色	
227	土師器	皿	土坑7	10.2	2.1		90%	7.5YR7/4にぶい橙色	
228	土師器	皿	土坑7	10.3	2.2		100%	7.5YR7/4にぶい黄橙色	
229	土師器	皿	土坑7	10.3	2.1		30%	5YR7/6淡橙色	
230	土師器	皿	土坑7	10.5	2.3		90%	10YR8/3浅黄橙色	
231	土師器	皿	土坑7	11.8	3.3		85%	10YR8/2灰白色	
232	土師器	皿	土坑16	8.0	2.5		90%	7.5YR8/3浅黄橙色	
233	土師器	皿	土坑16	8.3	2.5		90%	7.5YR8/2灰白色	
234	土師器	皿	土坑16	11.8	2.5		40%	7.5YR8/4浅黄橙色	
235	土師器	皿	土坑16	12.9	3.0		60%	7.5YR8/3浅黄橙色	
236	土師器	皿	土坑16	16.1	3.8		90%	2.5YR8/2灰白色	
237	土師器	皿	土坑16	17.9	3.9		60%	2.5YR8/2灰白色	
238	須恵器	甕	土坑526	27.4			15%	N4/0灰色	
239	須恵器	甕	土坑526	29.5			25%	N6/0灰色	
240	須恵器	甕	土坑526	32.8			20%	N5/0灰色	

番号	器種	器形	遺構名	口径cm	器高cm	底径cm	残存率	色調	備考
241	須恵器	甕	土坑526	37.4			40%	N3/0暗灰色	
242	須恵器	甕	土坑526	23.7			65%	N5/0灰色	
243	焼締陶器	甕	土坑4					N5/0灰色	備前
244	焼締陶器	甕	土坑4					10YR6/1褐灰色	備前
245	焼締陶器	甕	土坑4					5YR2/4極暗赤褐色	備前
246	焼締陶器	甕	土坑4					10YR2/3黒褐色	備前
247	焼締陶器	甕	第2層					7.5YR2/3極暗褐色	備前
248	焼締陶器	甕	第2層					N4/0灰色	備前
249	焼締陶器	甕	第2層					2.5Y2/1黒色	備前
250	焼締陶器	甕	第2層					N4/0灰色	常滑
251	焼締陶器	甕	第2層					7.5YR3/3暗褐色	常滑
280	青白磁	合子蓋	第1層		1.4	6.2	45%		
281	青白磁	合子身	柱穴23	4.8	2.4		20%		
282	白磁	合子蓋	第2層	8.2	1.4		10%		
283	白磁	合子身	土坑246						
284	白磁	四耳壺	溝141						
285	白磁	四耳壺	第2層						
286	白磁	水注	土坑120						
287	白磁	水注	柱穴43						
288	白磁	椀	第1層						
289	白磁	椀	土坑4						
290	白磁	椀	第2層						
291	白磁	椀	第2層	9.8	3.0		25%		
292	白磁	皿	第1層						
293	白磁	皿	第2層	10.5	2.5	3.1	50%		
294	白磁	皿	第1層						
295	白磁	皿	第1層	7.7	1.6		25%		
296	青磁	壺	第2層						
297	青磁	小壺	第2層	2.4	3.5		70%		
298	青磁	椀	土坑20						
299	青磁	椀	第2層						
300	青磁	皿	第2層						

版 图

報 告 書 抄 録

ふりがな	へいあんきょうさきょうはちじょうさんぼうきゅうちょうあと							
書名	平安京左京八条三坊九町跡							
シリーズ名	京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告							
シリーズ番号	2009-12							
編著者名	前田義明							
編集機関	財団法人 京都市埋蔵文化財研究所							
所在地	京都市上京区今出川通大宮東入元伊佐町265番地の1							
発行所	財団法人 京都市埋蔵文化財研究所							
発行年月日	西暦2010年3月31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
へいあんきょうあと 平安京跡 ひがしほんがんにまえこぼぐん 東本願寺前古墓群	きょうとししもぎょうく 京都市下京区 からすまどおりしちじょうさがる 烏丸通七条下る ひがしおこうじちょう 東塩小路町 ほか 590-2他	26100	1 719	34度 59分 18秒	135度 45分 34秒	2009年10月 15日～2009 年12月25日	721m ²	ビル建設 工事
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項			
平安京跡 東本願寺前古墓群	都城跡	平安時代	池、井戸、土坑	土師器、須恵器、黒色土器、緑釉陶器、灰釉陶器、輸入陶磁器、瓦、石製品、銭貨	平安時代前期から中期の池跡を検出。左京七条以南に貴族の邸宅の可能性。平安時代後期には町屋に変化。鎌倉時代の建物が四行八門制の区画の影響。			
	墓跡	鎌倉時代	建物、柱穴、井戸	土師器、須恵器、瓦器、焼締陶器、輸入陶磁器、塼、鏡、銭貨				
		室町時代	井戸、溝、土坑	土師器、瓦質土器、焼締陶器、輸入陶磁器、				
		江戸時代	土坑	銭貨				

京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2009-12
平安京左京八条三坊九町跡

発行日 2010年3月31日

編集 財団法人 京都市埋蔵文化財研究所

発行 京都市上京区今出川通大宮東入元伊佐町 265 番地の 1
住所 〒 602-8435 TEL 075-415-0521
<http://www.kyoto-arc.or.jp/>

印刷 三星商事印刷株式会社

住所 京都市中京区新町通竹屋町下る弁財天町 298 番地
〒 604-0093 TEL 075-256-0961